

授業科目	解剖学	1 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	松村博文 (保健医療学研究棟 E411 号) e-mail : hironura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口 徹、(中村宅雄)、(鈴木大輔)、(小林英司)、(中野正子)、(溝口照悟)		
概要	ヒトの病態や機能を理解するには、正常な人体の構造を理解しておくことが必須である。それゆえに解剖学は理学療法/作業療法学科の学生にとって最も重要な基礎科目のひとつとなっている。解剖学では、人体を構成する骨格系と筋系、神経系、心臓・脈管系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系、感覚器系において、各器官がどの様に構築され、またどのように機能と関連しているかを学習する。単なる暗記学問とならないためにも、人体の各構造物の科学的な意味と機能的関連を考えながら学習を進めることが肝要である。本講では座学だけでなく中枢神経系の構造の理解を深められるよう、脳実習や標本館での臓器見学もプログラムに組み入れている。筋骨格系の運動器や脈管系については本講でしっかりと基礎知識を習得し、2 年次におこなう解剖実習においてさらに理解を深めることとなる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な解剖学の人体各部の名称を記憶する。</li> <li>2. 各器官の機能を理解し、かつその関連を説明できる。</li> <li>3. 骨の形態と名称を正しく認識する。</li> <li>4. 関節の構造を理解する。</li> <li>5. 筋の起始停止、支配神経と作用を学ぶ。</li> <li>6. 脳神経の機能を理解する。</li> <li>7. 自律神経の仕組みを学習する。</li> <li>8. 中枢神経についての理解を深める。</li> <li>9. 発声器官を含む呼吸器の仕組みを学習する。</li> <li>10. 消化器系における実質臓器と中空臓器の構造を理解する。</li> <li>11. 動静脈系とリンパ系等の循環器の経路と心臓の構造および刺激伝導系を学習する。</li> <li>12. 膜に関する構造(クモ膜、軟膜、漿膜、壁側膜、臓側膜、間膜、腹膜後器官・・・)を理解する。</li> <li>13. 感覚器の構造を正しく説明できる。</li> <li>14. 泌尿生殖器の構造を正しく説明できる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学実習、生理学1、生理学2、運動学1、運動学2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	90%	
	スケッチ	10%	
教科書	①細田多穂、五味敏昭、浅井友詞、佐藤二美 [2015 年・6,480 円] 「運動器系解剖学テキスト」 南江堂 ②Wynn and Lawrence (著)、嶋井(訳) [2015 年・4,320 円] 「カラースケッチ解剖学 第4版」 廣川書店		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	人体の構造で理解すべき事項は広範囲におよび、解剖学用語(ノミナ)も膨大である。そのため知識の習得には日々の学習の積み重ねが欠かせない。そのため予習と復習を欠かさないこと。予習には教科書としてあげている運動器系解剖学テキストの該当頁を通読すること。また関連する局所解剖学の頁(340-478)も参照のこと。事後学習のためのカラースケッチ解剖学は講義時間中も活用するので、色鉛筆ともに毎回持参すること。標本館見学実習と脳実習は後半の適時に行う予定。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人体構造総論 骨学総論	事前:運動系解剖学テキスト2-30 通読、事後:カラースケッチ	講義	松村

		1, 2, 5, 10, 17-19		
2	骨学各論 1(体幹骨)	事前:運動系解剖学テキスト 30-37 通読, 事後:カラスケッチ 25-28	〃	〃
3	骨学各論 2(上肢骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 38-48 通読, 事後:カラスケッチ 29-34	〃	〃
4	骨学各論 3(下肢骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 48-59 通読, 事後:カラスケッチ 35-41	〃	〃
5	骨学各論 3(頭蓋骨)	事前:運動器系解剖学テキスト 60-69 通読, 事後:カラスケッチ 22-23, 128, 129	〃	〃
6	筋学総論	事前:運動器系解剖学テキスト 70-81 通読, 事後:カラスケッチ 11, 21	〃	〃
7	筋学各論 1(頭頸部の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 82-90 通読, 事後:カラスケッチ 44, 46	〃	〃
8	筋学各論 2(上肢の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 93-94, 105-120 通読, 事後:カラスケッチ 52, 58	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃
10	筋学各論 3(下肢の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 121-137 通読, 事後:カラスケッチ 60, 67	〃	〃
11	〃	〃	〃	〃
12	筋学各論 4(体幹の筋)	事前:運動器系解剖学テキスト 90-104 通読, 事後:カラスケッチ 48-50	〃	〃
13	神経総論	事前:運動器系解剖学テキスト 138-142 通読, 事後:カラスケッチ 13, 68-71, 84, 89	〃	〃
14	末梢神経系 1(脊髄神経系・脳神経系)	事前:運動器系解剖学テキスト 168-187 通読, 事後:カラスケッチ 70, 83-89	〃	〃
15	末梢神経系 2(自律神経系)	事前:運動器系解剖学テキスト 188-192 通読, 事後:カラスケッチ 91-93	〃	〃
16	中枢神経系 1(脊髄・脳幹・小脳)	事前:運動器系解剖学テキスト 157-165 通読, 事後:カラスケッチ 77-79, 85	〃	(小林)
17	中枢神経系 2(大脳)	事前:運動器系解剖学テキスト 154-156 通読, 事後:カラスケッチ 73-76, 80-82, 108	〃	(中野)
18	臓器総論 消化器系の構造と機能 1(口腔・咽頭)	事前:運動器系解剖学テキスト 237-243 通読, 事後:カラスケッチ 134-138	〃	松村

19	消化器系の構造と機能2	事前:運動器系解剖学テキスト 243-250 通読, 事後:カラースケッチ 134, 135, 137-141	〃	水口
20	消化器系の構造と機能3	事前:運動器系解剖学テキスト 251-254 通読, 事後:カラースケッチ 142, 143	〃	〃
21	循環器系の構造と機能1(心臓)	事前:運動器系解剖学テキスト 217-226 通読, 事後:カラースケッチ 101-106	〃	松村
22	循環器系の構造と機能2(動脈)	事前:運動器系解剖学テキスト 217-226 通読, 事後:カラースケッチ 101-105, 107, 109-113	〃	〃
23	循環器系の構造と機能3(静脈) 内分泌系・リンパ系	事前:運動器系解剖学テキスト 227-236 通読, 事後:カラースケッチ 116-121	〃	〃
24	呼吸器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 257-268 通読, 事後:カラースケッチ 127, 130-133	〃	〃
25	泌尿器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 269-277 通読, 事後:カラースケッチ 144-147	〃	〃
26	生殖器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 278-293 通読, 事後:カラースケッチ 155-161, 51	〃	(鈴木)
27	感覚器系の構造と機能	事前:運動器系解剖学テキスト 193-208 通読, 事後:カラースケッチ 90, 94-99	〃	(中村)
28	標本館見学実習(基礎医学棟8階)	事前:13回目～実施時点までの内容を 復習	観察実習	松村
29	脳実習(教育研究棟1地下 解剖実習室)	事前, 事後とも16, 17回内容を復習	実習	(小林) (溝口) (中野)
30	〃	〃	〃	〃

授業科目	解剖学実習	2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	松村博文 (保健医療学研究棟 E411 号) e-mail : hiromura@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木信裕、中村充雄、齊籐秀和、(鈴木大輔)		
概要	既習得の解剖学で得た知識を実際の人体を解剖し観察する。教育研究棟 I の地下の解剖実習室において、5 人の班で 1 体を用いて実施する。人体解剖では軟部組織に覆われ骨がみえないため筋の起始停止を認識しづらい。そのため最初の 4 回(2 日間)は、1 年で学習した骨学の知識を再確認し、さらに知識を深めるための骨スケッチをおこなう。5 回目(3 日目)以降は人体解剖を進める。初回から終わりまで医学部と合同でおこなうが、このような実習形式は全国にほとんど例のない本学の特色であり、相互に連携することによりハイレベルの習得が可能である。PT/OT の学生は主に、運動器、脈管、末梢神経系について解剖をおこなう。内臓についても医学部の学生によって解剖された臓器の観察により学習が可能である。単なる暗記学問とならないよう、1 年次に学習したことをしっかり復習したうえで、毎回予習をしたうえで進めることが肝要。解剖実習では、「より良い医療従事者になるために、自分の身体を使って十分に勉強して下さい」という願いをこめて献体されたご遺体を用いるので、解剖学の知識の習得と同時に、献体に対する感謝の気持ちと、その期待に応える責任と自覚を持って取り組むこと。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の各部を同定できる。</li> <li>2. 人体各部の名称の英名を習得する。</li> <li>3. 筋骨格の形態と機能と支配神経を理解する。</li> <li>4. 靭帯と関節の構造を学習する。</li> <li>5. 脈管神経の走行を理解する。</li> <li>6. 各臓器の構造と立体的な位置配置関係を理解する。</li> </ol>		
関連科目	解剖学、運動学 1、運動学 2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	口頭試問	90%	
	ノミナ試験	10%	
教科書	①F. H. Netter、相磯貞和 [2016 年・11,000 円] 「ネッター解剖学アトラス第 7 版」 南江堂 ②札幌医科大学解剖学第二講座編 [2024 年・1,500 円(予定)] 「解剖実習のマニュアル」 学内配布冊子		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医学部と共同で実習をおこなうため、医学部の実習に進行を合わせる必要がある。そのため、作業量の多い 5~8 回目(3,4 日目)の剥皮と皮下脂肪除去の作業は、時間的に夕方遅くまでかかることもあるので留意のこと。最後の納棺は医学部の実習がおわる 7 月上旬におこなう。</li> <li>2) スムースに実習を進めるためには、毎回必ず予習が必要。進行スケジュールは事前に配布する。</li> <li>3) 医学部の実習も十分に参考にしながらすすめること。</li> <li>4) マニュアルは実習初回までに販売配布の予定。</li> <li>5) 図譜なしに実習をすすめることはできないので、解剖学アトラスを必ず入手のこと。ネッターの旧版やネッター以外のアトラスでもかまわない。ネッターアトラスはやや高価であるが生涯にわたって活用できる。</li> <li>6) 白衣と上履きと手袋が必要。白衣は各自入手のこと。上履きは室内シューズであれば何でも良い。手袋とメスの替え刃は特定日に業者が実習室前で販売する。メスのハンドルとピンセットは貸与する。</li> </ol>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1, 2	骨実習 1(四肢・体幹骨)	事前: 実習マニュアル 第 1 回~4 回 (p. 13-57)	実習	松村

3, 4	骨実習 2(頭骨)	事前:実習マニュアル 第1回~4回 (p.13-57)	〃	松村・(鈴木)
5, 6	全身の剥皮	事前:マニュアル 第5回 (p.60-65)	〃	松村・青木・中村・齊藤・(鈴木)
7, 8	全身の皮下	事前:マニュアル 第6回 (p.66-71)	〃	〃
9, 10	背部の上肢帯筋 上肢の皮神経 ルンバール演習	事前:マニュアル 第7回 (p.72-78)	〃	〃
11, 12	腋窩 下肢の皮神経 大腿前面	事前:マニュアル 第8回 (p.79-93)	〃	〃
13, 14	腕神経叢 膝蓋骨と膝蓋靭帯 腹壁	事前:マニュアル 第9回 (p.94-101)	〃	〃
15, 16	頸部浅層 上腕伸側, 肩甲部 臀部	事前:マニュアル 第10回 (p.102-113)	〃	〃
17, 18	頸部深層 深背筋 大腿後面	事前:マニュアル 第11回 (p.114-129)	〃	〃
19, 20	前腕 下腿	事前:マニュアル 第12回 (p.130-139)	〃	〃
21, 22	手 足	事前:マニュアル 第13回 (p.140-153)	〃	〃
23, 24	腹膜と腰神経叢	事前:マニュアル 第14回 (p.165-169)	〃	〃
25, 26	口頭試問	事前:試問範囲 マニュアル 第5-24回	〃	〃
27, 28	白菊会総会 6月上旬 ノミナ試験(総会の前後の別日になることもある)	スーツ着用 事前:ノミナ試験マニュアル(第5-24回)の英名、	〃	〃
29, 30	納棺・再試・掃除 7月初旬に実施	事前:班ごとに献花用の花を持参のこと	〃	〃

授業科目	神経科学の基礎	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男、齊藤 正樹、(鶴飼 渉)		
概要	この科目では、脳の可塑性をテーマに、「神経系の発生・分化および成体の神経新生」「神経の変性と再生」「睡眠・覚醒の調節機構」「前頭葉機能と精神疾患」「精神疾患と精神薬理学」「ストレス反応と精神機能」「運動と精神機能」「脳研究の実際」について幅広く学習し、リハビリテーションが目標とする神経機能の回復に作用する神経科学的基盤を学ぶ。		
到達目標	1. 神経系の発生・分化、変性・再生、神経栄養因子の働きについて説明できる。 2. 運動発現、高次脳機能、睡眠・覚醒、学習と記憶、精神機能について神経科学的観点から説明ができる。 3. 神経の伝達科学と向精神薬の作用メカニズムについて説明できる。		
関連科目	生理学2、精神医学1、神経内科学、運動学1・2、臨床検査・薬理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	40%	
	レポート	60%	
教科書	指定なし		
参考書	①Kandel, E. R. 他 [ 2013 年 ] 「Principles of Neural Sciences 第5版」 McGraw Hill		
履修上の留意点	「神経科学の基礎」ではリハビリテーションにおいて重要な神経機能の回復や検査法の基盤に関して学ぶため、十分な復習を心がけて学習内容の理解に努めること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	神経系の発生・分化および成体の神経新生 神経系の発生・分化の機構、神経回路形成のメカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	講義	石井
2	神経の変性と再生 神経変性の過程と再生のメカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	齊藤
3	睡眠・覚醒の調節機構 睡眠と覚醒の神経調整メカニズムの理解	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	石井
4	前頭葉機能と精神疾患 意欲に関わる神経機構	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
5	精神疾患と精神薬理学 向精神薬の作用メカニズム	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	ストレス反応と精神機能 ストレス負荷が精神機能に及ぼす影響とその神経基盤	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	(鶴飼)
7	運動と精神機能 運動が精神機能に及ぼす影響とその神経基盤	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
8	脳研究の実際 精神疾患と神経幹細胞の機能異常	事前：講義内容の予習 事後：講義内容の復習	〃	〃

授業科目	生理学 1	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	丹野 雅也、水口 徹、久野 芳佳		
概要	生理学は生体機能を固体、器官、組織、細胞レベルで解明する学問である。本講では生体の恒常性の維持や基礎活動がどのように営まれているのかについて理解するため、循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御・調節機構を概説する。本講の内容は、2 年前期・後期において疾病の病態生理、診断、治療の理解を中心に学習する「内科学 1」「内科学 2」の基礎となる。		
到達目標	(1) 循環、呼吸、消化吸収、代謝、内分泌、排泄、体液、神経、筋、生殖、血液、免疫の制御機構について説明できる。 (3) 理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4) 臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる基礎知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学 2」 2 年次：「内科学 1」「内科学 2」		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	100%	
教科書	①上田 晃、内田 さえ、鍵谷 方子、原田 彰宏 [最新版] 「人体の構造と機能」 医歯薬出版		
参考書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。生理学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 1 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	循環の生理 (1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	講義	丹野
2	循環の生理 (2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
3	循環の生理 (3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
4	呼吸の生理 (1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
5	呼吸の生理 (2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

6	消化・吸収機能(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	水口
7	消化・吸収機能(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
8	腎臓・排泄の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	丹野
9	腎臓・排泄の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
10	内分泌・代謝の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
11	内分泌・代謝の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
12	内分泌・代謝の生理(3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
13	生殖機能と性の決定	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	久野
14	血液・免疫の生理(1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	丹野
15	血液・免疫の生理(2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃



授業科目	生理学2	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、(佐々木祐典)		
概要	人が環境に適応して活動する上で働く神経系の機能、すなわち動物的生理機能について、運動機能、感覚機能、高次脳機能などを通して学習する。主な学習内容としては「神経系の構成」「運動単位」「脊髄反射」「脳幹」「小脳」「大脳基底核」「大脳運動性皮質」「大脳連合野」「感覚器と感覚の種類」「体性感覚」「聴覚・平衡感覚」「視覚」「味覚・嗅覚」「自律神経系」である。これらの学習を通して、人の感覚・運動機能や高次脳機能の神経メカニズムについて理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系の構成について説明できる。</li> <li>2. 感覚器からの情報伝達、運動器への情報伝達のメカニズムについて説明できる。</li> <li>3. 中枢神経系における情報伝達、情報統合、反射機構について説明できる。</li> <li>4. 大脳の機能局在や感覚・運動メカニズムについて説明できる。</li> <li>5. 自律神経系の構成と機能の特徴について説明できる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学2・3、神経内科学、運動学1・2、精神医学1・2、臨床検査・薬理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	授業内容に対する理解度を筆記試験にて評価し、60 点以上を合格とする。
教科書	①岡田隆夫,長岡正範 [2018 年] 「標準理学療法学・作業療法学「生理学」」 医学書院 ②真島英信 [2018 年] 「生理学 新装版」 文光堂		
参考書	①Kandel, E. R. 他 [2012 年] 「Principles of Neural Science 第5版」 McGraw Hill ②本間研一 総監修 [2019 年] 「標準生理学 第9版」 医学書院		
履修上の留意点	「生理学2」で扱う学習内容はリハビリテーション領域にとって極めて重要な神経生理学が中心となるため、しっかり予習・復習をして理解を深めるように心掛けること。また、総論を中心に、講義の一部を看護学生と同時に(3 科合同で)開催する。講義日程、Zoom ID などは適時、学生サポートシステムを利用して履修者に連絡する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス/生理学総論/神経系の概要 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	講義	齊藤
2	興奮性膜の性質 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	筋の収縮 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	神経系の構成 (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
5	脊髄・脳幹・小脳(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	(佐々木)
6	大脳(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
7	感覚系(総論) (3 科合同)	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	齊藤

8	体性感覚 (3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
9	脊髄・脳幹・小脳(各論1)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(佐々木)
10	脊髄・脳幹・小脳(各論2)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
11	視覚・聴覚・平衡感覚(総論)(3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	齊藤
12	視覚・聴覚・平衡感覚(各論)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
13	自律神経系(総論) (3科合同)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
14	脊髄・脳幹・小脳(各論3)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(佐々木)
15	大脳(各論)	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

授業科目	生理学3	2 学年・前期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号 ) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤正樹、石井貴男、坂上真理、中島そのみ、中村裕二、中村充雄、森元隆文、横山和樹、齊藤秀和、早崎涼太、菅原和広、佐々木健史、井平 光、根木 亨、青木信裕、岩本えりか、田代英之、(佐々木祐典)		
概要	生理学1と生理学2で学んだ人体の植物的生理機能と動物的生理機能について計測を通して実体験する。計測を行う実習項目としては「循環機能」「呼吸機能」「基本筋電図」「誘発筋電図」「体性感覚」「平衡感覚」「視覚・聴覚」「脳波測定」「随意運動発現のメカニズム」の9項目である。また、計測で得られたデータを整理・解析し、これらをもとに実習報告としてレポートを作成する技術を習得する。これらの学習を通して、人の循環・呼吸機能、感覚・運動機能、脳機能について理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命維持に重要な心肺機能について理解し説明できる。</li> <li>2. 脳活動を反映する脳波について基本事項を理解し説明できる。</li> <li>3. 種々の感覚の持つ特性を理解し説明できる。</li> <li>4. 筋活動と運動機能、神経の情報伝達について理解し説明できる。</li> </ol>		
関連科目	生理学1・2、内科学1・2、神経内科学、運動学1・2、臨床検査・薬理学、精神医学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実習状況	20%	実習状況(参加状況、実習の理解度)と提出されたレポートの評価をもとに、総合で60点以上を合格とする。
	レポート評価	80%	
教科書	①指定なし		
参考書	①真島英信 [2018 年] 「生理学新装版」 文光堂		
履修上の留意点	<p>各 10 名程度の 4 グループに分かれて、各グループがローテーションしながら全 9 項目の実習を行う。実習時期は 3 期に分けられ、実習時間は 1 項目 4 時間(2 コマ)とする。各期の実習項目を以下に示す。</p> <p>I 期(実施回 2~13)</p> <p>実習 1: 「基本筋電図」筋活動を筋電計を用いて計測する。  実習 2: 「誘発筋電図」神経筋活動の情報伝達を神経刺激と筋電計を用いて計測する。  実習 3: 「呼吸機能」呼吸機能(呼吸曲線、呼吸気量、一秒率、呼吸運動)を呼吸器計を用いて計測する。  実習 4: 「視覚・聴覚」視聴覚を視力、視野、聴力測定により計測する。</p> <p>II 期(実施回 14~25)</p> <p>実習 5: 「循環機能」循環機能を心電計と血圧計を用いて計測する。  実習 6: 「平衡感覚」平衡感覚を重心動揺計を用いて計測する。  実習 7: 「体性感覚」体性感覚を皮膚表在感覚刺激により計測する。  実習 8: 「脳波測定」脳機能を脳波計を用いて計測する。</p> <p>III 期(実施回 26~30)</p> <p>実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」随意運動に伴う運動関連脳電位を計測する。また大脳皮質運動野を経頭蓋磁気刺激し誘発される運動を観察する。(PT・OT 学科毎に実習する)</p> <p>各自が実験者または被験者として身体の様々な生理機能の計測を体験する。  人体を用いて生理機能の計測を行うため、実習中は事故が起こらないように十分に注意すること。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーションと各実習項目に関する説明	事前: 実習項目の予習 事後: 実習書の復習	講義	齊藤

2	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	演習	青木・田代・齊藤(秀)・齊藤(正)・早崎・岩本・佐々木(健)・中村(充)
3	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
4	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
5	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
6	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前:データ収集とその解釈 事後:解析結果の復習	〃	〃
7	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前:関連文献の調査 事後:レポートの完成	〃	〃
8	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
9	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
10	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
11	実習1:「基本筋電図」 実習2:「誘発筋電図」 実習3:「呼吸機能」 実習4:「視覚・聴覚」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	〃
12	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前:データ収集とその解釈 事後:解析結果の復習	〃	〃
13	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前:関連文献の調査 事後:レポートの完成	〃	〃
14	実習5:「循環機能」 実習6:「平衡感覚」 実習7:「体性感覚」 実習8:「脳波測定」	事前:実習内容の予習 事後:実習内容の復習	〃	根木・横山・中島・中村(裕)・森元・齊藤

				(正)・石井・坂上
15	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
16	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
17	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
18	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前: データ収集とその解釈 事後: 解析結果の復習	〃	〃
19	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前: 関連文献の調査 事後: レポートの完成	〃	〃
20	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
21	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
22	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
23	実習 5: 「循環機能」 実習 6: 「平衡感覚」 実習 7: 「体性感覚」 実習 8: 「脳波測定」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
24	測定で得られたデータの整理と解析を行う。	事前: データ収集とその解釈 事後: 解析結果の復習	〃	〃
25	解析したデータをもとにレポートを作成する。	事前: 関連文献の調査 事後: レポートの完成	〃	〃
26	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	菅原・井平・(佐々木(秀))
27	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
28	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃
29	実習 9: 「随意運動発現のメカニズム」	事前: 実習内容の予習 事後: 実習内容の復習	〃	〃

30	測定で得られたデータの整理および解析とレポートの作成	事前：データ収集とその解釈 事後：データ解析とレポートの完成	〃	〃
----	----------------------------	-----------------------------------	---	---

授業科目	運動学1	1 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村充雄、青木信裕、齊藤秀和		
概要	運動学は身体運動を考究する学問であり、その知識は運動機能障害をもつ患者の評価・治療を担う理学療法士・作業療法士にとって必要不可欠なものである。本講義では、関節の構造と運動特性および関節運動を導く筋機能について学習するとともに、主要な骨ランドマークや筋の触知手法について学習し、身体運動を理解するための基礎知識と基礎技術を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体運動の仕組みを力学の観点から説明できる。</li> <li>2. 関節運動、身体運動に関して運動学用語を用いて記述できる。</li> <li>3. 正常姿勢の特性を理解し、姿勢変化を記述することができる。</li> <li>4. 上肢、下肢および体幹の各関節における構造、機能、および運動特性を説明できる。</li> <li>5. 骨関節のランドマークを理解し、適切に触診できる。</li> <li>6. 上肢、下肢および体幹における(主に体表に近い)筋の走行を理解し適切に触診できる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学、解剖学実習、運動学2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①嶋田智明 他(監訳) [2018年・13,500円] 「筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版」 医歯薬出版 ②林典雄 [2022年・6,156円] 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版」 メジカルビュー社 ③林典雄 [2022年・6,156円] 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版」 メジカルビュー社		
参考書	①中村隆一、齊藤宏(著) [2003年・7,344円] 「基礎運動学 第6版」 医歯薬出版		
履修上の留意点	触診の演習を含む授業は、適宜、露出が可能な服装を準備すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動学 総論	事前：筋骨格系解剖学の復習 事後：ワークシート	講義	谷口
2	筋骨格系運動学 総論(関節・筋の構造機能)	事前：筋骨格系解剖学の復習 事後：ワークシート	〃	〃
3	運動学の基本1 座標、位置、時間	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村
4	運動学の基本2 基底面、重心、身体運動の記述	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
5	運動学の基本3 力、トルク	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃

6	運動学の基本 4 テコの原理	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
7	姿勢の記述と理解 1(臥位)	事前：基本姿勢(姿勢の分類)の復習 事後：ワークシート	〃	〃
8	姿勢の記述と理解 2(立位)	事前：基本姿勢(姿勢の分類)の復習 事後：ワークシート	〃	〃
9	関節の構造特性と機能特性 1 股関節 1	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	講義・演習	青木
10	関節の構造特性と機能特性 2 股関節 2	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
11	関節の構造特性と機能特性 3 膝関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
12	関節の構造特性と機能特性 4 足関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
13	関節の構造特性と機能特性 5 体幹	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
14	関節の構造特性と機能特性 6 下肢・体幹まとめ	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
15	関節の構造特性と機能特性 7 肩関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村
16	関節の構造特性と機能特性 8 肘関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
17	関節の構造特性と機能特性 9 手関節	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
18	関節の構造特性と機能特性 10 上肢まとめ	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
19	筋の機能解剖と触診 1 下肢①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	青木
20	筋の機能解剖と触診 2 下肢②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
21	筋の機能解剖と触診 3 下肢③	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
22	筋の機能解剖と触診 4 下肢④	事前：配布資料およびテキストの pre-reading	〃	〃



		事後：配布資料の復習		
23	筋の機能解剖と触診5 体幹①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
24	筋の機能解剖と触診6 体幹②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
25	筋の機能解剖と触診7 上肢①	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	中村・齊藤
26	筋の機能解剖と触診8 上肢②	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
27	筋の機能解剖と触診9 上肢③	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
28	筋の機能解剖と触診10 上肢④	事前：配布資料およびテキストの pre-reading 事後：配布資料の復習	〃	〃
29	筋骨格系運動学 総合演習1	事前：触診演習 事後：ワークシート	〃	青木他・ 全教員
30	筋骨格系運動学 総合演習2	事前：触診演習 事後：ワークシート	〃	〃

授業科目	運動学2	2 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	山田崇史 (保健医療学部棟 E407 号) e-mail : takashi.yamada1976@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、山田崇史、菅原和広、佐々木健史、岩本えりか、根木 亨、青木裕信、田代英之、齊藤秀和、(宮城嶋沙織)		
概要	運動学1で修得した知識をもとに、運動発達、運動制御、運動学習などを学習する。さらに、種々の身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、その手法や身体運動・動作の仕組みについて理解することをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動学を力学の観点から理解し、関節運動や動作をその観点から説明できる。</li> <li>2. 運動発達の諸段階を説明できる。</li> <li>3. 姿勢や運動の制御を説明できる。</li> <li>4. 運動学習の基礎的理論を説明できる。</li> <li>5. 姿勢および平衡機能を分析、記述できる。</li> <li>6. 正常歩行を分析・記述できる。</li> <li>7. 筋の収縮からトルク発生までを、電気生理学的機器を用いて観察し、その結果について説明できる。</li> <li>8. 運動中の呼吸循環反応について運動生理学機器を用いて観察し、その結果について説明できる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学、生理学、運動学1、運動生理学、身体適応学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	50%	
	レポート	50%	
教科書	①中村隆一・齊藤宏・長崎浩 [2003 年] 「基礎運動学 第 6 版」 医歯薬出版		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	身体運動の発現 1	事後：講義・演習のまとめ	講義・演習	山田
2	身体運動の発現 2	〃	〃	〃
3	運動制御各論 1	〃	〃	菅原
4	運動制御各論 2	〃	〃	〃
5	運動制御総論 1	〃	〃	佐々木
6	運動制御総論 2	〃	〃	〃
7	運動学習 1	〃	〃	太田
8	運動学習 2	〃	〃	〃

9	運動発達 1	〃	〃	(宮城嶋)
10	運動発達 2	〃	〃	〃
11	姿勢制御 1	〃	〃	菅原・斎藤
12	姿勢制御 2	〃	〃	〃
13	運動学の理解(軌跡角度) 1	〃	〃	青木
14	運動学の理解(速度、加速度) 2	〃	〃	〃
15	筋力と筋電図 1	〃	〃	〃
16	筋力と筋電図 2	〃	〃	〃
17	身体重心と運動力学 1	〃	〃	〃
18	身体重心と運動力学 2	〃	〃	〃
19	動作時の運動力学 1	〃	〃	〃
20	動作時の運動力学 2	〃	〃	〃
21	動作筋電図による運動の理解 1	〃	〃	〃
22	動作筋電図による運動の理解 2	〃	〃	〃
23	呼吸循環代謝演習 1	〃	〃	岩本・根木
24	呼吸循環代謝演習 2	〃	〃	〃
25	基本動作の動作分析 1	〃	〃	青木
26	基本動作の動作分析 2	〃	〃	〃
27	歩行 1	〃	〃	〃
28	歩行 2	〃	〃	〃
29	歩行分析 1	〃	〃	青木・田代
30	歩行分析 2	〃	〃	〃

授業科目	運動生理学	3 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		作業	選択

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(武田秀勝)		
概要	身体運動をコントロールする様々な器官(脳・神経・骨格・筋・呼吸・循環・代謝・内分泌)に関する応用生理学的なメカニズムを学ぶ。特にリハビリテーションと関連した身体機能の向上と老化速度の意味するものを運動生理学の研究成果を基礎にそのメカニズムを理解する。また、各種トレーニング法の原理や運動と環境、エネルギーバランスと体重調整、運動と健康増進プログラムなどの理解を深める。		
到達目標	1. 体力を規定する身体諸機能について説明できる。 2. 運動が体力を規定する身体諸機能に及ぼす影響を説明できる。 3. 運動処方を構成する要素について説明できる。		
関連科目	生理学1、生理学2、生理学3、運動学1、運動学2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①玉木 彰 他 [2016 年] 「リハビリテーション運動生理学」 メジカルビュー社		
履修上の留意点	関連文献を授業終了後に調べ知識を深めることが望まれる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	運動生理学の概略、作業療法との接点、健康増進と運動	事前：なし 事後：配付資料を精読のこと	講義	仙石
2	エネルギー代謝、身体活動レベル	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	〃
3	骨格筋の種類・構造・機能、筋活動	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	〃
4	循環系の調整、トレーニングによる変化	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	(武田)
5	呼吸機能とガス交換、有酸素運動・無酸素運動	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	〃
6	各種疾患との関連・加齢の影響	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	〃
7	運動時の栄養素の利用、ミネラルと運動、活性酸素と運動	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	〃
8	環境とスポーツ、健康管理と健康増進	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍を確認	〃	仙石

授業科目	人間発達学 1	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	高橋義信 (教育研究棟 I C809 号) e-mail : yoshi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	人間発達がいかなるものか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、発達する生命体としての人間に対する理解を深める。またライフステージの各時期では、どのような形態機能的、認知的、社会情動的特徴があるのかを理解し、各時期にどのような発達上の問題が生じるのかを学ぶ。		
到達目標	1. 人間の発達の特徴を説明できる。 2. 人間の発達に影響を及ぼす主な要因を説明できる。		
関連科目	心理学、教育学、人間発達学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 レポートは、授業で取り上げられたテーマの中から、より深く学びたいテーマを選び、それを自分なりに調査し、まとめるというものです。テーマの選択の適切性、調査内容の範囲や正確性が重要な評価対象となります。
	レポート	90%	
	提出物	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①若井邦夫他 [2006 年] 「グラフィック乳幼児心理学」サイエンス社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	胎生期の栄養状態がその後の発達に及ぼす影響。エピジェネティックスを理解する。	事前学習：シラバスを読む。 事後学習：配布資料を復習する。	講義	高橋
2	新生児の視覚、聴覚とそれがどのように発達していくか	事前学習：参考書の該当箇所を読む。 事後学習：配布資料を復習する。	〃	〃
3	新生児期・乳児期の母子関係とそれが後の発達にどの程度影響を及ぼすか	〃	〃	〃
4	言語発達と臨界期の存在	〃	〃	〃
5	性同一性の形成とそれに影響する要因	〃	〃	〃
6	身長伸びとそれに影響を与える要因	〃	〃	〃
7	第二次性徴に影響を及ぼす要因と性淘汰	〃	〃	〃
8	青年期の自己同一性と職業選択	〃	〃	〃

授業科目	人間発達学2	2学年・前期・1単位(15時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	田畑久江(保健医療学研究棟E211号) e-mail: hisaet@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、今野美紀		
概要	本科目は人間発達学1を基盤として、小児期のリハビリテーションおよび看護に必要な運動、認知、知能の発達理論およびその評価に関する知識の提供を行う。特に、人間の胎児期から就学期までの発達原理の理解を深めるため、身体と精神、認知、情緒、社会性の発達が、横断的かつ縦断的に相互関係を持ちながらどのように育まれていくかに焦点を当て学習を行う。また、講義とともに関連書籍の精読を行い、レポートとしてまとめることも課題とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期の身体の発達と主な疾患を説明できる。</li> <li>2. 小児期の運動の発達を説明できる。</li> <li>3. 小児期の認知や知能の発達を説明できる。</li> <li>4. 1-3において、評価に関する知識を学ぶ。</li> </ol>		
関連科目	人間発達学1、心理学概論、教育学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	80%	レポートは提出状況と内容により評価する。
	レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①辛島千恵子[2020年]「人間発達とライフサイクル」理工図書		
履修上の留意点	人間発達学1を履修し合格していることが望ましい。		

実施回	内容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	人間発達の基盤とその障害について学ぶ	事前: なし 事後: 授業内容の振り返り	講義	仙石
2	身長・体重などの形態的発達の特徴	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
3	神経の発達から見た反射の変化	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
4	神経の発達から見た姿勢の変化	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
5	胎児期の発達と出生後の呼吸・循環機能	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	今野
6	骨髄、免疫の発達など	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	田畑
7	消化器、腎機能など	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	〃
8	生活環境や習慣と発達との関連	事前: 配付資料を精読 事後: 授業内容の振り返り	〃	今野

授業科目	病理学	1 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(市戸義久)、(一宮慎吾)、丹野雅也、(久野篤史)、(久保輝文)、(村田憲治)、(櫻井晃洋)、(宮西浩嗣)、(菰澤慎也)		
概要	病理学では、臨床に必要な病態の基礎となる病理学の総論を体系的に学習する。疾病と病理の関係・役割を理解する。細胞レベルで起きる組織の再生や修復のメカニズムを理解する。循環障害として浮腫・出血・血栓塞栓を理解する。炎症と免疫・移植拒絶について理解する。感染症について理解する。先天性代謝異常や遺伝異常症について理解する。老化と死について理解する。腫瘍の基礎を理解する。臨床病態を把握できる、基礎的な知識を涵養する。		
到達目標	疾病の病因を理解できるようになることを目的とする。下記の各項目について、基礎的知識を身に付け、要約できる。 1. 病理学の定義・病因 2. 細胞・組織の機能と障害, 3. 循環障害と凝固線溶異常, 4. 炎症・免疫・生体防御, 5. 感染症の病態、病原微生物の特性, 6. 先天性代謝異常・遺伝病, 7. 腫瘍性病変の特徴 *関連する国家試験問題に対して70%以上の正答を得ることが出来る。		
関連科目	解剖学、生理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	①大橋健一ら(編集) [最新版] 「[系統看護学講座 専門基礎分野] 病理学」 医学書院		
参考書	①小林正伸 (著) [最新版] 「病理学 病態形成の基本的な仕組み」 南山堂 ②医療情報科学研究所(編) [最新版] 「クエスチョン・バンク 理学療法士・作業療法士 国家試験問題解説共通問題」 MEDIC MEDIA		
履修上の留意点	学習内容の講義順序や講義時間が変更されることがあるので、学生掲示板などで逐次講義予定を確認すること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	病理学概説、病気の原因	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	炎症の概念、急性炎症、慢性炎症、炎症細胞	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
3	細胞の構造と機能、細胞障害、細胞増殖、細胞死	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(市戸)
4	組織再生、組織修復、創傷治癒、異物処理機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
5	老化の概念、老化機構、疾患との関連	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(一宮)
6	循環動態、浮腫、虚血、鬱血、ショック	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	丹野

		る。		
7	出血と止血機構、血栓形成、塞栓、梗塞、DIC	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
8	環境と栄養異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	代謝異常、脂質代謝異常、蛋白代謝異常	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久野)
10	免疫の概念、生体防御機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(久保)
11	免疫細胞、免疫組織、免疫認識機構、HLA、エフェクター機構	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(村田)
12	染色体異常、遺伝病、遺伝子診断、遺伝カウンセリング	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(櫻井)
13	発癌機構、進展と転移、癌の病期、診断の基礎	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮西)
14	感染微生物の種類、検出法、伝搬様式、感染病態	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(菲澤)
15	細菌感染症、ウイルス感染症、真菌感染症	事前：指定教科書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口



授業科目	内科学1	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業 理学	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	WHO により提唱された国際障害試案の機能障害に属する内部障害は、心臓、呼吸、腎尿路、消化などの内部機能障害の総称と定義される。また我が国の身体障害者福祉法では、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱直腸機能障害、小腸機能障害、HIV による免疫機能障害、肝機能障害の 7 つを内部障害(内部機能障害)と規定している。2 年前期で開講される内科学 1 は、内部障害の原因となる内科疾患の理解を目的に開講する。医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは、各種病態・疾患における適切なリハビリテーションの意義を理解し各々の患者に適切なケアを行う上で必須である。本講では幅広い内科的な疾病の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより理学療法士・作業療法士国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場での実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1) 様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2) 様々な疾患・病態の診断・治療の過程において適切なリハビリテーションの意義を説明できる。 (3) 理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4) 臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学2」 2 年次：「内科学2」「内部障害理学療法学」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①角田 亘、岡崎 史子 [最新版] 「リハビリテーションテキスト 内科学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点	2 年後期で開講する「内科学2」と併せて、系統臨床内科学として一連の講義を行う。 本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より 2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は 2 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	内科学総論	事後：資料の復習	講義	丹野
2	循環器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃

3	循環器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
4	循環器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
5	腎臓・泌尿器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
6	腎臓・泌尿器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
7	腎臓・泌尿器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
8	呼吸器疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
9	呼吸器疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
10	呼吸器疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
11	内分泌・代謝疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
12	内分泌・代謝疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
13	内分泌・代謝疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
14	消化管疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃
15	消化管疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：資料の復習	〃	〃

授業科目	内科学2	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	丹野 雅也 (保健医療学研究棟 E203 号) e-mail : tannom@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	WHO により提唱された国際障害試案の機能障害に属する内部障害は、心臓、呼吸、腎尿路、消化などの内部機能障害の総称と定義される。また我が国の身体障害者福祉法では、心臓機能障害、腎臓機能障害、呼吸機能障害、膀胱直腸機能障害、小腸機能障害、HIV による免疫機能障害、肝機能障害の 7 つを内部障害(内部機能障害)と規定している。2 年後期で開講される内科学 2 は、内部障害の原因となる内科疾患の理解を目的に開講する。医療の現場で行われている診断・治療の知識を習得することは、各種病態・疾患における適切なリハビリテーションの意義を理解し各々の患者に適切なケアを行う上で必須である。本講では幅広い内科的な疾病の診断・治療に関する医学的知識を概説する。これにより理学療法士・作業療法士国家試験に出題され得る内容を網羅し、かつ将来的に臨床の現場での実務に役立つ知識を提供する。		
到達目標	(1) 様々な疾患・病態の診断・治療について説明できる。 (2) 様々な疾患・病態の診断・治療の過程において適切なリハビリテーションの意義を説明できる。 (3) 理学療法士・作業療法士国家試験の関連分野の問題を理解・正答できる。 (4) 臨床の現場で理学療法士・作業療法士としての実務において応用できる知識を説明できる。		
関連科目	1 年次：「解剖学」「病理学」「生理学2」 2 年次：「内科学1」「内部障害理学療法学」		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	①武藤学 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 1 消化器」 MEDIC MEDIA ②鶴田ひかる 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 2 循環器」 MEDIC MEDIA ③森野勝太郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 3 糖尿病・代謝・内分泌」 MEDIC MEDIA ④巽浩一郎 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 4 呼吸器」 MEDIC MEDIA ⑤増田亜希子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 5 血液」 MEDIC MEDIA ⑥森尾友宏 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 6 免疫・膠原病・感染症」 MEDIC MEDIA ⑦尾上尚志 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 7 脳・神経」 MEDIC MEDIA ⑧池森(上條)敦子 他 [最新版] 「病気がみえる vol. 8 腎・泌尿器」 MEDIC MEDIA		
参考書	①角田 亘、岡崎 史子 [最新版] 「リハビリテーションテキスト 内科学」 MEDICAL VIEW		
履修上の留意点	2 年前期で開講する「内科学1」と併せて、系統臨床内科学として一連の講義を行う。 本学では理学療法学・作業療法学の基盤となる基礎知識体系である生理学、解剖学、病理学、内科学などを入学後より2 年間で学ぶ。これらは互いに関連がある学問であり、それぞれで学習した知識を体系付けて理解することが重要である。内科学は今後の理学療法学・作業療法学の履修、実践の上で基礎となる学問の一つである。理学療法士・作業療法士国家試験にも出題される内容を多く含むが、学習する機会は2 年次に限られるため、本講の履修とともに知識の習得を完結させることが望ましい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	肝・胆・膵疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	講義	丹野
2	肝・胆・膵疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃

3	血液疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
4	血液疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
5	血液疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
6	感染症(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
7	感染症(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
8	感染症(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
9	アレルギー・免疫疾患(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
10	アレルギー・免疫疾患(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
11	アレルギー・免疫疾患(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
12	高齢者と疾患・老年症候群(1)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
13	高齢者と疾患・老年症候群(2)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
14	高齢者と疾患・老年症候群(3)	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃
15	心電図判読の演習	事前：教科書該当部位の予習 事後：事業資料の復習	〃	〃

授業科目	神経内科学	2 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	リハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な臨床神経学の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき神経内科疾患を概説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経内科疾患を理解する上で、必要な神経解剖・神経生理の知識を修得する。</li> <li>2. 神経学的診断法および補助診断法の概要が説明できる。</li> <li>3. 代表的な神経内科疾患の原因、症状、治療が説明できる。</li> </ol>		
関連科目	内科学1、内科学2、小児科学、外科学、整形外科		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	国家試験に準じた多肢選択式の期末定期試験(100 点満点)で評価する。
教科書	①今井富裕 [2021 年] 「はじめての講義 リハビリテーションのための神経内科学の学び方」 南江堂		
参考書	①NPO 法人北海道医療連携ネットワーク [2022 年] 「あんしん生活ガイドブック」 昇夢虹 ②NPO 法人北海道医療連携ネットワーク [2019 年] 「脳卒中・急性心筋梗塞あんしん連携ノート」 昇夢虹 ③福岡県循環器病総合支援センター [2023 年] 「福岡県脳卒中あんしん連携ノート」 福岡県循環器病総合支援センター		
履修上の留意点	1→15 の順に学習する予定であるが、順序に変更のある場合や学習主題・学習内容に改変がある場合はあらかじめ通知する。評価方法・基準に変更がある場合は履修期間内に通知する。 講義内容は国家試験に必要な基礎知識にとどまらず、病棟、訓練室、訪問先にて主体的にリハビリテーション医療を展開できるよう、高度な知識、最新の知見にも触れるよう努める。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス/脳血管障害 1	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：教科書の練習問題を解く。	講義	齊藤
2	脳血管障害 2	〃	〃	〃
3	高次脳機能障害	〃	〃	〃
4	認知症 1	〃	〃	〃
5	認知症 2	〃	〃	〃
6	変性疾患 1	〃	〃	〃
7	変性疾患 2	〃	〃	〃
8	脱髄疾患	〃	〃	〃

9	脊髄疾患	〃	〃	〃
10	末梢神経疾患	〃	〃	〃
11	筋疾患	〃	〃	〃
12	神経感染症	〃	〃	〃
12	機能性疾患	〃	〃	〃
13	代謝・中毒疾患/内科疾患に伴う神経障害	〃	〃	〃
14	神経内科学トピックス・復習	〃	〃	〃
15	小児神経疾患	〃	〃	〃

授業科目	外科学	2 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 選択

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(原田敬介)、(巽 博臣)、(吉川裕介)、(秋山幸功)、(川原田 修義)、(宮島正博)、(高野賢一)、(杉村政樹)、(西田幸代)、(四ッ柳 高敏)、(島 宏彰)、(市戸義久)		
概要	外科治療における医療スタッフとして必要な基礎知識を習得する。専門領域ごとに術前管理・術後管理には特徴があり、本学を代表する専門講師陣により、基礎知識から高度専門領域までを網羅した近代外科を結集した包括的授業となる。国家試験に必要な知識はもとより、卒後の実地臨床で必要な知識に加え、生涯学習につながる将来の課題を見いだせることを目標とする。本科目では周術期におけるリハビリテーションとの分担的役割を外科的治療の基礎と実際の疾患と関連づけた統括知識として習得する。国家試験に対応した実践的な問題に対し、十分な理解力と回答力を涵養する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術前・術後管理とリハビリテーションの役割を説明できる。</li> <li>2. 外科的治療の基礎と疾患を説明できる。</li> <li>3. 終末期患者の病態を理解し、リハビリテーションの係わりを説明できる。</li> <li>4. 過去の国家試験問題に対して 70%以上の正答を得る。</li> </ol>		
関連科目	病理学、生理学、解剖学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	評価は試験によって行う(100%)。ただし、授業参加の良い場合には10%程度の加点を行う場合がある。
教科書	指定なし		
参考書	①医療情報科学研究所(編) [最新版] 「病気がみえる vol.1 消化器(第5版)」 MEDIC MEDIA ②森田 孝夫/東条 尚 編 [最新版] 「研修医のための外科の周術期管理ズバリおまかせ」 羊土社		
履修上の留意点	教科書・参考書はがあると望ましい。病気がみえる vol.1 消化器(第5版)MEDIC MEDIA は将来にわたって使える。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	外科医療の基礎 (手術侵襲、腫瘍、外科的基本手技)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	講義	水口
2	外科救急の実際 (救急処置法、人工呼吸器・トリアージ・DCS)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(原田)
3	外科集中治療の基礎 (静脈栄養・経腸栄養・血液浄化)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(巽)
4	麻酔法 (全身麻酔、術前管理・術後管理)	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(吉川)
5	心臓・血管疾患の外科治療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(川原田)
6	呼吸器疾患の外科治療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	(宮島)

		る。		
7	消化管疾患（上部・下部）の外科診療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	水口
8	肝胆膵疾患（肝臓・胆嚢・膵臓）の外科診療	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	〃
9	脳神経疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（秋山）
10	耳・鼻、咽頭疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（高野）
11	産婦人科疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（杉村）
12	泌尿器科疾患（疫学・診断・外科治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（西田）
13	形成外科領域の対象疾患	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（四ツ柳）
14	乳腺疾患（疫学・診断・治療・予後）	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（島）
15	口腔ケアに必要な歯科解剖・生理	事前：指定参考書にて予習する。 事後：課題への回答や不明点をまとめる。	〃	（市戸）



授業科目	整形外科学	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学研究棟 E410 号) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(江森誠人)、(小助川維摩)、(杉 憲)		
概要	脊柱および四肢の骨・関節・神経・筋組織は身体の運動に直接関与する。これら運動器に発生する外傷・障害を機能解剖、病態生理の面から解説し、保存的・外科的治療の適応と方法を解説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動器における外傷障害の病態および治癒機転を説明できる。</li> <li>2. 上肢の外傷障害の病態と治療を説明できる。</li> <li>3. 脊椎・体幹の外傷障害の病態と治療を説明できる。</li> <li>4. 下肢の外傷障害の病態と治療を説明できる。</li> <li>5. 末梢神経の外傷障害の病態と治療を説明できる。</li> <li>6. 関節リウマチの外傷障害の病態と治療を説明できる。</li> <li>7. 運動器における感染症と腫瘍の病態と治療を説明できる。</li> </ol>		
関連科目	リハビリテーション医学、解剖学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	学習態度	20%	講義中は積極的な発言を求める。
	筆記試験	80%	
教科書	① [最新版] 「標準整形外科学」 医学書院		
参考書	①青木光広 [最新版] 「からだの機能と運動療法 上肢・体幹」 メジカルビュー社 ②内山英一 [最新版] 「からだの機能と運動療法 下肢・骨盤」 メジカルビュー社		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	整形外科総論	事前：整形外科についての概念を整理する。 事後：配布資料	講義	渡邊
2	骨、関節、腱・靭帯における外傷障害の治癒機転	事前：運動器の解剖についての知識を確認しておく。	〃	〃
3	運動器障害の診断と治療 総論/画像診断	事前：診断に用いる画像の種類、その特徴をおさえる。 事後：配布資料	〃	〃
4	上肢の外傷障害の病態と治療	事前：上肢に特有な運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	〃
5	肩関節の外傷障害の病態と治療	事前：肩関節の特殊性について確認する。 事後：配布資料	〃	(杉)
6	手指・手関節の外傷障害の病態と治療	事前：手指の複雑な動きがいかにしてなされるかを理解する。 事後：配布資料	〃	渡邊

7	脊椎・体幹の代表的外傷障害の病態と治療1	事前：脊椎・体幹の機能とその障害への対策。 事後：配布資料	〃	〃
8	脊椎・体幹の代表的外傷障害の病態と治療2	事前：脊椎・体幹の外傷の理解とその対策。 事後：配布資料	〃	〃
9	股関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：股関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	(小助川)
10	膝関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：膝関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	渡邊
11	足関節の代表的外傷障害の病態と治療	事前：足・足関節特有の運動器障害について整理する。 事後：配布資料	〃	〃
12	末梢神経の外傷障害の診断と治療	事前：末梢神経の構造からその傷害を理解する。 事後：配布資料	〃	〃
13	関節リウマチの病態と治療	事前：関節リウマチとその類縁疾患の整理、鑑別点。 事後：配布資料	〃	〃
14	運動器における腫瘍の病態と治療	事前：良性・悪性腫瘍の違いをおさえる。 事後：配布資料	〃	(江森)
15	骨粗鬆症の病態と治療	事前：骨粗鬆症の問題点とその対策。 事後：配布資料	〃	渡邊

授業科目	小児科学	2 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(館延忠)、(福村忍)、(坂井拓朗)、(長岡由修)、(春日亜衣)、(石井玲)、(石川亜貴)、(横澤正人)		
概要	小児のリハビリテーションを行う上で、理学療法士・作業療法士に必要な小児神経学および小児科学関連領域の基礎を学習する。また、リハビリテーションの際に理学療法士・作業療法士が理解すべき小児科疾患を概説する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期の健康に関する概略を説明することができる。</li> <li>2. 新生児に関する医学的知識を身につけ、周産期の異常を説明することができる。</li> <li>3. 脳性麻痺の成因と症候を説明することができる。</li> <li>4. 小児てんかんの診断と治療について説明することができる。</li> <li>5. 自閉症、ADHD、LD の区別を説明することができる。</li> <li>6. 小児神経筋疾患の診断と治療について説明することができる。</li> <li>7. 代表的な小児疾患を挙げ、典型的な臨床症状を説明することができる。</li> </ol>		
関連科目	人間発達学1、人間発達学2、内科学1、内科学2、神経内科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	期末定期試験(100 点満点)で評価する。
教科書	①富田 豊(編集) [2018 年] 「小児科学 第5 版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野)」 医学書院		
参考書	①鴨下 重彦(監修) [2009 年] 「ベッドサイドの小児神経・発達の診かた(改訂第3 版)」 南山堂 ②原寿郎ら(編集) [2022 年] 「標準小児科学(第9 版)」 医学書院 ③桃井眞里子ら(編集) [2017 年] 「ベッドサイドの小児神経・発達の診かた」 南山堂		
履修上の留意点	1→15 の順に学習する予定であるが、順序に変更のある場合や学習内容に改変がある場合はあらかじめ通知する。評価方法・基準に変更がある場合は履修期間内に通知する。感染症の流行、講師の診療などにより講義日程が変更になった場合は、学生サポートシステムを利用して履修者に通知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	科目ガイダンス/小児科学概論/神経・筋疾患(1)	事前：シラバス、教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	講義	(館)・齊藤
2	新生児・未熟児	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(坂井)
3	重症心身障害児	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
4	神経・筋疾患(2)	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
5	遺伝病・先天異常	事前：教科書の当該部分を読んでくる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(石川)

6	呼吸器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(横澤)
7	感染症	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
8	脳性麻痺	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
9	腎・泌尿器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(長岡)
10	発達障害	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
11	循環器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(春日)
12	消化器疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(横澤)
13	免疫疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(館)
14	てんかん	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(福村)
15	内分泌疾患	事前：教科書の当該部分を読んでもる。 事後：当日配布資料を復習する。	〃	(鎌崎)

授業科目	精神医学 1	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男		
概要	精神障害者を診る・治療するという観点から精神障害の内容とその症状、診断、治療など医学的問題について学習する。学習内容としては「精神医学総論」の学習を通して、精神症状の種類や特徴、精神疾患の疫学・成因について理解を深める。さらに主たる精神疾患として「統合失調症とその関連障害」「気分(感情)障害」「神経症性障害」「器質性精神障害」「精神作用物質による精神・行動の障害」「生理的障害および身体的要因に関連した障害」の学習を通して、それぞれの精神疾患の概念、疫学、症状、診断、治療について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状について説明できる。</li> <li>2. 統合失調症とその関連障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。</li> <li>3. 気分(感情)障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。</li> <li>4. 神経症性障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。</li> <li>5. 症状・器質性精神障害の概念、疫学、成因、症状、診断について説明できる。</li> <li>6. 摂食障害、非器質性睡眠障害の概念、疫学、症状、診断について説明できる。</li> <li>7. 精神科リエゾンの概念、多職種連携について説明できる。</li> </ol>		
関連科目	生理学2、臨床検査・薬理学、臨床心理学、精神障害作業療法学、精神障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①上野武治, 齋藤利和, 池田官司 他 [2021年・4,840円] 「標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版増補版)」 医学書院		
参考書	①西丸四方, 西丸甫夫 [2008年・2,730円] 「やさしい精神医学」 南山堂 ②第12版改訂委員会, 大熊輝夫 [2013年・8,085円] 「現代臨床精神医学」 金原出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	精神医学総論 精神障害の成因と分類、精神機能の障害と精神症状	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	講義	石井
2	統合失調症とその関連障害 統合失調症と関連疾患の概念、疫学、症状、病型	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
3	気分(感情)障害 うつ病、躁うつ病の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
4	器質性精神障害① 認知症の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
5	器質性精神障害② 症状・器質性精神障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
6	神経症性障害 不安障害、強迫性障害、解離性障害、身体表現性障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

7	生理的障害および身体的要因に関連した障害 摂食障害、非器質性睡眠障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃
8	リエゾン精神医学 総合病院における精神科の役割と多職種連携	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	〃

授業科目	精神医学2	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	石井 貴男 (保健医療学研究棟 E515 号 ) e-mail : ishitaka@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	石井 貴男、池田 望、(川村敏明)、当事者・comedicalスタッフ(協力:浦河ひがし町診療所)、(津山 雄亮)		
概要	精神障害の医学的問題と精神障害者を取り巻く社会的問題点について学習する。具体的には「精神障害の診断と評価」、「成人のパーソナリティ・行動・性の障害」「心理発達の障害および精神遅滞」について理解を深めるとともに「精神科の歴史と法体制」「臨床心理学と精神障害」「精神障害者の社会復帰と精神保健福祉」の学習を通して精神科医療の歴史や社会制度、精神障害者の社会復帰と精神保健福祉の実際について学習する。 さらに「地域精神障害医療」の学習では、当事者(患者さん)の講演を通して精神障害者の実問題や地域精神医療について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合失調症の生活障害と治療法について説明できる。</li> <li>2. パーソナリティ・行動・性の障害の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。</li> <li>3. 心理発達の障害と精神遅滞の概念、疫学、症状、診断、治療について説明できる。</li> <li>4. 当事者(患者さん)の講義を通して精神障害者の実問題や地域精神医療について説明できる。</li> <li>5. 精神科医療の歴史的背景や社会制度について説明できる。</li> <li>6. 精神科分野における心理士の役割について説明できる。</li> <li>7. 精神障害者の社会復帰と精神保健福祉の関わりについて説明できる。</li> </ol>		
関連科目	生理学2、臨床検査・薬理学、臨床心理学、精神障害作業療法学、精神障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	「地域精神医療」講義の際に、レポート課題を課す。レポートは提出状況および内容により評価する。
	レポート	20%	
教科書	①上野武治, 齋藤利和, 池田官司 他 [2021 年・4, 840 円] 「標準理学療法学・作業療法学「精神医学」(第4版増補版)」医学書院		
参考書	①西丸四方, 西丸甫夫 [2008 年・2, 730 円] 「やさしい精神医学」 南山堂 ②第12版改訂委員会, 大熊輝夫 [2013 年・8, 085 円] 「現代臨床精神医学」 金原出版		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	統合失調症 統合失調症の診断、生活障害、治療、リハビリテーション	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	講義	石井
2	成人のパーソナリティ・行動・性の障害 パーソナリティ、行動の障害、性の障害の概念、疫学、症状、診断、治療	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	心理発達の障害および精神遅滞 発達障害、精神遅滞の概念、疫学、診断、症状、治療	事前: 学習内容の予習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	地域精神医療① 当事者(患者さん)による臨床講義	事前: 地域精神医療に関する情報収集 事後: 講義内容の復習	〃	(川村)・ 当事者・コ メディカ ルスタッ フ

5	地域精神医療② 当事者(患者さん)による臨床講義	事前：地域精神医療に関する情報収集 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	精神科の歴史と法体制 精神保健福祉法、医療観察法、自立支援法	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	池田
7	臨床心理学と精神障害 精神医学と心理学の接点、公認心理師・臨床心理士の役割	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	(津山)
8	メンタルヘルスの問題 学校・職域でのメンタルヘルスに関する諸問題、自殺予防	事前：学習内容の予習 事後：配付資料の復習	〃	石井



授業科目	老年医学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(垣内英樹) e-mail : kakiuchi-rok@sapporojikeikai.or.jp hkakiuchi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	齊藤正樹 (保健医療学研究棟 E513 号) e-mail : msaitoh@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	本科目では、高齢者の医療や介護、福祉の実践に必要な高齢者の特徴、高齢者に特徴的な症候と疾患について学習する。具体的には、老化の概念と高齢者の身体及び精神機能的特徴を理解する。さらに、高齢期に生じる疾患の医学的治療法や、高齢期の諸問題に対する医学的マネジメント、認知症の原因、診断、治療法について学ぶ。		
到達目標	1. 老年期の身体と心理的な特徴を説明できる。 2. 老年期の身体障害と精神障害の特徴を説明できる。		
関連科目	内科学1・2、神経内科学、社会福祉学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	期末定期試験	100%	筆記試験により評価する。
教科書	①指定なし		
参考書	①指定なし		
履修上の留意点	毎回、講義資料が配付されます。講義に使用する資料中のグラフや表データが、適時、最新のものに更新されるので、注意してください。また、講義内容が科目横断的に広がっています。加えて、講義回数は8回で1回あたりの内容量は多くなります。講義の理解を深めるために、出席に努めるようにしてください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	日本における高齢化社会の特徴 老化の概念、機構	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	講義	(垣内)
2	老化による身体の変化総論 老化による身体の変化各論(1)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
3	老化による身体の変化各論(2) 感染症	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
4	栄養障害および摂食・嚥下障害(1)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
5	栄養障害および摂食・嚥下障害(2)	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
6	老年症候群と要介護となる寝たきり	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
7	老化とがん	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃
8	介護保険制度について	事前：配布資料を読む 事後：講義のまとめ	〃	〃

授業科目	臨床心理学	2,3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護2年 理学3年 作業3年	必修 必修 必修

科目担当責任者	(山本創) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 研究室) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>心理学には心の科学として様々な研究や理論が積み重ねられてきた歴史がある。臨床心理学はそれらを土壌としつつも、単に科学的な知見だけでは整理のつかない個別性と歴史性を持つ生身の人間のこころを対象としており、その人が人間関係や社会の中で生きているうちに抱えるに至った、こころの課題を理解し援助するための実践的学問である。</p> <p>本講義では今日の臨床心理士が、援助の対象となった方々のこころをどのように理解し、援助関係を紡いで、ご本人との共同作業としての援助をおこなっているのかについて、具体的な事例を交えながら講義を行う。</p> <p>援助の場面であれ、そうではない場面であれ、人が人を理解するという事は相手との関係性に基づいた営みである。だから本当に理解するためには、相手を理解することのみに留まらず、自分自身を理解し、自分と相手の関係性を理解し、二人が出会っている環境や社会を理解するという複眼的な思考が必要となる。本来、職種別を問わず対人援助職にはそのような視点が必要不可欠であり、本講義の受講が学生諸君にとってその獲得の第一歩となることを目指したい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>こころの発達過程について、授業内容に基づいた基本的な知識を説明できる。</li> <li>共感的理解とは何であるのか、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。</li> <li>心理検査、心理療法、集団精神療法などの援助的な関わりについて、授業内容を通して得た理解に基づいて説明できる。</li> <li>講義を通して自らのこころの理解が深まったのなら、それを言語化することができる。</li> </ol>		
関連科目	人間関係論、心理学概論、倫理と哲学、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	最終レポート	70%	
	ミニ・レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	できるかぎり授業が双方向的なものになるよう、授業の終了間際に質問や感想についてのコメントペーパーを書いていただき、そのうちの幾つかについて次回授業冒頭でフィードバックします。私語、スマホいじりなどは謹んでいただきます。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	こころとはなんだろうか? ～こころを「容器」あるいは「おまんじゅう」に例えて考えてみる～	事前：心理療法関連書物の一読 事後：レジュメ再読	講義	(山本)
2	こころが育つということ ～人は人間関係の中で人になる～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃

3	こころの援助のための対話の基盤 ～共感的理解とはなんだろうか～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
4	心の援助のための対話の基盤2 ～心理療法の事例を通して考える～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
5	こころは可視化できるか？ ～心理検査を用いてのこころの理解～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
6	集団とはなんだろうか？ ～集団力動、集団精神療法について～	事前：集団力動関連図書一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
7	こころと社会 ～こころの「容器」「環境」としての社会～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レジュメ再読	〃	〃
8	援助者のこころ ～公と私、転移と逆転移、感情労働、そして自己理解について～	事前：前回のレジュメの一読 事後：レポート課題の準備	〃	〃

授業科目	救急医療総論	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学研究棟 E410 号) e-mail : wkota@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	根木 亨、横山和樹、田口裕紀子、小木曾寛樹、(成松英智)、(村中沙織)、(向谷怜奈)		
概要	急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。特に医療者には、このような救急状況に遭遇したときに冷静に状況を判断し応急処置を行うことが期待される。本教科では、救急医療についての概念を学ぶとともに、救急状況にある患者と家族の特色と救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師それぞれの役割を学ぶ。また、基本的な応急処置に必要な知識・技術について、実技・演習を通して身につけることをねらいとしている。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急医療システムと救急医療を必要とする対象の特性について説明できる。</li> <li>2. 救急医療に関連した倫理的問題について考えることができる。</li> <li>3. 救急医療における理学療法士、作業療法士、看護師の役割について説明できる。</li> <li>4. 基本的な応急処置の方法を理解し実施できる。</li> </ol>		
関連科目	内部障害理学療法学、身体障害療法治療学、疾病治療論 2 など		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 授業態度：授業への集中度、質問や発言の状況
	筆記試験	70%	
	レポート	20%	
	授業態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	救急医療の概念 1： 救急医学と救急医療システム	事前：救急医療に関する知識の整理 事後：配付資料の確認	講義	(成松) 他
2	救急医療の概念 2： 重症救急病態 1 (循環不全、呼吸不全、中枢神経障害など)	事後：配付資料の確認	”	”
3	救急医療の概念 3： 重症救急病態 2 (外傷、熱傷、精神科疾患など)	事後：配付資料の確認	”	渡邊
4	救急医療の概念 4： 脳死と臓器提供に関わる倫理的問題	事後：配付資料の確認	”	(成松) 他
5	救急医療の概念 5： 災害医療とその実際	事後：配付資料の確認	”	”
6	基本的な応急処置 1： 固定法と止血法	事前：固定法、止血法に関する知識の整理	”	小木曾・横山

7	基本的な応急処置2： 熱中症と緊急処置	事前：応急処置に関する知識の整理	講義・ 演習	(村中)・ 小木曾
8	一次救命処置、AED のつかい方	事前：AED に関する知識の整理	”	(向谷)・ 田口・ 根木・ 横山・ 小木曾

授業科目	災害医療・保健活動論	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	秋原志穂 (保健医療学研究棟 E208 号) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	青木亜砂子、森元隆文、根木亨、(根本昌宏)、(上村修二)、(田村周子)、(工藤篤志)、(北海道危機対策課)、他		
概要	近年、災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。本科目は、災害の種類や特性、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を理解し、保健医療専門職として、被災者の医療、生活支援を行うために必要な基礎的能力を養う。また、避難所運営演習では避難所で起こる様々な課題への対処を模擬体験し、被災者の健康管理のあり方の理解を図る。		
到達目標	1. 災害の定義、種類および災害発生の状況と法律・制度の変遷を説明できる。 2. 災害サイクルおよびフェーズの特徴、疾病との関連を説明できる。 3. 北海道における災害の特徴を説明できる。 4. 災害サイクル各期における医療や健康管理活動とチーム連携について説明できる。 5. 避難所運営について模擬体験し、避難所生活が健康に及ぼす影響について考察できる。		
関連科目	救急医療総論、災害看護		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	70%	レポート：毎回の授業後のミニッツレポート提出状況(30%)、最終レポートの提出状況と記載内容(40%) 演習：参加態度、グループワークへの貢献度についてルーブリックによる評価
	演習	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①小井土雄一・石井美恵子編著 [2017] 「多職種連携で支える災害医療 身につけるべき知識・スキル・対応力」 医学書院 ②大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会企画・編集 [2018] 「災害リハビリテーション標準テキスト」 歯葉出版 ③小原真理子監修 [2019] 「災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版」 南山堂 ④榛沢和彦監修 [2018] 「別冊地域保健 いのちと健康を守る避難所づくりに活かす18の視点」 東京法規出版		
履修上の留意点	医療者として災害時に対応できる基礎的知識を習得し、災害時に活用できるように積極的に学修して欲しい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 災害および災害医療・保健活動の基本：災害の定義と分類およびその特性、災害発生の現状と活動の根拠となる法律・制度、災害サイクル・災害フェーズと疾病構造	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	講義	秋原 青木
2	北海道における災害と災害時の活動の実際 積雪寒冷地の災害の特徴	事前：北海道の災害について調べる 事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(根本)
3	災害発生時の医療活動とチーム連携	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(上村)
4	災害サイクルを通しての保健活動：災害時及び平常時の健康管理と地域の体制整備	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(田村)
5	災害時の健康管理1：被災住民の健康維持、障害者および高齢者の活動性の維持・改善	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	(工藤)
6	災害時の健康管理2：災害時の心理変化とこころのケア	事後：配付資料の復習、ミニッツレポート	〃	森元

7	避難所の運営 1 : Do はぐ(避難所運営ゲーム北海道版)	事前 : 配付資料を読む	演習	(北海道危機対策課)、青木、森元、根木、秋原
8	避難所の運営 2 : 避難所ゾーニング	事後 : ルーブリック評価、レポート課題	〃	〃

授業科目	臨床検査・薬理学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	石井貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	石井貴男 (保健医療学研究棟 E515 号) e-mail : ishitaka@sapmed. ac. jp
担当教員	石井貴男、(菰澤慎也)、(盛合亮介)、(斎藤和)、(藤井博匡)、(久野篤史)、(館越勇輝)		
概要	リハビリテーションの臨床では病態を正確に把握するための臨床検査と各種非破壊画像診断技術は、対象者の治療を行う基盤となる知識であり、本講義ではその基礎について学ぶ。 また、薬物療法はリハビリテーション治療過程において最も考慮すべき要因の一つであり、患者の投薬状況を的確に把握できるように、薬物の性質と薬理作用についても学習する。		
到達目標	1. 通常の臨床検査技術について学び、正常値・異常値が説明できる。 2. 薬の作用様式や生体内動態、代謝について説明できる。 3. 臨床で用いられる代表的な薬の作用について学ぶ。		
関連科目	生理学1～3、精神医学1・2、内科学1・2、化学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①三木直正(監修) [-] 「薬理学電子教科書」 <a href="https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview">https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview</a>		
履修上の留意点	化学や生物学の基礎知識を必要とする学科であるので、生命の化学・生物学を予め履修しておく方が望ましい。 薬理学では講義の後に内容を復習して下さい。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	臨床検査の種類と特性について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	講義	(菰澤)
2	血液、一般、遺伝子、輸血検査について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(盛合)
3	心電図測定と病態との関連について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(斎藤)
4	MRI・CT について	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(藤井)
5	薬理学入門	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(久野)
6	循環器の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(館越)
7	代謝の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	(久野)
8	神経系の薬理学	事前：学習内容の予習 事後：学習内容の復習	〃	石井



授業科目	臨床栄養学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	齊藤秀和 (保健医療学棟 E504 号) e-mail : hidekazu@sapmed.ac.jp
担当教員	青木亜砂子、(志賀一希)、(澤田篤史)、(長多好恵)、未定(大学附属病院管理栄養士4名)		
概要	臨床栄養とは、栄養科学および医療の原理を、栄養素の欠乏症、過剰症あるいは代謝の均衡異常によって生じた人の疾患の診断、治療、および予防のために応用することである。近年は食生活の変化から疾患構造が変化しており、生活習慣病の概念から、これまでの早期発見・早期治療から早期介入・疾患予防が目標とされている。それゆえリハビリテーションの立場から健康維持・増進や疾患予防を含めた、治療のための栄養に関する知識を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養の基礎的知識を知る。</li> <li>2. 食生活の変化に伴う身体的状況、疾病構造の変化を知る。</li> <li>3. 健康維持・増進、疾病予防のために栄養学、薬と食物の関連について考える。</li> <li>4. リハビリテーションに必要な栄養の知識について説明できる。</li> <li>5. 病院における食事療法、栄養サポートチームの役割を知る。</li> </ol>		
関連科目	内科学1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	・提出物：記載内容については、講義の中で説明する。
	提出物	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	リハビリテーションを実践していく上で、栄養サポートチーム(NST)の一員として参加できる知識を習得する。 講義の順序が変更になる場合は、通知文等で周知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	栄養学の基礎知識	事後：配布資料の復習	講義	(志賀)
2	薬物療法の基本 運動療法における薬物療法	〃	〃	(長多)
3	地域における栄養指導 生活習慣病・介護予防のための栄養指導	事前：生活習慣病の原因を予習する 事後：配布資料の復習	〃	青木
4	チームアプローチ 大学病院における栄養サポートチーム	事後：配布資料の復習	〃	附属病院 管理栄養 士
5	栄養指導 大学病院における栄養指導	〃	〃	〃
6	病院食 入院中の食事療法	〃	〃	〃
7	病態別の栄養学	事前：代謝・循環器疾患の食事について予習 事後：配布資料の復習	〃	〃

8	リハビリテーションに必要な栄養の知識	事前：運動と栄養について予習 事後：配布資料の復習	”	(澤田)
---	--------------------	------------------------------	---	------

授業科目	リハビリテーション医学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	渡邊耕太 (保健医療学部研究棟 E410 号室) e-mail : e-mail : wkota@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(村上孝徳)、(青木昌弘)、太田久晶、(菅野敦哉)、(加藤正巳)、(岡 亨治)、(土岐めぐみ)		
概要	リハビリテーション医学の位置づけおよび歴史、および特質を理解し、さらに基礎となる医学的知識および診断、治療の方法論、代表的疾患のリハビリテーションについて学ぶ。		
到達目標	1. リハビリテーション医学の位置づけおよび特質を説明できる。 2. 代表的疾患について、主な徴候・所見・検査法の概略を説明できる。 3. 代表的疾患について、リハビリテーションの概略を説明できる。		
関連科目	運動器障害理学療法学、整形外科学、内科学、脳神経外科学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業態度	20%	授業への集中度、質問や発言の状況
	筆記試験	80%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	特に教科書や参考書は指定しない。講義順序や担当教員の変更がある場合はあらかじめ掲示板などで連絡する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	高次脳機能のリハビリテーション：高次脳機能障害、失語・失行・健忘・遂行機能障害の症候学、半側空間無視、失認、治療介入方法	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	講義	太田
2	スポーツ傷害のリハビリテーション：スポーツにおける外傷・障害の理解とそのリハビリテーション。運動器疾患の予防	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	渡邊
3	脳卒中のリハビリテーション：脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の治療とリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(岡)
4	整形外科疾患(四肢、脊柱)、疼痛症候群のリハビリテーション：整形外科疾患の治療とリハビリテーション、疼痛症候群への対応	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(村上)
5	小児のリハビリテーション：脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーのリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(土岐)
6	神経変性疾患のリハビリテーション：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症等の変性疾患とリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	〃
7	がんのリハビリテーション：がん患者の生活機能と生活の質の改善を目標とする医療ケア 嚥下障害のリハビリテーション：嚥下障害の基礎、評価、リ	事前：学習内容関連参考図書を用いた予習 事後：講義内容の復習	〃	(青木)

	ハビリテーション			
8	呼吸器のリハビリテーション 運動器(上肢)のリハビリテーション	事前：学習内容関連参考図書を用いた 予習 事後：講義内容の復習	〃	(管野)・ (加藤)

授業科目	社会福祉学	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(川勾亜紀奈) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	谷口圭吾 (保健医療学研究棟 E413 号) e-mail : ktani@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	日本の社会福祉の歴史を概観し、社会福祉の基本的な考え方を理解する。わが国における社会福祉の仕組み、考え方、現状の概要を学ぶ。また、医療従事者に必要な社会福祉関係の知識の獲得、チーム医療実践の必要性を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の概念・理念について説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の対象とその課題について説明できる。</li> <li>3. 社会福祉の専門職について説明できる。</li> <li>4. 医療専門職と社会福祉専門職との連携、チーム医療実践の必要性について説明できる。</li> </ol>		
関連科目	保健福祉行政論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①大久保秀子 [2022 年・1,760 円] 「新・社会福祉とは何か(第4版)」 中央法規出版		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語等の授業の妨げとなる行為は厳禁とする。注意に従わない場合は教室からの退出を指示する場合がある。</li> <li>・出席の不正登録には厳正に対処する。</li> <li>・講義の進展等により学習内容が変更となる場合がある。毎回、講義資料を配布する。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	社会福祉の概念・理念と範囲	事前：シラバスの確認 事後：講義資料の重要項目の確認	講義	(川勾)
2	社会福祉の対象理解①－貧困・生活困窮者の福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
3	社会福祉の対象理解②－児童家庭福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
4	社会福祉の対象理解③－障がい児・者福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
5	社会福祉の対象理解④－高齢者福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
6	社会福祉の対象理解⑤－地域福祉－	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
7	ソーシャルワークの概念・理念と方法	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃
8	社会福祉専門職 (社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士)	事前：前回資料の再確認 事後：講義資料の重要項目の確認	〃	〃

授業科目	社会保障論	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	必修 必修

科目担当責任者	(佐橋克彦) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	基本的人権としての生存権を保障する制度としての社会保障制度の概念、歴史、および保健・医療・福祉の体系と施策・制度の仕組みを学び、社会福祉・社会保障の機能や活用方法と課題について理解する。		
到達目標	1. 現代社会における社会保障の理念と意義につちえ述べるができる。 2. 社会保障制度の体系と概要について述べるができる。 3. わが国の年金保険・医療保険・介護保険などについて述べるができる。 4. 社会保障の実施体制と専門職の役割について述べるができる。		
関連科目	社会福祉学、作業療法管理学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①川村匡由編著 [2020] 「社会保障」 健帛社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点			

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	国民生活と社会保障 社会保障の概念と理念	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	(佐橋)
2	少子高齢化の状況と社会保障の関係	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
3	社会保障給付の動向と近年の社会保障改革の概要	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
4	年金保険制度の歴史と概要、課題	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
5	医療保険制度の歴史と概要、医療供給システム	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
6	介護保険制度の背景と概要、課題	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
7	社会経済的観点からみた社会保障の今後の見通し	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
8	社会保障制度の統括	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃

授業科目	社会と健康史	2 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	必修 選択 選択

科目担当責任者	秋原志徳 (保健医療学研究棟 E208 号 ) e-mail : akihara@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	水口徹、船木祝、(菊地和美)、(高橋智美)他		
概要	医療とそれを取りまく社会情勢が目まぐるしく変化するなか、医療と社会のつながりを理解することが求められている。人の健康は経済や戦争といったその時代・国の文化、社会情勢により影響され、医療職もまたその影響を受けて発展してきた。本科目は、医学の歴史とともに、医療と関わり深い社会問題を学び、人々の健康生活は社会にどのような影響を受けているのか、医療はどのような社会を背景に発展してきたのかを理解することを目的とする。そして、各職種立場から人々の健康と生活・権利を守るための社会の在り方を考えることを目指している。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学の発展・変遷の背景にあった社会の歴史について概要を説明できる。</li> <li>2. 戦争が人々の健康と医療に与える影響について概要を説明できる。</li> <li>3. 薬害(エイズ、肝炎など)やハンセン病などの社会問題について概要を説明できる。</li> <li>4. 優生保護法の歴史について概要を説明できる。</li> <li>5. 医療と社会の歴史を学び、これからの医療について意見交換できる。</li> </ol>		
関連科目	社会学概論、文化人類学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	ミニレポート	40%	
	最終レポート	60%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	主体的に学修してください。出欠席は自己管理し、注意を受けないようにしてください。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 社会と健康	事前：自己の学習目標を明確にする 事後：身近にある健康と社会との関連について考える	講義	秋原
2	医学の歴史：手術の歴史	事前：医学の歴史に関する文献を読む 事後：講義の関連文献を読む	〃	水口
3	戦争と医療	事前：ナチスドイツによる戦争犯罪について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
4	感染症と社会 - ハンセン病 -	事前：ハンセン病に関して調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(菊地)
5	薬害問題と社会 - 薬害エイズ -	事前：薬害エイズに関して調べる 事後：薬害の関連文献を読む	〃	秋原他
6	優生保護法の歴史 - 障害者に対する強制不妊手術 -	事前：旧優生保護法について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	(高橋)

7	緩和医療の歴史	事前：ホスピスの歴史について調べる 事後：講義の関連文献を読む	〃	船木
8	これからの医療のあり方	事前：将来的な医療に関して調べる 事後：これからの医療在り方についての文献を読む	〃	秋原



授業科目	公衆衛生学	2 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		理学 作業	選択 選択

科目担当責任者	山本 武志 (保健医療学研究棟 E311) e-mail : t-yamamoto@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	私たちがとりまく物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は人々の生理機能に影響を与え、健康、健康障害の発生に大きく関わっている。健康問題を環境との関わりから広く理解し、疾病の予防、健康増進を図るために良い環境とは何かを学ぶ。		
到達目標	1. 環境を生態学的にとらえ、人間をその中の一員として考えられる 2. 生物学的・化学的・物理学的環境要因と健康問題を理解し、その問題の今後の予防策について述べるができる 3. 環境測定的基础について学び、科学的に適切な測定を実践できる力を身につける		
関連科目	疫学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	提出物	100%	提出物はレポート、グループワーク等の成果物とする。
教科書	①辻 一郎 [2024 年] 「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	看護学科(2年)の環境保健論と合同で行う場合がある		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション: 公衆衛生学/環境保健学の意義、歴史的 背景	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	講義	山本
2	地球環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
3	化学的環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
4	物理学的環境と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
5	産業保健	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
6	学校保健	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
7	放射線と健康	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃
8	公害と健康問題	事前: 教科書の学習 事後: 配付資料の復習	〃	〃

授業科目	保健医療統計学	2 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村裕二 (保健医療学研究棟 E503 号) e-mail : yujin@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	作業療法分野にとって統計学は、様々な健康現象や社会現象の意味、背景を知る上で不可欠な学問である。統計学の知識は、対象者に対する訓練成果を客観的に示す、研究論文を正確に読み取る、といったことにも貢献する。本講義では、1 年次の統計学で学んだことを基礎として、推測統計学の基礎と保健医療分野での推定方法、検定方法について学習する。また、演習を通し、作業療法の臨床場面で用いる各検査データの測定と検定を行い、作業療法分野における統計学的考え方の意義について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法分野における統計学の意義について説明できる。</li> <li>2. 一般的な検定方法について説明できる。</li> <li>3. 作業療法分野でよく用いる検定方法について理解し、適切な選択ができるようになる。</li> <li>4. 実験計画を立案し、結果に対して統計学的な分析を実施できる。</li> </ol>		
関連科目	統計学、作業療法概論、作業療法評価学 1、作業療法評価学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	80%	
	学習態度	20%	
教科書	①勝平純司、他 [2019 年・3,740 円] 「すぐできる!リハビリテーション統計—データのみかたから検定・多変量解析まで」 南江堂		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	主体的な講義・グループワークへの参加を必要とする。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション 作業療法分野における統計学の必要性	事後：講義ノート、配付資料	講義	中村
2	統計学とは 統計データの特徴と分類	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
3	記述統計学と推測統計学の違い(1)	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
4	記述統計学と推測統計学の違い(2)	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
5	相関分析： 握力と他の身体指標との相関	事後：講義ノート、配付資料	講義・演習	〃
6	帰無仮説と対立仮説、理論値	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
7	順序尺度の分析： 認知症スクリーニング検査の比較	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
8	比率尺度の分析(2 群の検定)： エクササイズ前後の関節可動域の比較	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃

9	比率尺度の分析(3群以上の検定)： 自助具箸を用いた食事動作の比較	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
10	質問紙調査法： テーマに沿ったアンケート用紙を作成する	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
11	質問紙調査法： アンケート調査を実施し分析と解釈を行う	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
12	質問紙調査結果の提示： 図表を用いた効果的なプレゼンテーション技法	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
13	実験研究の計画： 実験計画を立案し必要な機材、分析方法について検討する	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
14	実験研究の実施： 計画した実験を実施し分析と解釈を行う	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
15	実験内容の報告とまとめ	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃

授業科目	リハビリテーション概論	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		看護 理学 作業	選択 必修 必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山和樹、調整中、(土岐めぐみ)、(調整中)、(大槻美佳)、(佐藤由佳子)		
概要	リハビリテーションは、医学的リハビリテーションから社会福祉的、職業的なリハビリテーションまで広範な概念を含むもので、その実践にはさまざまな専門職がチームを組んで実践している。ここでは、領域を超えた包括的な視点に立って、リハビリテーションの概念とその実際について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療・保健、福祉に於けるリハビリテーションの役割について述べるができる。</li> <li>2. 国際障害分類を基本に障害者の評価とリハビリテーション介入方法を述べるができる。</li> <li>3. リハビリテーション(医療)に参加する各専門職の役割についてチームワークの観点からその重要性を述べるができる。</li> <li>4. リハビリテーション(医療)における社会福祉についてチームワークの観点から述べるができる。</li> </ol>		
関連科目	保健医療総論 2、3、4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中の撮影、録画を禁止する。</li> <li>2. 出席の不正登録には厳正に対処する。</li> </ol>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	リハビリテーション医療の構造(国際障害分類)とその実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	講義	(土岐)
2	リハビリテーションの理念・歴史と現状	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	〃
3	リハビリテーション看護の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(佐藤)
4	理学療法の実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	調整中
5	作業療法の実際 (チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	坂上
6	在宅・介護予防(チームワークの視点から) 地域リハビリテーションの実際	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	横山
7	言語障害の病態・診断・治療の実践(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(大槻)
8	社会福祉論と社会資源の活用(チームワークの視点から) ケースワークの理念と実際(チームワークの視点から)	事前：特になし 事後：配付資料の整理	〃	(調整中)

授業科目	人間関係論	1 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	(川俣智路) (-) e-mail : -	非常勤講師 連絡担当教員	澤田いずみ (保健医療学研究棟 E207 号) e-mail : izumi@sapmed.ac.jp
担当教員			
概要	<p>「こちらはこんなに頑張って関わっているのに、なぜ受け入れてもらえないのだろうか」、「なぜこの同僚は私にこんなに批判的なのだろうか」。人が人に何かを働きかける、たとえば援助するときや共同で仕事をするときには、活動が円滑に進むかに加えて人間関係が上手く築けるかどうかが重要となってきます。人間とは、この人と人との関わりを通じて変容したり成長したりするのです。</p> <p>本講義では、援助、指導、協働などに関わる人間関係について体験的に理解し、専門職としての成長を目指すものです。</p>		
到達目標	<p>対人関係に関連する理論について理解し、他人に説明することができる 自己理解、他者理解の方法を学び、対人関係に活かすことができる 対人関係に関連する理論を応用して、ロールプレイや実習などに活かすことができる</p>		
関連科目	臨床心理学、倫理と哲学、文化人類学、国際社会論		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	40%	試験は短答式と論述式です。ワークは授業内に複数回実施し、レポートはワークに関するもので、A4 用紙半分か 1 枚程度の分量です。ワークやその解説があるため、出席は前提となっています。
	ワーク	45%	
	レポート	15%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①川瀬正裕, 松本真理子 他 [1997 年・1700 円+税] 「新 自分さがしの心理学—自己理解ワークブッカー」 ナカニシヤ出版</p> <p>②川瀬正裕, 松本真理子 他 [2001 年・2400 円+税] 「これからの心の援助 役に立つカウンセリングの基礎と技法」 ナカニシヤ出版</p> <p>③平木典子 [2008 年・1300 円+税] 「人間関係が驚くほどうまくいく言いたいことがきちんと伝わるレッスン」 大和出版</p>		
履修上の留意点	<p>この授業では対人関係の理論や実践について体験的にワークを通して学ぶ時間があります。ワークに不安があるなど、様々な事情から評価基準を満たすことが難しい場合には、授業の目的や評価の基準が変わらないような、代替の評価方法を準備できる場合があります。希望者は初回の授業終了時まで担当教員に相談して下さい。</p> <p>担当教員についてのプロフィールは、教員情報のウェブサイトをご覧ください ( <a href="https://goo.gl/c8kpEZ">https://goo.gl/c8kpEZ</a> )。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	イントロダクション 事実と「ストーリー」の違い	事前：「ナラティブ」について検索してくる 事後：来週の演習のために授業内容を振り返る	講義	(川俣)
2	「ストーリー」の聞き方	事前：事前資料を読んでくる 事後：振り返りのレポートを書く	演習	〃
3	無知の姿勢 開かれた対人関係とは？	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	講義	〃
4	自分について考える	事前：事前資料を読んでくる 事後：振り返りのレポートを書く	演習	〃
5	自己を知ることの意味を考える 私と集団の関係とは？	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	講義	〃

6	言いたいことを伝える技術	事前：事前資料を読んでくる 事後：振り返りのレポートを書く	演習	〃
7	対人関係を円滑に進めるためのアサーティブな態度とは？	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	講義	〃
8	援助における対人関係	事前：事前資料を読んでくる 事後：紹介された文献に目を通す	〃	〃

授業科目	作業療法概論	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	ヒトの生活を様々な学問領域から分析し、理解を深める。そして、生活の中の様々な作業を出来るように援助するための考え方を習得する。また、作業療法の歴史的発展を理解し、作業療法を実践するうえで必要な基礎理論、対象障害、治療技術の概略に関する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトの生活を分析的にとらえることができる。</li> <li>2. 作業活動について作業療法の視点から説明できる。</li> <li>3. 作業療法の理念、役割、目的を説明できる。</li> <li>4. 作業療法の歴史的変遷を説明できる。</li> <li>5. 作業療法の対象障害について説明できる。</li> <li>6. 作業療法の治療技法に関する理論的枠組みの概略が説明できる。</li> </ol>		
関連科目	リハビリテーション概論、基礎作業学1、基礎作業学2、臨床実習1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	90%	
	課題レポート	10%	
教科書	①石川朗・種村留美 監修 [2023 年] 「作業療法テキスト 作業療法概論」 中山書店		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	大学生としての学習姿勢を身につけ、主体的な講義への参加が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業ガイダンス、生活分析の方法 リハビリテーションの概念と対象疾患による特徴	事前：教科書の関連項目(ページ1ー10)を確認すること 事後：配付資料の復習	講義	仙石
2	生活の分析ー作業とは何か	事前：教科書の関連項目(ページ11ー22)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	グループ 討議・発表	〃
3	日本の医療制度と作業療法の変遷	事前：日本の医療制度について厚生労働省などのホームページで確認すること 事後：事後：配付資料の復習	講義	〃
4	日本の社会構造と作業療法との関連	事前：教科書の関連項目(ページ24ー54)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
5	障がい者の生活実態を学び自立について考察する	事前：日本の福祉政策にについて厚生労働省などのホームページで確認すること 事後：事後：配付資料の復習	グループ 討議・発表	〃
6	作業療法の学問的基礎	事前：教科書の関連項目(ページ56ー74)を確認すること	講義	〃

		事後：事後：配付資料の復習		
7	作業療法の様々な理論体系	事前：教科書の関連項目(ページ75-84)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
8	作業療法の臨床活動の実態を学ぶ	事前：教科書の関連項目(ページ85-130)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
9	身体機能に関する分析	事前：教科書の関連項目(ページ85-130)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	グループ 討議・発表	〃
10	精神機能に関する分析	事前：教科書の関連項目(ページ85-1308)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
11	生活活動・社会活動に関する分析	事前：教科書の関連項目(ページ85-130)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
12	分析の実例(主観的・客観的テスト)から、その特徴・実施上の注意点を学ぶ	事前：教科書の関連項目(ページ131-140)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
13	教養教育・基礎医学と作業療法評価との関連 作業療法における治療的介入とその立案法について知る	事前：教科書の関連項目(ページ140-150)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
14	作業療法における治療立案演習	事前：教科書の関連項目(ページ151-160)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	〃	〃
15	講義のまとめ	事前：教科書の関連項目(ページ165)を確認すること 事後：事後：配付資料の復習	講義	〃



授業科目	基礎作業学 1	1 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	横山和樹 (保健医療学部棟 E505 号) e-mail : k.yokoyama@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中島そのみ、中村裕二		
概要	作業療法の治療手段として用いる作業活動を実際に経験し、包括的作業分析を行うことで、作業活動の特性や治療的意味について理解を深める。また、作業の特性や治療的意味を支える背景を脳・身体・心の側面から学習することで、作業活動の臨床的応用の視点を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法における「作業」の定義や歴史について説明できる。</li> <li>2. 手段としての作業と目的としての作業について説明できる。</li> <li>3. 作業活動を体験し、包括的な分析を行うことができる。</li> <li>4. 作業がもつ特性を脳・身体・心・発達の側面から説明できる。</li> </ol>		
関連科目	基礎作業学 2、作業療法概論、作業理論と評価		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 ・レポートは、提出状況ならびに内容の目標達成状況により評価する。 ・参加態度は、講義・演習時の積極的参加の度合いにより評価する。
	試験	50%	
	レポート	40%	
	活動への参加態度	10%	
教科書	①長崎重信・監修、浅沼辰志・編集 [2021 年・5,280 円(税込)] 「作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第 3 版」 MEDICAL VIEW		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①日本作業療法士協会編 [2003 年・3,780 円(税込)] 「作業—その治療的応用 第 2 版」 協同医書出版社</li> <li>②日本作業療法士協会監修 [2009 年・3,456 円(税込)] 「作業療法学全書 基礎作業学 第 3 版」 協同医書出版社</li> <li>③山根寛 [2015 年・3,780 円(税込)] 「ひとと作業・作業活動 新版」 三輪書店</li> <li>④矢谷令子他 [2017 年・4,320 円(税込)] 「標準作業療法学 基礎作業学 第 3 版」 医学書院</li> </ol>		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業分析の具体的活動に際しては各種作業に適した服装を着用する。</li> <li>・作業活動を中心とした演習科目であるため、2 コマ連続開講をする場合もある。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	作業療法における作業 作業活用の歴史、作業の多面性 作業を治療に用いる条件 手段としての作業・目的としての作業	事前：教科書 P5～21 を読む	講義	横山
2	包括的作業分析と限定的作業分析の分析方法の概略	事前：教科書 P39～45 を読む	〃	〃
3	脳・身体・心と作業活動の関連性について	事後：配布資料を復習する	〃	〃
4	包括的作業分析の実際①：紙を用いた作業 作業活動の実施・分析	事前：活動準備	演習	〃
5	包括的作業分析の実際①：紙を用いた作業 作業活動の包括的作業分析	事前：活動準備	〃	〃
6	包括的作業分析の実際①：紙を用いた作業 包括的作業分析の振り返り(身体・認知・心理社会面)	事後：教科書 P39～45 および配布資料 を復習する	講義・演習	〃
7	包括的作業分析の実際②：コラージュ 作業活動の実施・分析	事前：活動準備	演習	〃

8	包括的作業分析の実際②：コラージュ 作業活動の包括的作業分析	事前：活動準備	演習	〃
9	包括的作業分析の実際②：コラージュ 包括的作業分析の振り返り(集団・個別)	事後：教科書 P39～45 および配布資料 を復習する	講義・演習	〃
10	包括的作業分析の実際③：マクラメ 作業活動の実施・分析	事前：活動準備	演習	〃
11	包括的作業分析の実際③：マクラメ 作業活動の実施・分析	事前：活動準備 事後：教科書 P39～45 および配布資料 を復習する	〃	〃
12	包括的作業分析の実際④：編む作業(籐細工) 作業活動の実施・分析	事前：教科書 P116～P129 を読む	演習	中島
13	包括的作業分析の実際④：編む作業(籐細工) 作業活動の実施・分析	事前：活動準備	〃	〃
14	こどもの発達と作業活動の関連性について⑤遊び こどもの発達と作業・作業活動の実際	事前：教科書 P328～P339 を読む	講義	中村(裕)
15	こどもの発達と作業活動の関連性について 包括的作業分析の実施と振り返り	事前：活動準備	演習	〃

授業科目	基礎作業学2	2 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	森元隆文 (保健医療学研究棟 E501 号) e-mail : takamori@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、坂上真理、中村裕二、横山和樹		
概要	普段何気なく行っている作業でも、その作業の持つ意味や効果は多彩である。本科目では、作業の治療的意味を支える基本理論を学習する。また、実際の作業活動を経験し、各種活動の基本技術を習得するだけでなく、基本理論の観点から分析することで、それぞれの作業の持つ治療的意味や対象者に対する関わり方について理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業活動の治療的意味を支える基本理論について説明できる。</li> <li>2. 包括的作業分析と限定的作業分析について概略を説明できる。</li> <li>3. 限定的作業分析を用いて作業活動を分析することができる。</li> <li>4. 作業活動の臨床的応用の視点ならびに教授法について説明できる。</li> <li>5. 各種作業活動の基本技術を習得できる。</li> </ol>		
関連科目	基礎作業学 1、作業療法概論、作業理論と評価		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	80%	レポートは、提出状況ならびに内容の目標達成状況により評価する。 参加態度は、講義・演習時の積極的な参加や探究的な姿勢の度合いにより評価する。
	参加態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①長崎重信 監 [2021] 「作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 作業学 第3版」 メジカルビュー</li> <li>②山根寛 [2015] 「ひとと作業・作業活動 新版」 三輪書店</li> <li>③吉川ひろみ [2008] 「「作業」って何だろう」 医歯薬出版</li> <li>④日本作業療法士協会 編 [2003] 「作業-その治療的応用 第2版」 協同医書出版社</li> </ol>		
履修上の留意点	作業活動の実習時は、各種作業に適した服装を着用する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス 「作業のレンズ」について	事前: 参考書1(長崎重信 監・1 年次 購入済)P218-234 を読む	講義	森元・坂上
2	作業のレンズで現象と人をとらえる①	事後: 演習内容のまとめと記録	演習	坂上・森元
3	作業のレンズで現象と人をとらえる②	〃	〃	〃
4	作業のレンズで現象と人をとらえる③	〃	〃	〃
5	作業のレンズで現象と人をとらえる④	〃	〃	〃
6	日常生活動作分析①	事後: 演習内容のまとめと記録	演習	太田
7	日常生活動作分析②	〃	〃	〃
8	革細工の実際と分析①	事後: 実習内容のまとめと記録	実習	森元

9	革細工の実際と分析②	〃	〃	〃
10	革細工の臨床的応用について	〃	講義・実習	〃
11	限定的作業分析の実際とフィードバック	事後：革細工についての自身のレポートと講義資料の内容のすり合わせ	講義	〃
12	陶芸の実際と分析①	事後：実習内容のまとめと記録	実習	〃
13	陶芸の実際と分析②	〃	〃	〃
14	陶芸の臨床的応用について	〃	講義・実習	〃
15	木工芸の実際と分析①	〃	実習	中村裕
16	木工芸の実際と分析②	〃	〃	〃
17	木工芸の臨床的応用について	〃	講義・実習	〃
18	集団レクの実際と分析①	事後：集団レク実施計画の立案	演習	森元・横山
19	集団レクの実際と分析②	〃	〃	〃
20	集団レクの実際と分析③	〃	〃	〃
21	集団レクの実際と分析④	事前：集団レク実施の準備	〃	〃
22	集団レクの実際と分析⑤	〃	〃	〃
23	対象者への関わり方について	事前：配布資料を読む	講義	森元

授業科目	作業理論と評価	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		作業	選択

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(齊藤雄一郎)		
概要	本科目では、作業療法の臨床実践を支える理論やモデルのうち、特に作業療法の領域全般にあてはまり、現在広く用いられている理論やモデル、それらに関連する評価法について臨床応用例を交えて学習する。		
到達目標	1. 作業療法の臨床・リーズニングの概要を説明できる 2. カナダ作業療法モデルとカナダ作業遂行測定の概要を説明できる 3. 人間作業モデルと代表的な評価の概要を説明できる 4. AMPS の概要を説明できる 5. 作業理論に基づく作業療法の特徴と意義を説明できる 6. 作業科学の概要並びに作業療法との関係について説明できる		
関連科目	作業療法評価学 1、高齢期作業療法学、高齢期作業療法治療学、臨床実習 3、総合臨床実習 1~3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	60%	1. 提出物について：ワークシート記載内容・提出状況により評価する (30%) 2. 学習態度について：質疑への参加状況により評価する (10%)
	提出物	30%	
	学習態度	10%	
教科書	①吉川ひろみ編集 [2019 年・3,600 円] 「作業療法の話しよう」 医学書院		
参考書	①吉川ひろみ著 [2018 年・2,200 円] 「カナダモデルで読み解く作業療法」 CBR ②鈴木憲雄著 [2017 年・2,200 円] 「人間作業モデルで読み解く作業療法」 CBR ③吉川ひろみ著 [2008 年・4,180 円] 「COPM・AMPS スターティングガイド」 医学書院 ④吉川ひろみ・鈴木洋介著 [2019 年・2,200 円] 「プロセスモデルで読み解く作業療法」 CBR ⑤吉川ひろみ著 [2017 年・3,080 円] 「「作業」って何だろう：作業科学入門第 2 版」 医歯薬出版		
履修上の留意点	試験は、定期試験期間外に行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	作業療法における理論・モデルの役割。臨床・リーズニングとは	事前：教科書第 1 章 (p17-18) を読む 参考書第 3 章 IV (p113-128) を読む 事後：ワークシートの完成	講義と演習	坂上
2	カナダ作業療法モデル関連評価について (カナダ作業遂行測定: COPM)	事前：教科書第 2 章 (p44-55) を読む 事後：ワークシートの完成と提出	〃	〃
3	カナダ作業療法モデルとは	事前：教科書第 2 章 (p44-55) を読む	〃	〃
4	人間作業モデルとは	事前：教科書第 2 章 (p28-43) を読む	〃	〃
5	人間作業モデル関連評価について (OSA II、興味チェックリストほか)	事前：作業療法全書 (老年期) (p72-73) の関連内容を読む 事後：ワークシートの完成と提出	〃	〃
6	Assessment of Motor and Process Skills (AMPS) とは	事前：参考書第 2 章 (p48-88) を読む 事後：ワークシートの完成と提出	〃	〃

7	作業理論に基づく作業療法の実際	事前：教科書第5章(p176-188)を読む 事後：課題の提出	〃	(齊藤)・坂上
8	作業科学とは。作業科学と作業療法の関係	事前：作業に関する写真の用意。	〃	坂上

授業科目	作業療法研究法セミナー1	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科全教員		
概要	作業療法の発展における研究の意義と役割に様々な研究法を文献検討などの手段を通じて学ぶとともに作業療法特別課題の基礎となる具体的な研究方法を身につける。特に作業療法に関連する各種量的研究法、文献研究、理論研究、調査研究法などの研究法や先行研究について学ぶ。		
到達目標	1. 作業療法の研究および歴史的変遷を説明できる。 2. 研究方法について説明できる。 3. 研究の進め方を説明できる。 4. 文献検索の方法を説明できる。		
関連科目	保健医療統計学、作業療法研究法セミナー2、作業療法特別課題		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	課題レポート	50%	
	発表内容	50%	
教科書	指定なし		
参考書	①竹田徳則・大浦智子 編著 [2017 年] 「作業療法研究法」 医歯薬出版株式会社		
履修上の留意点	作業療法特別課題(4 年時開講)における卒業研究と関連している講義である。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	科学の発展 専門職の発展と研究	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	講義	仙石
2	研究の様式と流れ	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
3	研究の実際 1	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	〃	仙石・中 島・中村 (裕)
4	研究の実際 2	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	〃	太田・坂 上・齋藤 (秀)
5	研究の実際 3	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	〃	中村(眞) ・齋藤 (正)・中村 (充)・早崎
6	研究の実際 4	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること 事後：関連書籍を確認	〃	池田・石 井・森元・ 横山
7	各種量的研究法の実際 1	事前：参考図書などで関連内容を確認 すること	〃	仙石

		事後：関連書籍を確認		
8	各種量的研究法の実際2	事前：参考図書などで関連内容を確認すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃



授業科目	作業療法研究法セミナー2	3 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	森元隆文 (保健医療学研究棟 E501 号) e-mail : takamori@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	坂上真理、中村裕二、他作業療法学科全教員		
概要	作業療法の各領域において研究課題の選択ができるよう、研究法に関する基本的知識と研究を行う際の倫理的配慮について学ぶ。その際に、卒業研究のみならず卒後に臨床現場で研究を展開することを見据えて、各領域の臨床現場での研究の展開について学習し理解する。その後、研究課題に沿った研究目的の設定、対象の選び方、研究方法、結果の解析、倫理的配慮についてまとめ、研究計画として発表を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の各領域で活用される研究法について理解し、述べることができる。</li> <li>2. 卒後に臨床現場で研究を展開する必要性を理解し、述べるができる。</li> <li>3. 作業療法に関する研究課題を選択できる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究計画を倫理的配慮を含めて立案し、まとめた上で報告することができる。</li> </ol>		
関連科目	作業理論と評価、作業療法研究法セミナー1、作業療法特別課題		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	学習態度は「自ら指導教員にコンタクトをとり指導を受けていたか」「レポート・発表資料の作成にあたって誤字・脱字が無いよう丁寧に取り組んでいたか」「指導教員に対して真摯な態度で指導を受けていたか」について評定する。
	発表内容	20%	
	学習態度	30%	
教科書	①竹田徳則、大浦智子 [2017] 「作業療法研究法」 医歯薬出版株式会社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	作業療法特別課題(4 年時開講)における卒業研究と関連している講義である。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	研究の基礎知識、臨床倫理と研究倫理、研究計画発表にむけてのガイダンス	事前: 教科書の該当ページ(ページ 10-32)を精読のこと 事後: 関連書籍・文献を確認	講義	森元
2	文献研究と質的研究の概要	事前: 教科書の該当ページ(ページ 50-55)を精読のこと 事後: 関連書籍・文献を確認	〃	坂上
3	臨床現場での研究の展開(なぜ臨床現場で研究が必要なのか)	事前: 教科書の該当ページ(ページ 10-32)を精読のこと 事後: 関連書籍・文献を確認	〃	森元
4	臨床現場での研究の展開(臨床現場での研究の実際)	事前: 教科書の該当ページ(ページ 10-32)を精読のこと 事後: 関連書籍・文献を確認	〃	中村裕・森元
5	研究課題の検討と選択	事前・事後: 各々の研究計画と関連する書籍・文献を精読	演習	全教員
6	研究計画の立案とまとめ	〃	〃	〃
7	研究計画の報告	〃	〃	〃

8	”	”	”	”
---	---	---	---	---

授業科目	作業療法管理学	3 学年・後期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	旗手俊彦、太田久晶、(伊藤隆)、(津田克彦)、(小林里美)、(吉田美穂)、(森川敦子)、(二神雅一)		
概要	作業療法を実践する上での倫理的基盤となる生命倫理および職業倫理を学ぶと共に、実際の業務遂行に欠かせない組織(職場)の管理運営、リスクマネジメント、作業療法室開設に関わる基礎的知識、作業療法士としてのキャリア開発を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理および職業倫理の必要性について説明できる。</li> <li>2. 診療報酬(医療保険・介護保険)および施設認可の仕組みや指導、監査について説明できる。</li> <li>3. 医療における作業療法のリスクマネジメントについて説明できる。</li> <li>4. 作業療法部門の開設および組織マネジメントについて説明できる。</li> <li>5. 作業療法士に関連するキャリア開発について自身の意見を述べるができる。</li> </ol>		
関連科目	倫理と哲学、作業療法概論、作業療法治療学系科目		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	80%	学習態度は講義・演習等への参加状況から判断する。
	学習態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①大庭潤平編著 [最新刊] 「作業療法管理学入門」 医歯薬出版		
履修上の留意点	グループ学習では主体的に取り組むこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	生命倫理 職業倫理 その他関連する倫理の基本的知識	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	(旗手)
2	日本作業療法士協会倫理綱領 WFOT(世界作業療法士連盟)倫理綱領	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	池田
3	保健医療従事者の倫理と事例	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義・演習	〃
4	事例検討と発表	事前：グループによる課題の確認 事後：課題の振り返り	〃	〃
5	組織(職場)とマネジメント	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	〃
6	作業療法とマネジメント ー医療安全のマネジメントー	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	池田
7	作業療法とマネジメント ー医療組織のマネジメントー	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	伊藤
8	作業療法室の開設とリスクマネジメント(身体障害)①	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	太田
9	作業療法室の開設とリスクマネジメント(身体障害)②	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃

10	作業療法室の開設とリスクマネジメント(精神障害)	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(津田)
11	災害支援のマネジメントと作業療法の役割	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(小林)
12	作業療法士のキャリア開発 ー作業療法士基礎教育と大学院ー	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	池田
13	作業療法士のキャリア開発 ー作業療法士の国際交流と国際貢献ー	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(吉田)
14	作業療法士のキャリア開発 ー女性の活躍と作業療法	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(森川)
15	作業療法士のキャリア開発 ー作業療法と起業ー	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(二神)

授業科目	作業療法評価学 1	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	坂上真理、中島そのみ、森元隆文		
概要	的確な内容で作業療法を展開するためには、まず、「評価」を通じて、対象者の状態、および対象者を取り巻く環境について把握する必要がある。そのため、本講義では、作業療法における「評価」についての基本的な考え方を学習し、「評価」とはどのようなものであるのか理解を深める。また、対象領域ごとの「評価」の特徴についても学び、対象者に合わせた評価内容の選択の必要性を理解する。		
到達目標	1. 作業療法における評価の目的・意義を説明できる。 2. 評価を実施する際の注意点を列挙できる。 3. 目的に合わせて評価項目を選択することができる。 4. 領域ごとに異なる評価内容の特徴を説明できる。 5. 評価結果を解釈する際の注意点を説明できる。		
関連科目	解剖学、解剖学実習、作業療法概論、作業療法評価学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	80%	筆記試験および、レポート課題の成績を合計した点数で判定を行う。
	レポート	20%	
教科書	①能登真一 編集 [2024 年・6,680 円] 「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第 4 版」 医学書院		
参考書	①日本作業療法士協会 監修 [2009 年・4,180 円] 「作業療法学全書 作業療法評価学」 協同医書出版社		
履修上の留意点	講義の順序が変更になる場合がある。その場合には、通知文を掲示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	作業療法における評価の目的およびその方法について	事前：教科書 P3-10 を読む 事後：講義内容の復習	講義	太田
2	評価手段とその特徴、評価結果の解釈と治療目標について	事前：教科書 P15-22 を読む 事後：講義内容の復習	〃	〃
3	治療介入効果の判定、診療記録・報告書作成の意義について	事前：教科書 P23-32 を読む 事後：講義内容の復習	〃	〃
4	面接及び観察の実施方法と注意点について	事前：教科書 P36-52 を読む 事後：講義内容の復習	〃	〃
5	関節可動域検査と筋力検査について	事前：教科書 P72-95 を読む 事後：講義内容の復習	〃	〃
6	姿勢観察や動作分析について	事前：教科書 P138-150 を読む 事後：講義内容の復習	〃	〃
7	感覚検査と反射検査について 筋緊張の検査、協調性検査について	事前：教科書 P114-137, P151-167 を読む 事後：演習内容のまとめ及び記録	講義・演習	〃
8	ADL 評価と QOL 評価について レントゲン写真、CT 画像、MRI などによる画像評価について	事前：教科書 P213-255 を読む 事後：講義内容の復習	講義	〃

9	身体障害領域における評価の特徴について 1	事前：教科書 P274-409 を読む 事後：演習内容のまとめ及び記録	講義・演習	〃
10	身体障害領域における評価の特徴について 2	事前：教科書 P274-409 を読む 事後：演習内容のまとめ及び記録	〃	〃
11	精神障害領域における評価の特徴について 1 情報収集と面接	事前：教科書 P468-543 を読む 事後：演習内容のまとめと記録	〃	森元
12	精神障害領域における評価の特徴について 2 観察評価	事前：教科書 P468-543 を読む 事後：演習内容のまとめと記録	〃	〃
13	発達障害領域における評価の特徴について	事前：教科書 P546-600 を読む 事後：講義内容の復習	講義	中島
14	高齢期における評価の特徴について	事前：参考書(作業療法全書 P296-299)を読む 事後：配布プリントの確認、参考書(作業療法全書 P299-315)を読む	〃	坂上
15	高次脳機能障害に対する評価の特徴について 講義の総括	事前：教科書 P440-466 を読む 事後：講義内容の復習、レポート作成	〃	太田

授業科目	作業療法評価学 2	2 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	池田 望、中村充雄、齊藤秀和、早崎涼太		
概要	作業療法評価学 1 では、評価に関する基本的な知識を学習し、その必要性や重要性を確認した。本講義では、その知識をもとに、測定方法・検査方法に関する実技演習を行い、知識と技術の統合を図る。さらに、得られた結果の解釈の仕方、および治療介入につなげるための結果の要約の必要性を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 測定方法・検査方法の実施内容を学習し、手順に沿ってそれぞれを実施できる。</li> <li>2. 測定や検査を実施した際に、着目すべき点、留意すべき点を説明できる。</li> <li>3. 評価結果の解釈ができる。</li> <li>4. 治療介入につなげるための結果の要約ができる。</li> </ol>		
関連科目	解剖学、解剖学演習、運動学 1、作業療法評価学 1		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	実技試験	80%	実技試験および、レポート課題の成績を合計した点数で判定を行う。
	レポート	20%	
教科書	①津山直一 訳 [2020 年・8,580 円] 「新・徒手筋力検査法 第 10 版」 協同医書出版社		
参考書	①福田修 監修 [2010 年・4,180 円] 「ROM 測定 第 2 版」 三輪書店		
履修上の留意点	関節可動域検査や徒手筋力検査の講義・演習では、ジャージやトレーナーの上下など動きやすい服装で出席すること。徒手筋力検査の演習では、解剖学の教科書、参考書を持参すること。講義の順序が変更になる場合がある。変更がある場合には、通知文にて周知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	関節可動域検査の概要 関節可動域の測定手技(手指の各関節、手関節、前腕 1)	事前:作業療法評価学 1 で配布した ROM 測定に関する資料を読む。手指の各関節、手関節、前腕の ROM 測定手技を予習する。 事後:手指の各関節、手関節、前腕の ROM 測定手技を復習する。	講義・演習	太田・齊藤
2	関節可動域の測定手技(手指の各関節、手関節、前腕 2)	事前:手指の各関節、手関節、前腕の ROM 測定手技を予習する。 事後:手指の各関節、手関節、前腕の ROM 測定手技を復習する。	〃	〃
3	関節可動域の測定手技(肘関節、肩関節、肩甲帯 1)	事前:肘関節、肩関節、肩甲帯の ROM 測定手技を予習する。 事後:肘関節、肩関節、肩甲帯の ROM 測定手技を復習する。	〃	中村・早崎
4	関節可動域の測定手技(肘関節、肩関節、肩甲帯 2)	事前:肘関節、肩関節、肩甲帯の ROM 測定手技を予習する。 事後:肘関節、肩関節、肩甲帯の ROM 測定手技を復習する。	〃	〃
5	関節可動域の測定手技(股関節、膝関節、足関節、足部)	事前:股関節、膝関節、足関節、足部の ROM 測定手技を予習する。	〃	齊藤・早崎

		事後：股関節、膝関節、足関節、足部のROM測定手技を復習する。		
6	関節可動域の測定手技(頸部、体幹)	事前：頸部、体幹のROM測定手技を予習する。 事後：頸部、体幹のROM測定手技を復習する。	〃	〃
7	関節可動域検査の総合演習 1	事前：授業で学習したROMの評価手技を練習する。 事後：授業で学習したROMの評価手技を復習する。	〃	太田・中村・齊藤・早崎
8	関節可動域検査の総合演習 2	事前：授業で学習したROMの評価手技を練習する。 事後：授業で学習したROMの評価手技を復習する。	〃	〃
9	関節可動域検査の総合演習 3	事前：授業で学習したROMの評価手技を練習する。 事後：レポートを作成する。	〃	〃
10	徒手筋力検査の概要 徒手筋力検査法を用いた測定手技(肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋 1)	事前：肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	太田・齊藤
11	徒手筋力検査法を用いた測定手技(肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋 2)	事前：肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：肘関節、前腕、手関節の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃
12	徒手筋力検査法を用いた測定手技(母指の運動に関する筋)	事前：母指の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：母指の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃
13	徒手筋力検査法を用いた測定手技(手指の運動に関する筋)	事前：手指の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：手指の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃
14	徒手筋力検査法を用いた測定手技(肩甲骨の運動に関する筋 1)	事前：肩甲骨の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：講義で学習した肩甲骨の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	中村・早崎
15	徒手筋力検査法を用いた測定手技(肩甲骨の運動に関する筋 2)	事前：肩甲骨の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：講義で学習した肩甲骨の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃
16	徒手筋力検査法を用いた測定手技(肩関節の運動に関する筋 1)	事前：肩関節の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：講義で学習した肩関節の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃
17	徒手筋力検査法を用いた測定手技(肩関節の運動に関する筋 2)	事前：肩関節の運動に関する筋のMMTを予習する。 事後：講義で学習した肩関節の運動に関する筋のMMTを復習する。	〃	〃



18	徒手筋力検査法を用いた測定手技(股関節の運動に関する筋 1)	事前：股関節の運動に関する筋の MMT を予習する。 事後：股関節の運動に関する筋の MMT を復習する。	〃	齊藤・早崎
19	徒手筋力検査法を用いた測定手技(股関節の運動に関する筋 2)	事前：股関節の運動に関する筋の MMT を予習する。 事後：股関節の運動に関する筋の MMT を復習する。	〃	〃
20	徒手筋力検査法を用いた測定手技(膝関節、足関節の運動に関する筋 1)	事前：膝関節、足関節の運動に関する筋の MMT を予習する。 事後：膝関節、足関節の運動に関する筋の MMT を復習する。	〃	〃
21	徒手筋力検査法を用いた測定手技(膝関節、足関節の運動に関する筋 2)	事前：膝関節、足関節の運動に関する筋の MMT を予習する。 事後：膝関節、足関節の運動に関する筋の MMT を復習する。	〃	〃
22	徒手筋力検査の総合演習 1	事前：授業で学習した MMT の評価手技を練習する。 事後：授業で学習した MMT の評価手技を復習する。	〃	太田・中村・齊藤・早崎
23	徒手筋力検査の総合演習 2	事前：授業で学習した MMT の評価手技を練習する。 事後：授業で学習した MMT の評価手技を復習する	〃	〃
24	徒手筋力検査の総合演習 3	事前：授業で学習した MMT の評価手技を練習する。 事後：レポートを作成する。	〃	〃
25	上肢機能検査の概要、実施方法、結果の解釈 1	事前：作業療法評価学 1 で配布した上肢機能検査に関する資料を読む。 事後：講義・演習内容を整理、復習する。	〃	太田・早崎
26	上肢機能検査の概要、実施方法、結果の解釈 2	事前：作業療法評価学 1 で配布した上肢機能検査に関する資料を読む。 事後：講義・演習内容を整理、復習する。	〃	〃
27	医療面接の概要、実施方法 1	事前：マイクロカウンセリングの資料を読む。	〃	池田
28	医療面接の概要、実施方法 2	事後：講義・演習内容を復習する。	〃	〃
29	高次脳機能検査の実施方法 1	事前：作業療法評価学 1 で配布した高次脳機能検査に関する資料を読む。	〃	太田・齊藤
30	高次脳機能検査の実施方法 2 本講義・演習の総括	事前：作業療法評価学 1 で配布した高次脳機能検査に関する資料を読む。 事後：講義・演習内容を整理、復習する。	〃	〃

授業科目	作業療法臨床実践法（オスキー）1	3 学年・前期・1 単位（30 時間）	
		作業	必修

科目担当責任者	中村充雄（保健医療学研究棟 E502 号） e-mail : micchan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村裕二、森元隆文、齊藤秀和、作業療法学科教員		
概要	臨床現場では、対象者へ適切に関わりながら、検査や面接の実施が求められる。そこで、本科目では、実際の患者を想定した状況で検査や面接の課題に取り組み、実践能力の向上を目指す。学習の到達度については、Basic OSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床応用能力試験) を用いた評定を行い、検査や面接技法に併せて、臨床に望ましい身なりや態度、マナーについての習得状況も確認する。また、Basic OSCE 後には、試験課題に対する振り返りを実施し、学生自身が問題点に気づき、その対処方法を学ぶことで、更なる知識や技術の深まりを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習生として相応しい身なりと態度で模擬患者に接し、良好な関係を構築することができる。</li> <li>2. 身体障害・高齢期領域の模擬患者に対して適切な動作の誘導・介助、そして、評価を実施することができ、得られた結果を報告することができる。</li> <li>3. 精神障害領域の模擬患者に対して適切な面接・評価を実施することができ、得られた結果を報告することができる。</li> <li>4. 臨床技能や対象者への接遇などの自己の問題点を認識し、それに対する改善策を述べることができる。</li> </ol>		
関連科目	作業療法評価学2、身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、高齢期作業療法学、作業療法臨床実践法(オスキー)2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実技試験	70%	実技試験および、レポート課題の成績を合計した点数で判定を行う。
	レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①才藤栄一 監修 [2020年・6,050円] 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編 第2版補訂版」 金原出版 ②才藤栄一 監修 [2022年・6,050円] 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版」 金原出版		
履修上の留意点	Basic OSCE は臨床実習3に向けた準備として取り組むこと。講義の開催日に変更がある場合は、通知文を掲示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション: 本科目の実施目的、学習方法、実技試験(Basic OSCE)の実施方法、および、評定方法、履修上の留意事項 課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 1	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	講義・演習	中村(充)・齊藤
2	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 2	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	"	"
3	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 3	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	"	"
4	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 4	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	"	"
5	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 5	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握	"	"

		事後：課題に応じた対応方法の練習		
6	課題内容に基づいた実技演習：身体障害・高齢期領域 6	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
7	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 1	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	森元
8	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 2	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
9	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 3	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
10	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 4	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
11	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 5	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
12	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 6	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
13	フィードバックセミナー：評価者からの学生全体に向けた課題遂行に関するフィードバック	事前：課題に応じた対応方法の練習 事後：課題内容に対する振り返り	〃	中村(充)・中村(裕)・森元・齊藤・作業療法学科全教員
14	Basic OSCE 後セミナー1：Basic OSCE で撮影されたビデオを各学生が視聴し、各自が取り組めた点、および、修正すべき点を振り返る	事後：リフレクション用紙の記入	〃	〃
15	Basic OSCE 後セミナー2：Basic OSCE で撮影されたビデオを各学生が視聴し、各自が取り組めた点、および、修正すべき点を振り返る	事後：リフレクション用紙の記入	〃	〃

授業科目	作業療法臨床実践法（オスキー）2	3 学年・後期・1 単位（30 時間）	
		作業	必修

科目担当責任者	中村充雄（保健医療学研究棟 E502 号） e-mail : micchan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村裕二、森元隆文、齊藤秀和、作業療法学科教員		
概要	臨床現場では、対象者へ適切に関わりながら、検査や面接、治療介入の実施が求められる。そこで、本科目では、実際の患者を想定した状況で検査や面接、治療介入に関する課題に取り組み、実践能力の向上を目指す。学習の到達度については、Advanced OSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床応用能力試験) を用いた評定を行い、検査や面接技法のほか、治療介入方法の習得状況を確認する。また、これに併せて、臨床実習生として相応しい身なりや態度、マナーの習得についても確認する。Advanced OSCE 後には、試験課題に対する振り返りを実施し、学生自身が問題点に気づき、その対処方法を学ぶことで、更なる知識や技術の深まりを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習生として相応しい身なりと態度で模擬患者に対応し、良好な関係を構築することができる。</li> <li>2. 身体障害・高齢期領域の模擬患者に対して適切な動作の誘導や介助、評価、介入を実施することができ、得られた結果を報告することができる。</li> <li>3. 精神障害領域の模擬患者に対して適切な面接や評価、介入を実施することができ、得られた結果を報告することができる。</li> <li>4. 発達障害領域の模擬患者に対して適切な動作の誘導や介助、評価、介入を実施することができ、得られた結果を報告できる。</li> <li>5. 臨床技能、模擬患者への接遇などの自己の問題点を認識し、それに対する改善策を述べるができる。</li> </ol>		
関連科目	作業療法臨床実践法(オスキー)1、身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、発達障害作業療法学、高齢期作業療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実技試験	70%	実技試験および、レポート課題の成績を合計した点数で判定を行う。
	レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①才藤栄一 監修 [2020年・6,050円] 「PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定 編 第2版補訂版」 金原出版 ②才藤栄一 監修 [2022年・6,050円] 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版」 金原出版		
履修上の留意点	Advanced OSCE は総合臨床実習に向けた準備として取り組むこと。講義の開催日に変更がある場合は、通知文を掲示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション: 本科目の実施目的、学習方法、実技試験(Advanced OSCE)の実施方法、および、評定方法、履修上の留意事項 課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 1	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	講義・演習	中村(充)・齊藤
2	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 2	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
3	課題内容に基づいた実技演習: 身体障害・高齢期領域 3	事前: 配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後: 課題に応じた対応方法の練習	〃	〃

4	課題内容に基づいた実技演習：身体障害・高齢期領域 4	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
5	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 1	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	森元
6	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 2	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
7	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 3	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
8	課題内容に基づいた実技演習：精神障害領域 4	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
9	課題内容に基づいた実技演習：発達障害領域 1	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	中村(裕)
10	課題内容に基づいた実技演習：発達障害領域 2	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
11	課題内容に基づいた実技演習：発達障害領域 3	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
12	課題内容に基づいた実技演習：発達障害領域 4	事前：配布資料を熟読し、課題の設定条件および実施内容を把握 事後：課題に応じた対応方法の練習	〃	〃
13	Advanced OSCE 後セミナー1：Advanced OSCE で撮影されたビデオを各学生が視聴し、各自が取り組めた点、および、修正すべき点を振り返る	事後：リフレクション用紙の記入	〃	中村(充)・中村(裕)・森元・齊藤・作業療法学科全教員
14	Advanced OSCE 後セミナー2：Advanced OSCE で撮影されたビデオを各学生が視聴し、各自が取り組めた点、および、修正すべき点を振り返る	事後：リフレクション用紙の記入	〃	〃
15	Advanced OSCE 後セミナー3：Advanced OSCE で撮影されたビデオを各学生が視聴し、各自が取り組めた点、および、修正すべき点を振り返る	事後：リフレクション用紙の記入	〃	〃

授業科目	日常生活適応学	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村裕二 (保健医療学研究棟 E503 号) e-mail : yujin@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(梅田信吾)		
概要	作業療法士は対象者の日常生活動作(ADL)を再建する専門家である。そのため作業療法士は、障害の有無に関わらず、ヒトのADLについて科学的な理解を深める必要がある。本講義では、ADLの概念と障害モデルとの関係を理解するとともに、生活の質(QOL)の理念に関する理解を深める。更に、QOLを向上させるためにADL支援や生活環境整備、社会的資源の利用が果たす役割について理解する。		
到達目標	1. ADLの概念や評価方法について説明できる。 2. 生活の質に関する概念が説明でき、ADLや生活環境整備、社会的資源との関わりについて具体的に説明できる。 3. ADLへの作業療法の介入方法について概略を説明できる。		
関連科目	作業療法概論、基礎作業学1、作業療法評価学1		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	80%	
	学習態度	20%	
教科書	①日本作業療法士協会監修 [2009年・3,780円] 「作業療法学全書 作業療法技術学3 日常生活活動」協同医書出版社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	主体的な講義・演習への参加を必要とする。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項、ADLの概念について知る。	事後：講義ノート、配付資料	講義	中村
2	QOLとADLの関連について学ぶ、国際生活機能分類とADLの関係について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
3	ADLの構成要素・構造・評価方法について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
4	既存の評価方法について比較しそれぞれの特性を知る。	事後：講義ノート、配付資料	講義・演習	〃
5	生活環境とADLの関連について知る。	事後：講義ノート、配付資料	講義	〃
6	福祉機器の給付の仕組みと利用方法について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
7	基本モジュール等の解説と簡単な平面図の理解。住宅改造の基本的ポイントを学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	講義・演習	〃
8	基本モジュール等の解説と簡単な平面図の理解。住宅改造の基本的ポイントを学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
9	住宅改修の基礎的なポイントを学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃

10	姿勢のポジショニングやトランスファーに関する理論について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
11	姿勢のポジショニングやトランスファーに関する理論について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
12	装具・義足の目的、種類、適合に関する基礎理論を学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	講義	(梅田)
13	装具・義足の目的、種類、適合に関する基礎理論を学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	〃
14	ADL 動作に関する基礎的な評価、治療、治療手技について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	〃	中村
15	普通型車いすの特性と基本的な操作方法について学ぶ。	事後：講義ノート、配付資料	講義・演習	〃



授業科目	作業療法治療学総論	4 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科教員全員		
概要	作業療法治療過程を概観し、今後必要な知識や技術についての認識を高め、作業療法専門科目および臨床実習の内容を統合していく。その中で作業療法の治療的根拠を探究する。症例研究報告を通してそれらを検討していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法治療に関する歴史的変遷を説明できる。</li> <li>2. 活動能力障害に関する治療概念と方法を説明できる。</li> <li>3. 高次脳機能・精神障害に関する治療概念と方法を説明できる。</li> <li>4. 作業の治療的利用の概略を説明できる。</li> </ol>		
関連科目	作業療法評価学、各領域の作業療法治療学、総合臨床実習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	試験	80%	
	レポート	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①石川 齊、古川 宏 [2021 年] 「図解作業療法技術ガイド—根拠と臨床経験にもとづいた効果的な実践のすべて 第4版」 文光堂		
履修上の留意点	臨床実習で経験した症例内容をさらに深め治療者としての基礎を固める講義である。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	作業と治療学との関連	事前：なし 事後：配付資料を精読のこと	講義	仙石
2	作業療法治療学の歴史的変遷	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	〃	〃
3	喀痰吸引等、ベットサイド支援方法 1	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	演習	未定
4	喀痰吸引等、ベットサイド支援方法 1	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	演習	未定
5	地域支援の実際 1	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	グループ 学習	全教員
6	地域支援の実際 2	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	〃	全教員
7	地域支援の実際 3	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	〃	全教員
8	知識の整理と講義のまとめ	事前：配付資料を精読のこと 事後：関連書籍・文献を確認	講義	全教員



授業科目	身体障害作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村眞理子 (保健医療学研究棟 E511 号) e-mail : mnaka@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村充雄、(小渡 充)、(後藤葉子)		
概要	身体障害領域の作業療法の対象となる疾患と臨床像を理解し、身体障害に対する作業療法の治療理論、介入方法の基礎的知識を学習する。整形外科系疾患、中枢神経系疾患、神経・筋疾患、内科系疾患の身体障害に対する作業療法の代表的疾患について医学的知識と機能障害を理解し、治療に必要な基礎知識を習得する。さらに障害像、作業療法の評価の流れ、各疾患・障害に必要な評価法と評価のまとめ方を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体障害作業療法治療の対象疾患・障害を列挙できる。</li> <li>2. 身体障害に対する評価の流れを説明できる。</li> <li>3. 身体障害に用いる作業療法評価法を列挙し、それを実施できる知識を述べることができる。</li> <li>4. 各疾患に必要な評価を列挙し、それを実施できる手法を説明できる。</li> <li>5. 身体障害作業療法治療の治療構造について説明できる。</li> </ol>		
関連科目	作業療法評価学 1、作業療法評価学 2、日常生活適応学、基礎作業学 1、基礎作業学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	70%	
	提出物	20%	
	学習態度	10%	
教科書	①社団法人日本作業療法協会編 [2009 年] 「作業療法学全書(改訂第 3 版)作業治療学 1 身体障害」 協同医書出版社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	すでに履修済みの関連する科目を復習して講義に望むこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項	事前：関連する専門基礎科目の復習をしておく 事後：配付資料を読む	講義	中村
2	身体障害の定義・身体障害の作業療法の役割・対象疾患	事前：教科書の該当部分を読んでくる 事後：配付資料を読む	〃	〃
3	評価・治療の流れ・疾患・障害別評価 評価の実際	事前：評価学の復習をしておく 事後：対象疾患と評価の項目を確認する	〃	〃
4	症状の概要・評価	事前：配付資料を読んでおく 事後：教科書の該当部分を読む	〃	〃
5	作業治療学・治療アプローチ・治療の概要と原則	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料と教科書を併せて読む	〃	〃
6	日常生活活動	事前：対象疾患の障害を確認しておく 事後：配布資料を読む	講義・演習	〃
7	高次脳機能障害の概要	事前：履修済みの関連科目の復習 事後：教科書の該当箇所を読む	〃	〃

8	評価のまとめ方・記録・報告	事前：配布資料を読む 事後：配付資料を読む	〃	〃
9	切断・義手 末梢神経損傷	事前：演習準備 事後：義手のチェックアウトの記録	〃	中村(充)
10	症状の概要と治療原則 脳血管障害	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料を読む	講義	中村
11	症状の概要と治療原則 神経筋疾患・その他の疾患	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料を読む	〃	〃
12	症状の概要と治療原則 脊髄損傷	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料を読む	〃	(小渡)・ 中村
13	症状の概要と治療原則 脊髄損傷のADL	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料を読む	〃	〃
14	症状の概要と治療原則 内部障害	事前：教科書の該当部分を読む 事後：配付資料を読む	〃	(後藤)・ 中村
15	スプリント	事前：演習準備 事後：スプリントのチェックアウトの 記録	講義・演習	中村

授業科目	身体障害作業療法治療学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村眞理子 (保健医療学部研究棟 E511 号) e-mail : mnaka@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、中村充雄、(清水兼悦)、(越後 歩)、(白戸力弥)		
概要	身体障害領域における作業療法介入の具体的な技法を取り上げ、身体障害作業療法学で得た知識をもとに、身体障害に用いる作業療法の治療法・記録・報告の技術を疾患および作業療法の治療的介入を学ぶ。本授業は、身体障害に対する作業療法の中心的な対象となっている各疾患の症例をとりあげ、症例の問題の分析を通して必要な医学的知識を獲得し、作業療法で用いられる理論を理解し、治療方法を理解する。		
到達目標	1. 各疾患の典型例を説明できる。 2. 各対象疾患・障害の作業療法の治療構造を立案できる。 3. 症例検討に積極的に参加し、疑問を解決できる。		
関連科目	身体障害作業療法学、作業療法評価学 1、作業療法評価学 2、日常生活適応学、基礎作業学 1、基礎作業学 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	筆記試験	40%	提出物は、提出状況、内容の目標達成状況により判断する。 学習態度は、グループ学習への参加状況、積極的な発言・発表を含め、総合的に判断する。
	提出物	30%	
	学習態度	30%	
教科書	①社団法人日本作業療法協会編 [2009 年] 「作業療法学全書(改訂第 3 版)作業治療学 1 身体障害」 協同医書出版社		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	身体障害作業療法学で学んだことを整理しておくこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-2	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項 症例を提示し評価の検討	事前：症例サマリーシートの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ	講義・演習	中村
3-4	症例を提示し評価の検討	事前：症例サマリーシートの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ	演習	中村・ 中村(充)
5-6	治療プログラムの立案	事前：症例サマリーシートの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ	講義・演習	中村
7-8	症例の総合的検討	事前：症例サマリーシートの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ	演習	中村・ 中村(充)
9-10	症例の総合的検討	事前：症例サマリーシートの準備 事後：ディスカッション内容のまとめ	〃	〃
11-12	治療プログラムの実際	事前：演習準備 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
13-14	治療理論と手技の実際 (リウマチ)	事前：教科書の該当部分を読んでおく 事後：配付資料と教科書の確認	講義・演習	(清水)・ 中村
15-16	治療理論と手技の実際 (手の外科)	事前：教科書の該当部分を読んでおく 事後：配付資料と教科書の確認	〃	(越後)・ 中村
17-18	治療理論と手技の実際 (骨折・スプリント)	事前：教科書の該当部分を読んでおく 事後：配付資料と教科書の確認	〃	(白戸)・ 中村

19-20	治療理論と手技の実際（中枢神経疾患）	事前：教科書の該当部分を読んでおく 事後：配付資料と教科書の確認	〃	太田
21-22	課題研究発表と演習	事前：発表資料と演習の準備 事後：学習内容のまとめ	演習	中村・ 中村(充)
23-24	課題研究発表と演習	事前：発表資料と演習の準備 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
25-26	課題研究発表と演習	事前：発表資料と演習の準備 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
27-28	課題研究発表と演習	事前：発表資料と演習の準備 事後：学習内容のまとめ	〃	〃
29-30	まとめ	事前：学習内容の整理 事後：学習内容の整理	講義	中村

授業科目	精神障害作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元隆文、横山和樹、(宮田友樹)、(常盤野晴子)		
概要	精神障害および精神障害を対象とする作業療法の理解を深めるために、精神保健医療福祉の現状、障害の捉え方、作業療法が果たす機能と役割、その治療構造、評価から治療・援助へ至る一連の作業療法の流れを学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の精神保健医療福祉の現状について概略を説明できる。</li> <li>2. 精神医療・保健・福祉領域における作業療法の役割を説明できる。</li> <li>3. 精神障害に対する評価から治療に至る作業療法の流れを説明できる。</li> <li>4. 主な精神疾患に対する作業療法の概略を説明できる。</li> <li>5. 精神障害当事者の視点から障害体験を説明できる。</li> </ol>		
関連科目	精神医学、神経内科学、臨床心理学、精神障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	①長崎重信監修 [2015] 「作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第2版 精神障害作業療法学」 MEDICAL VIEW		
参考書	①日本作業療法士協会監修 [2010] 「作業療法学全書 精神障害」 協同医書出版社		
履修上の留意点	精神医学等関連科目の復習をしておくこと。グループ演習では主体的に取り組むこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	日本の精神保健医療福祉の現状、精神保健医療福祉における作業療法の歴史	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	池田
2	精神医療における基礎的理論①：精神分析・来談者中心・生活臨床・他	”	”	”
3	精神医療における基礎的理論②：発達理論・集団理論・行動理論・認知行動療法・他	”	”	”
4	精神医療における基本的知識：薬物療法・予後と再発・病識・リカバリー	”	”	”
5	作業療法評価：評価の流れと手段	”	”	”
6	作業療法評価：代表的検査、事例を通じた評価のまとめ方	”	”	”
7	治療構造と治療・援助の場および症状へのアプローチ	”	”	”
8	プログラム立案の考え方	”	”	”
9	統合失調症の作業療法①—事例を用いた討議	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	演習	池田・森元
10	統合失調症の作業療法②—発表	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	”	”

11	気分障害の作業療法①—事例を用いた討議	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	〃	池田・横山
12	気分障害の作業療法②—発表	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	〃	〃
13	依存症の作業療法①—事例を用いた討議	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	〃	池田・(宮田)
14	依存症の作業療法②—発表	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	〃	〃
15	当事者との交流による精神障害者の体験理解	事前：事前配布資料の確認 事後：配布資料復習	〃	池田・(常盤野)

授業科目	精神障害作業療法治療学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	森元隆文、横山和樹、(大川浩子)、(村上元)、(杉本香)、(板垣実)、(丸子慎平)、(矢部滋也)、他		
概要	精神障害作業療法学および臨床実習で学んだ知識と経験をもとに、精神障害を持つ対象者に対する作業療法評価と作業療法の治療技法について演習や実技を通して学ぶ。特に、事例を参照しながら各種精神疾患の特徴と個性、介入の視点を学習する。また、具体的な作業療法プログラムを立案し、実際に実施することによって、作業療法士としての対応方法や実施上の留意点について理解を深める。さらに、関係する介入理論と実技についても学習する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法評価から治療目標を設定し、有効な治療構造を設定できる。</li> <li>2. 治療に必要な背景因子や治療理論について説明できる。</li> <li>3. 精神障害作業療法プログラムを立案し、作業療法士としての対応方法や実施上の留意点を説明できる。</li> <li>4. 精神障害作業療法プログラムの実施、リーダー体験ができる。</li> <li>5. 精神障害作業療法プログラムの実施に関連した介入理論を説明できる。</li> </ol>		
関連科目	精神医学、臨床心理学、精神障害作業療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	60%	提出物：提出物の有無、内容から判断する 学習態度：グループワークへの参加状況、ディスカッションの参加状況から判断する
	提出物	20%	
	学習態度	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①長崎重信監修 [2015 年] 「作業療法ゴールドマスターテキスト改訂第 2 版 精神障害作業療法学」 MEDICAL VIEW ②日本作業療法士協会監修 [2010 年] 「作業療法学全書 精神障害」 協同医書出版社		
履修上の留意点	グループ学習(演習)は主体的に取り組むこと。関係資料は適宜配布する。 症例検討・治療プログラム立案実施については臨床実習 2 での症例数の状況により回数の調整を行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	症例検討方法論	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	講義・演習	池田
2	症例検討方法論 症例の提示と共有	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	〃
3	症例検討 1	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	演習	池田・森元・横山
4	症例検討 1-2	〃	〃	〃
5	症例検討 2	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	演習	池田・森元・横山
6	症例検討 2-2	〃	〃	〃
7	症例検討 3	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	演習	池田・森元・横山
8	症例検討 3-2	〃	〃	〃

9	症例検討4	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	演習	池田・森元・横山
10	症例検討4-2	〃	〃	〃
11	不安障害・強迫障害・人格障害・ストレス関連障害等と心理社会的治療介入(含む災害精神医療)	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	講義・演習	池田
12	認知症と心理社会的治療介入 ーBPSDを中心にー	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	横山
13	精神科臨床におけるコミュニケーションの実際	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	(杉本・板垣・丸子)
14	〃	〃	〃	〃
15	治療的面接技術 ーマイクロカウンセリング・動機付け面接ー	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	池田
16	集団療法技術 ー集団による介入法の概要と集団精神療法ー	〃	〃	〃
17	認知行動療法・認知機能リハビリテーション	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	森元
18	〃	〃	〃	〃
19	生活技能訓練(SST： Social Skills Training)	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	(村上)
20	〃	〃	〃	〃
21	地域支援と当事者の視点ーリカバリ概念に基づく作業療法支援と元気回復行動プラン(WRAP)	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	(大川)
22	〃	〃	〃	〃
23	当事者との協働とピアサポート	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	(矢部)
24	〃	〃	〃	〃
25	司法精神医療と作業療法の実際	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	〃	(未定)
26	〃	〃	〃	〃
27	作業療法プログラムの立案・実施1	事前：関連資料の確認 事後：資料の復習	演習	池田・森元・横山
28	作業療法プログラムの立案・実施2	〃	〃	〃
29	作業療法プログラムの立案・実施3	〃	〃	〃
30	作業療法プログラムの立案・実施4	〃	〃	〃



授業科目	発達障害作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中島そのみ (保健医療学研究棟 E509 号 ) e-mail : sonomi@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、中村裕二		
概要	人間の正常発達を理解し、発達障害児の評価に必要な正常な発達段階を理解すると共に、発達期に生じる種々の障害の問題点とそれらに対する作業療法の適応・その実際について学ぶ。特に発達障害児に対する評価全般にわたる知識と、作業療法治療に至るプロセスについて基本的な知識と技術について学習を行う。		
到達目標	1. 発達障害の基本的な概念が解る。 2. 発達障害領域における作業療法評価の知識を習得する。 3. 評価結果から作業療法治療に至るプロセスの概略を説明できる。		
関連科目	人間発達学 1・2、運動学 2、作業療法評価学 2、発達障害作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	小テスト・提出物	20%	
	定期試験	80%	
教科書	①社団法人 日本作業療法士協会 監修 [2010 年] 「作業療法学全書 [改訂第 3 版] 第 6 巻 作業治療学 3 発達障害」 協同医書出版社		
参考書	①上杉雅之 監修、辛島千恵子 編集 [2016 年] 「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版		
履修上の留意点	本講義は特に、人間発達学 1・2、運動学 2、作業療法評価学 2 で学んだ知識を基盤として行う。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	発達障害児という概念を理解し、そのリハビリテーションの全体的な構造と作業療法の果たす役割について学習する。また、様々な治療方法について、その学問的背景と繋がりについて学ぶ	事前：教科書の当該部分を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	講義	仙石
2	発達障害児に実際にどのようなプロセスで評価を行っていくのかを、障害特性に応じて学習する	事前：教科書の当該部分を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
3	姿勢・移動の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学 2、運動学 2 などで学習した運動発達、動作分析について確認しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
4	姿勢・移動の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
5	上肢機能の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：作業療法評価学 2 で学習した上肢機能・動作分析に関する内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	中島
6	上肢機能の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃

7	感覚・知覚の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
8	感覚・知覚能の発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
9	認知機能の発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解するとともに、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。教科書 pp4-6 「2-2Piaget-知的発達の研究」を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
10	言語発達に伴う変化を学習し、その評価方法を理解する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
11	言語発達に伴う変化を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：前回の配付資料と学習内容を復習しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
12	遊びの発達とその評価方法を学習し、作業療法と遊びとの関係を理解する	事後：配布資料を復習する。	〃	中村
13	社会性や行動の評価の視点と方法を理解し、障害により生じる問題を評価・分析する	事前：人間発達学1で学習した関連内容を復習しておく。教科書 pp20「応用行動分析理論」を読んでおく。 事後：配布資料を復習する。	〃	中島
14	発達障害作業療法で用いられるその他の評価について学習する	事前：配付資料を確認しておく。 事後：配布資料を復習する。	〃	〃
15	まとめ：症例に必要な評価計画を立案する	事前：これまでの学習内容を確認しておく。	〃	〃

授業科目	発達障害作業療法治療学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中島そのみ (保健医療学研究棟 E509 号 ) e-mail : sonomi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	仙石泰仁、中村裕二		
概要	発達障害作業療法学で学んだ知識をもとに、障害特性毎に体系的な評価と治療立案の技術を習得する。本講義では、より実践的な治療方法や支援技法を学ぶため、疾患特性と作業療法治療学との関連を教授するだけでなく、遊びの計画や自助具の製作過程において対象者への適応を考えることでより臨床的な知識の提供を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 症例を通して、評価の解釈、治療立案のプロセスを学ぶ。</li> <li>2. 発達障害作業療法において主に治療対象となる疾患について、その障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制を学ぶ。</li> <li>3. 福祉機器や自助具の適応について、実際に疾患に合わせた機器や自助具の作成を行い学習する。</li> <li>4. 発達障害作業療法と遊びについて、実際に遊びの計画等を通し、遊びの治療的側面を学習する。</li> <li>5. 作業療法以外のリハビリテーションや療育サービスの概要を理解し、チームアプローチの方法について学ぶ。</li> </ol>		
関連科目	小児科学、発達障害作業療法学、作業療法臨床実践法(オスキー) 1・2		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	定期試験	100%	
教科書	①社団法人 日本作業療法士協会 監修 [2010 年] 「作業療法学全書 [改訂第 3 版] 第 6 巻 作業治療学 3 発達障害」 協同医書出版社		
参考書	①岩谷力ら編集 [1996 年] 「小児リハビリテーション I・II」 医歯薬出版 ②上杉雅之 監修、辛島千恵子 編集 [2016 年] 「イラストでわかる発達障害の作業療法」 医歯薬出版		
履修上の留意点	本講義は 2 年次に学習した小児科学、3 年次に学習した発達障害作業療法学の知識を基盤として行う。 講義の順序、講義室が変更になる場合がある。その際は通知文を掲示する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	セミナー	仙石・中島・中村
2	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
3	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
4	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
5	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
6	症例発表を行い評価の解釈と治療立案のプロセスを学ぶ	事前：症例発表者は発表を準備する。	〃	〃
7	筋ジストロフィーを中心とした神経・筋疾患の障害構造の評価	事前：小児科学で学習した神経・筋疾患の内容を確認しておく。教科書 pp118-124 「神経筋疾患」の部分を読んでおく。	講義・演習	中村

8	筋ジストロフィーを中心とした神経・筋疾患の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した神経・筋疾患の内容を確認しておく。教科書 pp118-124 「神経筋疾患」の部分を読んでおく。	〃	〃
9	分娩麻痺を中心とした筋・骨格系障害の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：配付資料を読んでおく。	〃	〃
10	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の障害構造の評価	事前：小児科学で学習した脳性麻痺の内容を確認しておく。教科書 pp91-106 「脳性麻痺」の部分を読んでおく。	〃	仙石
11	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の治療原理、治療手技と療育体制①	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
12	脳性麻痺を中心とした中枢神経疾患の治療原理、治療手技と療育体制②	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
13	重症心身障害の評価と治療原理①	事前：脳性麻痺で学習した内容を復習しておく。教科書 pp106-118 「重症心身障害」の部分を読んでおく。	〃	中村
14	重症心身障害の評価と治療原理②	事前：脳性麻痺で学習した内容を復習しておく。教科書 pp106-118 「重症心身障害」の部分を読んでおく。	〃	〃
15	重症心身障害の治療手技と療育体制①	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
16	重症心身障害の治療手技と療育体制②	事前：前回の配布資料と学習内容を復習しておく。	〃	〃
17	肢体不自由児・者を想定した機器や自助具の作成①	事前：脳性麻痺・重症心身障害で学習した内容を復習しておく。	〃	中村・中島
18	肢体不自由児・者を想定した機器や自助具の作成②	事前：脳性麻痺・重症心身障害で学習した内容を復習しておく。	〃	〃
19	二分脊椎を中心とした脊髄障害の障害構造の評価	事前：リハビリテーション医学で学習した二分脊椎の内容を確認しておく。	〃	中島
20	二分脊椎を中心とした脊髄障害の治療原理、治療手技と療育体制	事前：リハビリテーション医学で学習した二分脊椎の内容を確認しておく。	〃	〃
21	知的能力障害の障害構造の評価	事前：教科書 pp160-172 「知的障害」の部分を読んでおく。	〃	〃
22	知的能力障害の治療原理、治療手技と療育体制の評価	事前：教科書 pp160-172 「知的障害」の部分を読んでおく。	〃	〃
23	自閉症スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)の障害構造の評価、治療原理	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 「学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害等」に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
24	自閉症スペクトラム症(自閉症スペクトラム障害)の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
25	限局性学習症(限局性学習障害)の障害構造の評価、治療原理	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
26	限局性学習症(限局性学習障害)の治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記	〃	〃

		載の関連内容を読んでおく。		
27	注意欠如・多動症(注意欠如・多動性障害)の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
28	発達性協調運動症(発達性協調運動障害)の障害構造の評価、治療原理、治療手技と療育体制	事前：小児科学で学習した関連内容を確認しておく。教科書 pp129-160 に記載の関連内容を読んでおく。	〃	〃
29	まとめ:症例検討①(疾患を想定し、実際に具体的な訓練プログラムを立案する	事前：配付資料を読んでおく。 事後：グループ学習	〃	〃
30	まとめ:症例検討②(疾患を想定し、実際に具体的な訓練プログラムを立案する	事前：配付資料を読んでおく。 事後：グループ学習	〃	〃

授業科目	高齢期作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(川添裕美)		
概要	高齢期作業療法領域で対象となる人々の障害構造並びに生活課題を理解する。それに基づき、高齢期作業療法の目的と役割、高齢期作業療法の流れと評価について学習する。さらに、対象者の特徴を踏まえた評価計画の立案方法と主要な評価法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢期作業療法が実施されている実践場所の特徴並びに、作業療法の目的と役割を説明できる。</li> <li>2. 対象となる高齢者の加齢変化並びに、発達課題と環境的な特徴、生活課題を説明できる。</li> <li>3. 高齢期障害者の主要な障害構造を説明できる。</li> <li>4. 高齢期作業療法の主要な過程と留意点を説明できる。</li> <li>5. 高齢期作業療法の対象者に必要な評価をその理由とともに説明できる。</li> <li>6. 高齢期作業療法に用いられる主要な評価法を説明できる。</li> </ol>		
関連科目	老年医学、作業療法評価学 1～2、日常生活適応学、作業理論と評価、高齢期作業療法治療学		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	試験	60%	1. 提出物について：レポート並びにワークシートの記載内容、提出状況により評価する (30%)。 2. 学習態度について：質疑並びにグループ学習への参加状況により評価する (10%)。
	提出物	30%	
	学習態度	10%	
教科書	①松房利憲編集 [2024 年・4,400 円] 「高齢期作業療法学第 4 版(標準作業療法学 専門分野)」 医学書院		
参考書	①坪田貞子編集 [2008 年・7,150 円] 「身体作業療法クイックリファレンス」 文光堂 ②山田孝編集 [2016 年・4,180 円] 「高齢期障害領域の作業療法第 2 版」 中央法規 ③一般社団法人日本作業療法士協会編著 [2021 年・4,400 円] 「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第 2 版」 医歯薬出版 ④潮見泰蔵、下田信明編集 [2019 年・6,600 円] 「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第 2 版」 羊土社		
履修上の留意点	関連する既修得科目の復習をすること。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	高齢期作業療法の実際(1) ・高齢期作業療法の対象と実践場所 ・社会動向と高齢期作業療法の変遷	事前：教科書 p5～13、p28～32 を読む。 事後：教科書 p116～131 を読む。	講義	坂上
2	高齢期作業療法の実際(2) ・高齢期の生活課題とニーズ・ディマンズ ・高齢期作業療法の目的 ・高齢期作業療法の実践例 (生活行為向上マネジメントの事例から)	事前事後：教科書 p23～27、p33～40 を読む。 事後：教科書 p102～115 を読む。	講義・演習	〃
3	高齢者の特徴(1) ・高齢期の心身機能と身体構造の特徴と評価	事前：教科書 p41～p45、p53～65 を読む。 事後：ワークシートの完成。	講義	〃
4	高齢者の特徴(2) ・老年症候群の特徴と評価 (廃用症候群、転倒、フレイル、ロコモティブ症候群)	事前：教科書 p45～51 を読む。 事後：ワークシートの完成。	〃	〃

5	高齢者の特徴(3) ・高齢期の心理と発達課題の特徴 (高齢期のライフイベントと社会適応) ・高齢期の環境の特徴と評価	事前：教科書 p14~17、p20~23、p51~52 を読む。	〃	〃
6	高齢期作業療法の評価(1) ・高齢期作業療法の流れと評価 ・高齢期のリスク管理 ・基本動作の評価(バランス機能、姿勢/動作分析)	事前：教科書 p81~101 を読む。	講義・演習	〃
7	高齢期作業療法の評価(2) ・日常生活活動と作業遂行の評価	事後：ワークシートの完成。	講義・演習	〃
8	介護老人保健施設の作業療法 ・チームマネジメント ・生活(障害)を支援するという事 ・生活行為向上マネジメントを活用した介入例	事前：介護保険制度を確認する。	講義	(川添)
9	高齢期作業療法の評価(3) ・疾患別評価①：中枢神経障害を有する高齢者	事前：指定資料を読む。	講義・演習	坂上
10	高齢期作業療法の評価(4) ・事例を用いた評価計画立案①	事前：指定資料を読む。 事後：レポートの作成。	演習	〃
11	高齢期作業療法の評価(5) ・事例を用いた評価計画立案②	事後：レポートの作成。	〃	〃
12	高齢期作業療法の評価(6) ・疾患別評価②：認知症を有する高齢者	事前：教科書 p66~77、p141~155 を読む。	講義	〃
13	高齢期作業療法の評価(7) ・疾患別評価③：運動器系疾患を有する高齢者	事後：指定資料を読む。	講義	〃
14	高齢期作業療法の評価(8) ・生活行為向上マネジメントの特徴と評価	事前：指定資料を読む。	講義・演習	〃
15	高齢期作業療法の評価(9) ・事例を用いた評価計画立案③	事後：レポートの修正。	〃	〃



授業科目	高齢期作業療法治療学	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤秀和、(代田沙穂)、(播磨孝司)、(南部浩志)、(高橋秀峰)		
概要	評価実習で対象となった実際の事例をもとに評価結果の統合、目標設定、介入計画の検討を通して、個別事例の特性に応じた作業療法過程を学習する。事例に基づき高齢期作業療法の疾患・障害別の作業療法過程を理解する。高齢期作業療法において用いられる評価法と目的ごとの介入法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提示された事例について必要な評価項目とその理由を説明できる</li> <li>2. 提示された事例について障害構造と目標を説明できる</li> <li>3. 提示された事例についてプログラムの立案ができる</li> <li>4. 高齢期作業療法で対象となる疾患・障害の特徴を理解し、主要な介入の原理と方法を説明できる</li> <li>5. 生活行為向上マネジメントの過程と特徴、意義を説明できる</li> </ol>		
関連科目	老年医学、作業療法評価学 1～2、日常生活適応学、高齢期作業療法学、作業療法理論と評価、臨床実習 3、総合臨床実習 1～3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考 1. 提出物について：レポート並びにワークシートの記載内容、提出状況により評価する (30%)。 2. 学習態度：全体討議並びにグループワークへの参加状況により評価する (10%)。
	試験	60%	
	提出物	30%	
	学習態度	10%	
教科書	①松房利憲他編集 [2024 年・4,400 円] 「高齢期作業療法第 4 版」 医学書院		
参考書	①小川敬之、竹田徳則 [2016 年・5,170 円] 「認知症の作業療法第 2 版」 医歯薬出版 ②山田孝編集 [2016 年・4,180 円] 「高齢期障害領域の作業療法第 2 版」 中央法規 ③一般社団法人日本作業療法士協会編著 [2021 年・4,400 円] 「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第 2 版」 医歯薬出版 ④潮見泰蔵、下田信明編集 [2019 年・6,600 円] 「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学第 2 版」 羊土社		
履修上の留意点	高齢者へのインタビューと観察の演習は介護老人保健施設で行い、演習要項は別冊に配布する。演習交通費は実費負担となる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	評価実習報告会(1) ・評価実習の報告と討議	事前：演習準備	演習	坂上・ (代田)
2	評価実習報告会(2) ・評価実習の報告と討議	事前：演習準備	〃	〃
3	評価実習報告会(3) ・評価実習の報告と討議	事前：演習準備	〃	〃
4	評価実習のまとめ(1) ・グループワークによる評価実習事例の検討	事後：発表用資料の作成	〃	坂上
5	評価実習のまとめ(2) ・グループワークによる評価実習事例の検討	事後：発表用資料の作成	〃	〃
6	評価実習の報告(1) ・各グループによる検討内容の報告	事後：レポートの作成	〃	坂上・ (代田)



7	評価実習の報告(2) ・各グループによる検討内容の報告 ・評価実習事例についての臨床的推論の視点	事後：レポートの作成	〃	〃
8	生活行為向上マネジメントの演習(1) ・生活行為向上マネジメント概論 ・文脈に基づく工程分析	事後：ワークシートの完成	講義・演習	坂上
9	生活行為向上マネジメントの演習(2) ・生活行為向上アセスメント演習シートの作成 (模擬事例)	事後：ワークシートの完成	〃	〃
10	生活行為／作業の聞き取り演習(1) ・高齢者へのインタビューと観察の演習準備	事後：演習準備の完成	演習	〃
11	生活行為／作業の聞き取り演習(2) ・高齢者へのインタビューと観察の演習準備	事後：演習準備の完成	〃	〃
12	生活行為／作業の聞き取り演習(3) ・高齢者へのインタビューと観察の演習	事後：演習の記録の完成	〃	坂上・ (高橋)
13	生活行為／作業の聞き取り演習(4) ・高齢者へのインタビューと観察の演習	事後：演習の記録の完成	〃	〃
14	生活行為／作業の聞き取り演習(5) ・高齢者へのインタビューと観察の演習	事後：演習の記録の完成	〃	〃
15	生活行為向上マネジメントの演習(3) ・生活行為向上プラン演習シートの作成(模擬事例)	事後：ワークシートの完成	〃	坂上・ 齊藤
16	生活行為向上マネジメントの演習(4) ・生活行為向上プラン演習シートの作成(模擬事例)	事後：ワークシートの完成	〃	〃
17	生活行為・作業の聞き取り演習(6) ・高齢者へのインタビューと観察の演習まとめ ・生活行為向上演習シートの作成(実事例)	事前：演習準備 事後：ワークシートの完成	〃	坂上
18	生活行為・作業の聞き取り演習(7) ・高齢者へのインタビューと観察の演習まとめ ・生活行為向上演習シートの作成(実事例)	事前：演習準備 事後：ワークシートの完成	〃	〃
19	生活行為・作業の聞き取り演習(8) ・聞き取り演習の報告会 ・生活行為向上マネジメントミニカンファレンス	事後：レポートの完成	講義・演習	坂上・ (高橋)
20	生活行為・作業の聞き取り演習(9) ・聞き取り演習の報告会 ・生活行為向上マネジメントミニカンファレンス	事後：レポートの完成	〃	〃
21	高齢者に対するシーティングと車椅子駆動(1) ・シーティングの講義と演習 ・車椅子駆動の講義と演習	事後：演習感想文の作成	〃	(播磨)・ 坂上
22	高齢者に対するシーティングと車椅子駆動(2) ・シーティングの講義と演習 ・車椅子駆動の講義と演習	事後：演習感想文の作成	〃	〃
23	高齢者に対する褥瘡管理(2) ・褥瘡評価の視点 ・体位変換の実技	事後：演習感想文の作成	〃	〃
24	高齢者に対する褥瘡管理(2) ・褥瘡評価の視点 ・体位変換の実技	事後：演習感想文の作成	〃	〃

25	中枢神経障害を有する対象者への高齢期作業療法(1) ・臨床的作業療法評価の視点 ・作業療法の目的 ・治療的な活動の導入	事後：配布資料を読む	〃	(南部)・坂上
26	中枢神経障害を有する対象者への高齢期作業療法(2) ・臨床的作業療法評価の視点 ・作業療法の目的 ・治療的な活動の導入	事後：配布資料を読む	〃	〃
27	認知症を有する対象者への高齢期作業療法(3) ・日常生活活動と作業への介入	事前：教科書 p185~217 を読む。	〃	坂上
28	認知症を有する対象者への高齢期作業療法(4) ・事例検討	事前：教科書 p185~217 を読む。	〃	〃
29	運動器系疾患を有する対象者への高齢期作業療法(1) ・作業療法介入の原理	事前：配布資料の確認	〃	〃
30	運動器系疾患を有する対象者への高齢期作業療法(2) ・事例検討	事前：配布資料の確認	〃	〃

授業科目	作業療法学研究	4 学年・後期・1 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科全教員		
概要	4 年間で学習した作業療法の知識や臨床実習での経験を再確認しつつ、作業療法研究の一端を各教員の指導のもとに行い、研究発表および論文作成を行うことを目的とする。		
到達目標	1 研究テーマを焦点化できる。 2 研究テーマの背景、関連論文、参考論文を検索できる。 3 研究テーマに沿った必要かつ的確な方法を選択できる。 4 研究対象についての的確な選択ができ、倫理的配慮ができる。 5 研究結果をまとめ、考察ができる。		
関連科目	作業療法研究法セミナー1、作業療法研究法セミナー2、総合臨床実習		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	論文	80%	
	研究発表	20%	
教科書	指定なし		
参考書	①白井 利明、高橋 一郎 [2013 年] 「よくわかる卒論の書き方(第2版)」 ミネルヴァ書房		
履修上の留意点	学生の主体的で積極的な参加が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	授業の進め方のガイダンス、論文のまとめ方	事前：なし 事後：配付資料を精読すること	講義	仙石
2	研究論文の構成について学ぶ	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	全教員
3	先行研究を探索し研究テーマとの関連を明らかにする 1	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	演習	〃
4	研究データの収集を行い、適切な研究方法について学ぶ 1	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
5	研究データの収集を行い、適切な研究方法について学ぶ 3	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
6	研究データの収集を行い、適切な研究方法について学ぶ	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
7	研究内容を的確にまとめプレゼンテーションの方法について学ぶ 1	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
8	研究内容を的確にまとめプレゼンテーションの方法について学ぶ 2	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
9	研究内容を的確にまとめプレゼンテーションの方法について学ぶ 3	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
10	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ 1	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃

11	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ2	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
12	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ3	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
13	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ4	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
14	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ5	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃
15	研究論文を作成し、研究成果の客観的な提示方法や論文作成の方法について学ぶ6	事前：配付資料を精読すること 事後：関連書籍を確認	〃	〃

授業科目	地域作業療法学	3 学年・前期・2 単位 (30 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	横山和樹 (保健医療学研究棟 E505 号) e-mail : k.yokoyama@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	坂上真理、中島そのみ、森元隆文、(本間淳子)		
概要	作業療法は、障害者や高齢者だけではなく、全ての人の健康と幸福を促進するために実施される。そのためには、対象者が生活する地域の概況や資源についてアセスメントし、地域特性にあった支援を展開する必要がある。本講義では、作業療法に関わる地域特性および社会資源の知識を習得し、地域包括ケアシステムにおける作業療法の役割、他職種との地域連携への展開方法を学ぶ。また、介護保険や障害者総合支援法などの社会制度、フォーマルなサービス・インフォーマルなサポート、バリアフリーについて理解し、障害者(児)・高齢者を含む全ての人の継続した地域生活についての理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における作業療法の取り組みを知ることができる。</li> <li>2. 身近な地域の概況や資源についてアセスメントすることができる。</li> <li>3. 介護保険や障害者総合支援法による障害福祉サービスなどの社会制度の概要が説明できる。</li> <li>4. フォーマルなサービス、インフォーマルなサポートについて説明できる。</li> <li>5. バリアフリーに向けた環境が抱える課題と解決策をフィールド調査を通して説明できる。</li> <li>6. 認知症を理解し、認知症をもつ人やその家族が継続的に地域で暮らすための支援ができる。</li> </ol>		
関連科目	身体障害作業療法学、精神障害作業療法学、高齢期作業療法学、発達障害作業療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	70%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験：定期試験の結果に基づき評価し、正答率6割を単位認定の条件とする。</li> <li>・提出物：提出状況と記載内容より評価する。</li> <li>・学習態度：グループ学習への参加状況より評価する。</li> </ul>
	提出物	20%	
	学習態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①重森健、横井賀津志・編 [2019・4,950円(税込)] 「PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版」 羊土社		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出課題について早めに調査を開始し、事前準備を進めることが重要である。</li> <li>・スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更する場合がある。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	地域リハビリテーション総論 ・地域リハビリテーション/地域作業療法の基本的な考え方 ・自分たちの住んでいる地域の理解	事前：関連資料の確認 事後：配布資料を復習	講義	横山
2	地域作業療法の役割と多職種・当事者連携 ・地域作業療法の役割の理解(予防事業を含む) ・フォーマルサポート/インフォーマルサービスの理解 ・地域リハビリテーションにおける多職種・当事者との連携	事前：地域包括ケアシステムの復習 事後：配布資料の復習	〃	〃
3	介護保険(1) ・介護保険の成り立ち ・障害高齢者、認知症高齢者の日常生活自立度との関係	事前：関連資料の確認 事後：介護保険の成り立ちの復習	〃	坂上
4	介護保険(2) ・申請から実施までの流れ ・サービス内容	事前：関連資料の確認 事後：介護保険の成り立ちの復習	〃	〃
5	地域リハビリテーションの実際(1) ・地域包括支援センターの機能と役割	事前：介護保険の復習 事後：配布資料の復習	〃	本間

6	地域リハビリテーションの実際(2) ・発達障害児・者に対する地域リハビリテーション	事後：配布資料の復習	〃	中島
7	地域リハビリテーションの実際(3) ・精神障害者に対する地域リハビリテーション	事後：配布資料の復習	〃	森元
8	地域リハビリテーションの実際(4) ・認知症をもつ人に対する地域リハビリテーション	事前：認知症についての予習 事後：配布資料の復習	〃	横山
9	障害者総合支援法(1) ・障害者総合支援法の成り立ち ・作業療法士による実践と多職種連携	事前：障害福祉サービスについての予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
10	障害者総合支援法(2) ・申請から実施までの流れ ・サービス内容	事前：障害福祉サービスについての予習 事後：配布資料の復習	〃	〃
11	その他の社会制度 ・障害年金・障害手帳・医療費制度・成年後見制度など	事前：関連資料の確認 事後：配布資料を復習	〃	〃
12	地域での生活と環境 ・社会参加とバリアフリー ・アクセシブルデザイン／ユニバーサルデザイン	事前：生活環境におけるバリアフリーの探索 事後：配布資料を復習	〃	〃
13	身近な生活環境の理解(1) ・地域フィールド調査の企画	事前：社会参加とバリアフリーの資料の復習 事後：地域フィールド調査の企画のまとめ	演習	〃
14	身近な生活環境の理解(2) ・地域フィールド調査の発表(1)	事前：発表準備	〃	〃
15	身近な生活環境の理解(3) ・地域フィールド調査の発表(2)	事前：発表準備 事後：地域フィールドの考察	〃	〃

授業科目	地域作業療法演習	3 学年・後期・2 単位 (60 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	横山和樹 (保健医療学研究棟 E505 号) e-mail : k.yokoyama@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(佐藤和彦)、(平野憲子)、作業療法学科全教員		
概要	地域において全ての人が健康的な生活を維持・促進するための作業療法の実践について演習形式で学習する。主な内容としては、福祉用具、社会資源、住環境整備、家族支援、さらに全ての人の健康行動や介護予防などがある。また、地域教室の企画・実践に関するグループ演習、地域で展開される施設・事業所における実習などを通して、当事者の生活と支援の実態、地域の現場における課題、および作業療法の役割を総合的に理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者・高齢者の生活機能向上、社会参加への支援ができる。</li> <li>2. 福祉用具や住環境整備に関するアドバイスができる。</li> <li>3. 市町村など行政の立場での作業療法士が担うべき役割を知る。</li> <li>4. 地域住民に対する健康維持・疾病予防等に関する教育指導ができる。</li> <li>5. 地域の事業所・施設の実態を把握し、その課題と作業療法の役割とを説明することができる。</li> </ol>		
関連科目	地域作業療法学、日常生活適応学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	40%	筆記試験：定期試験の結果に基づき評価し、正答率6割を単位認定の条件とする。 提出物：レポートの記載内容・提出状況より評価する。 学習態度：グループ学習への参加状況・発表内容より評価する。
	提出物	50%	
	学習態度	10%	
教科書	指定なし		
参考書	①重森健、横井賀津志・編 [2019・4, 950 円(税込)] 「PT・OT ビジュアルテキスト 地域リハビリテーション学 第2版」 羊土社 ②野村歡、橋本美芽、植田瑞昌、西村颯・著 [2021・4, 840 円(税込)] 「OT・PT のための住環境整備論 第3版」 三輪書店		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールはグループ学習の進捗状況等によって変更する場合がある。</li> <li>・5 講目の時間帯を使用する場合があるので、十分に注意すること。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション、地域作業療法の事例	事後：配布資料の復習	講義・演習	横山
2	地域グループ企画 ・地域グループ企画のテーマの立案	事後：地域グループ企画案の提出	〃	〃
3	福祉用具 ・適応と選択, 歩行移動用具	事後：配布資料の復習	〃	〃
4	福祉用具 ・排せ関連	事後：配布資料の復習	〃	〃
5	福祉用具 ・入浴関連	事後：配布資料の復習	〃	〃
6	福祉用具 ・調理関連	事後：配布資料の復習	〃	〃
7	福祉用具展示場の見学・演習	事前：福祉用具について予習	演習	〃

8	〃	事後：福祉用具に関するレポート作成	〃	〃
9	健康増進・介護予防 ・フレイル, サルコペニア予防	事前：フレイル・サルコペニアの概念の予習	講義・演習	〃
10	健康増進・介護予防 ・地域支援	事後：配布資料の復習	〃	〃
11	行政における作業療法士の役割	事前：行政の作業療法についての予習	講義	(佐藤)
12	〃	事前：行政の作業療法についての復習	〃	〃
13	認知症の地域支援	事前：認知症についての予習	講義・演習	横山
14	認知症の家族支援(家族会の立場から)	事前：認知症についての復習	講義	(平野)
15	地域グループ企画 ・グループワーク	事前：地域グループ企画案の確認	演習	横山
16	〃	〃	〃	〃
17	地域グループ企画 ・地域グループ企画の発表	事前：地域グループ企画案の確認と発表の準備	〃	〃
18	〃	〃	〃	〃
19	〃	事後：地域グループの発表の評価	〃	〃
20	住環境整備	事前：住環境整備についての予習	講義	〃
21	住環境整備 ・グループワークによる事例検討	事後：事例検討の資料作成	演習	〃
22	住環境整備に関わる事例検討の発表	事後：配布資料の復習	〃	〃
23	地域施設実習	事前：実習活動計画書作成 事後：実習レポート作成	実習	作業療法 学科全教 員
24	〃	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃	〃
26	〃	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃	〃
28	地域施設実習報告会	事前：発表準備 事後：報告内容の共有	演習	〃
29	〃	〃	〃	〃
30	〃	〃	〃	〃



授業科目	職業リハビリテーション学	3 学年・後期・1 単位 (15 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	池田 望 (保健医療学研究棟 E514 号) e-mail : ikedan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	(重泉敏正)、(川村賢治)		
概要	職業リハビリテーションの理念と意義、および歴史について学ぶとともに、作業療法が現在の職業リハビリテーションにおいて果たす役割と職業リハビリテーションの実際について理解を深める。		
到達目標	1. 職業リハビリテーションの理念や意義を説明できる。 2. 職業リハビリテーションにおいて作業療法が果たす役割を説明できる。 3. 職業評価について概要を説明できる。 4. 障害種別の違いによる職業リハビリテーションの特徴を述べるができる。		
関連科目	作業療法治療学系科目、地域作業療法学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	筆記試験	100%	
教科書	指定なし		
参考書	①日本作業療法士協会監修 [2012・3,000 円] 「作業療法学全書 職業関連活動」 協同医書出版社		
履修上の留意点	グループワークでは主体的に取り組むこと。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	職業リハビリテーションの概念と歴史	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	講義	池田
2	職業リハビリテーションの関連法規と制度	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
3	職業リハビリテーションのプロセス	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	〃
4	職業リハビリテーションにおける評価の概要	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	演習	〃
5	就労支援の実際と職業リハビリテーションにおける評価 1 GATB の使用方法	事前：テキスト予習 事後：テキスト復習	〃	(川村)
6	就労支援の実際と職業リハビリテーションにおける評価 2 GATB の解釈	事前：配布資料の確認 事後：資料の復習	講義	〃
7	就労支援の実際と職業リハビリテーションにおける評価 3 幕張版ワークサンプルの使用	事前：配布資料の確認 事後：資料の復習	〃	(重泉)
8	障害者雇用と相談支援の現状	事前：配布資料の確認 事後：資料の復習	〃	〃

授業科目	保健医療総論 1	1 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	水口 徹 (保健医療学研究棟 E314 号) e-mail : tmizu@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	中村 円 (保健医療学研究棟 E312 号) e-mail : m-nakamura@sapmed.ac.jp
担当教員	長谷川真澄、石井貴男、齊籐正樹、谷口圭吾、山本武志、中村 円、佐々木健史、戸田 創、木村恵美子、齊藤秀和、飯澤良祐、小木曾寛樹、早崎涼太、(大島寿美子)		
概要	保健・医療・福祉における他職種を含む様々な立場の人々と連携・協働できる基礎的能力醸成のため、コミュニケーションの構成要素や活用法、接遇の基本、情報リテラシー(倫理的取り扱い・管理方法)に関する講義やグループワーク、および実際のインタビュー体験を通して、基本的なコミュニケーションの概念と技術、および倫理的態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学習課題の遂行体験を基に、多職種連携の基盤となる基本的なコミュニケーションの重要性を理解し、自己の課題を述べることができる。</li> <li>2. コミュニケーションの構成要素とその特徴を述べるができる。</li> <li>3. 基本的接遇に必要な振る舞い方とマナーを述べるができる。</li> <li>4. 報告、連絡、相談の重要性を述べるができる。</li> <li>5. 自らのコミュニケーションを振り返り、課題を述べるができる。</li> </ol>		
関連科目	人間関係論、文化人類学、心理学概論, 保健医療総論 2・3・4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	各種レポート	90%	各種レポート：担当教員による絶対評価
	学習態度	10%	学習態度：グループワーク・発表会への参加態度、学習への集中度
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	グループを中心とした学習活動となるので積極的に所属するグループに関与されることを期待します。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	本科目の目的・目標、学習内容・方法、履修上の留意事項、医療人にとってのコミュニケーションの重要性を理解し、その技法を学ぶためのオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：講演資料の確認	講義	学部内 全担当教員
2	「人をつなぐ私たちの営み-コミュニケーションについて考える-」に参加する	事前：要項の確認 事後：講演資料の再読	講演	(大島) 中村
3	コミュニケーションに対するイメージの言語化	事前：要項の確認 事後：言語化したイメージの確認	グループ 学習	戸田、 学部内 全担当教員
4	基本的接遇のロールプレイ	事前：要項の確認 事後：ロールプレイ内容のふり返り	〃	〃
5	インタビュー演習のオリエンテーション	事前：要項の確認 事後：オリエンテーション内容の確認	〃	齊藤、 学部内 全担当教員
6	インタビュー演習の企画書の作成	事前：要項の確認 事後：作成した企画書の点検	〃	〃

7	インタビュー演習の実施のためのアポイントメント	事前：基本的接遇のふり返り 事後：アポイント内容の確認	〃	〃
8	インタビュー演習の企画書の精査・点検とインタビュー演習の準備	事前：作成した企画書の確認 事後：企画全体のふり返り	〃	〃
9	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
10	インタビュー演習	事前：企画書内容の点検 事後：録音内容の確認	〃	〃
11	インタビュー演習の内容の確認	事前：要項の確認 事後：インタビュー内容の確認	〃	〃
12	インタビュー演習の内容に基づく報告会準備	事前：要項の確認 事後：報告内容と手順の確認	〃	中村、 学部内 全担当教 員
13	報告会でのプレゼンテーション準備と会場準備	事前：要項の確認 事後：報告内容の最終確認	〃	〃
14	報告会での報告と質疑応答及び意見交換	事前：要項の確認 事後：報告内容のふり返り	〃	〃
15	報告会での報告と質疑応答及び意見交換とレポート提出	事前：要項にて提出物の確認 事後：レポート等の提出	〃	〃

授業科目	保健医療総論2	2 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	山田崇史、中村充雄、木島輝美、秋原志穂、澤田いづみ、松村博文、中村眞理子、澄川真珠子、田畑久江、青柳道子、白井紀子、深川周平、石貫智裕		
概要	介護老人保健施設、介護老人福祉施設、通所系サービスを利用している高齢者と実際にコミュニケーションをとり、対象者の理解に基づいたコミュニケーションの重要性と、保健医療福祉専門職の機能を知ることがを目的とする。さらに、世代や立場が異なる様々な人との関わりから考え方の多様性を理解し、今後の学習活動のレディネスを高める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の生活を支援する場における多職種連携の目的・方法を知ることができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護施設における多職種連携の目的・方法を知ることができる。</li> <li>2) 介護施設と医療施設における多職種連携の共通点と相違点を述べるることができる。</li> </ol> </li> <li>2. 対象者の理解に基づいたコミュニケーションの実践をとおして、その重要性を理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前学習に基づき、加齢による変化や疾病をもつ対象者に配慮したコミュニケーションができる。</li> <li>2) 実習体験をとおして、対象者の特徴に応じたコミュニケーションのあり方を述べるることができる。</li> </ol> </li> <li>3. 対象者と関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を知るとともに、保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を認識できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者に関わる保健医療福祉専門職の種類と役割を述べるることができる。</li> <li>2) 保健医療専門職をめざす学習者としての自己の課題を述べるることができる。</li> </ol> </li> <li>4. 本学習課題の達成という目標に向け、学生・教職員・施設職員で構成される学習チームの一員として主体的かつ協働的に行動できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習チームの一員として、学生メンバーおよび教職員や施設職員と主体的にコミュニケーションできる。</li> <li>2) 世代や立場の異なる人との関わりから、考え方の多様性について述べるることができる。</li> <li>3) 学習課題達成のために、学習チームの一員としての役割を果たすことができる。</li> </ol> </li> <li>5. 対象者の安全・安楽を守り、医療人としての倫理的態度に基づいた行動ができる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象者のプライバシーに配慮し、尊重した態度で接することができる。</li> <li>2) 対象者の安全・安楽を守るために施設職員へ必要に応じて報告・連絡・相談ができる。</li> <li>3) 「実習等における個人情報の取り扱い指針第3版」に基づき記録・情報を適切に管理できる。</li> </ol> </li> </ol>		
関連科目	保健医療総論1、保健医療総論3、保健医療総論4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 個人レポート：記録類の提出状況と内容および演習・実習での発言内容から学習目標の到達度に基づき評価。 学習態度：学内演習並びに施設実習における取り組み態度により評価。 いずれも、ルーブリックを用いて評価を行う。
	個人レポート	60%	
	学習態度	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	正当事由によりやむを得ず遅刻、早退、欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 臨地実習の受け入れ先の都合により、半数の学生は、実施回1-5と6-10を入れ替えた内容となる。 実習の形式が変更になる場合には、事前に周知する。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	学内演習：学習目標1~3に関する事前学習の共有、高齢者疑似体験、動画の視聴、グループ内でのディスカッションを行う。 方法：2~3名の3学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。 内容：コミュニケーション能力を含めた高齢者の特徴、介護	事前：事前課題に取り組む 事後：グループ学習の復習	演習	担当教員 全員

	<p>保険下の施設の特徴、保健医療福祉専門職の種類と役割について、事前学習、高齢者疑似体験、教材動画の視聴を通して、理解を深め、学習内容の共有を図る。また、教材動画の視聴を通じて、介護保険下の施設における感染症予防対策について学習する。</p>			
6-10	<p>臨地実習：高齢者が利用する施設、通所サービスで見学を中心とした実習を行う。</p> <p>方法：1施設2～4名程度のグループ単位で施設職員の指導のもと、臨地実習を行う。</p> <p>内容：施設概要に関する講義の受講ほか、日常業務の観察を通して、多職種連携、感染対策の実際を学ぶ。また、施設利用者とのコミュニケーションの重要性や専門職と施設利用者との関わりを学ぶ。実習終了後に施設内で学習内容を振り返る。</p>	<p>事前：事前課題に取り組む</p> <p>事後：実習記録の作成・提出</p>	臨地実習	〃
11-15	<p>学内演習：これまでの学内演習および臨地実習での学びを統合し、学生間で共有を図る。</p> <p>方法：3～4名の3学科混成グループを編成し、グループ学習を行う。</p> <p>内容：グループで学内演習及び臨地実習での学びを共有し、グループ討議の課題に基づき発表資料を作成する。教室別に報告会を行い、意見交換する。</p>	<p>事後：個人レポートの作成・提出</p>	演習	〃

授業科目	保健医療総論 3	3 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	今野美紀 (保健医療学研究棟 E112 号) e-mail : miki@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	堀口雅美、丹野雅也、坂上真理、中村裕二、浅利剛史、森元隆文、原田由香、田代英之、青木信裕、村川奨、小川賢一、竹内彩弥香、(加藤良和)、(清水兼悦)、(三上孝洋)、(中島純子)、(柿澤雅史)		
概要	チーム医療において他の医療専門職との連携を図る能力を身につけるために、医療機関において他の医療専門職の機能と役割を理解する。本科目における他の医療専門職とは看護師、理学療法士、作業療法士をさす。具体的には、看護学科の学生は理学療法士、作業療法士のいずれかに同行し、理学療法学科および作業療法学科の学生は看護師に同行し、各職種専門性を理解する。他の医療専門職と行動を共にして業務を体験することにより、他の医療専門職の視点から自分の目指す専門職の理解を深めることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療専門職の役割・機能について、施設の機能と関連させた説明ができる。</li> <li>2. 他の医療専門職との同行体験を通して、自分が目指す職業の専門性を説明できる。</li> <li>3. 他の医療専門職との連携に必要な能力について、学内学習および実習を踏まえて自分の意見を述べるができる。</li> <li>4. 医療人としての倫理的態度に基づく行動をとることができる。</li> </ol>		
関連科目	保健医療総論 1, 保健医療総論 2, 保健医療総論 4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	実習状況	45%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習状況評価表と教員評価表(ルーブリック)により評価する。</li> <li>・評価の対象は実習への参加状況、事前学習、グループ学習・報告会への取り組み姿勢、および学習目標への到達状況である。</li> </ul>
	個人学習・グループ学習・報告会・提出物	55%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詳細は、事前オリエンテーションで配付される学習要項で確認する。</li> <li>・COVID-19 感染状況等により、学習方法等を変更する場合がある。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	講義・グループ学習	今野・坂上・浅利・田代・(清水)・(加藤)・(三上)・(中島)・(柿澤)
2	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
3	保健医療総論 3 の主旨 病院実習に対する基本的姿勢について 看護師・理学療法士・作業療法士の業務と専門性について 他職種体験前課題の作成	事前：事前配付資料を読む。事前オリエンテーションで指示された内容の学習 事後：実習施設について調べる。	〃	〃
4	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまと	講義	〃

	ける。	め。施設実習準備		
5	各病棟・部署のオリエンテーション 配置された病棟もしくは部署の施設オリエンテーションを受ける。	事前：実習施設について調べる。 事後：オリエンテーション内容のまとめ。施設実習準備	〃	〃
6	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	実習	今野・坂上・浅利・田代・堀口・丹野・中村・森元・原田・青木・村川・小川・竹内
7	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
8	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
9	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
10	配置された病棟もしくは部署において、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と共に行動して各専門職の業務を体験する。	事前：施設実習の準備 事後：実習記録表の作成	〃	〃
11	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	グループ 学習	〃
12	他職種体験後課題の作成	事前：実習のまとめ 事後：報告会の準備	〃	〃
13	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
14	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃
15	学習目標について学生グループによる報告と質疑応答 全体討論会	事前：報告会の準備 事後：他職種体験実習のまとめを作成	〃	〃



授業科目	保健医療総論 4	4 学年・前期・1 単位 (30 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	城丸瑞恵、渡邊耕太、池田望、宇野智子、田口裕紀子、岡田尚美、井平光、根木亨、横山和樹、植木瞳、中島そのみ、岩本えりか、他		
概要	健康障害を持つ対象へのインタビュー、対象者評価、支援計画の立案を通じて、多職種連携の意義と方法について理解することができる。また、グループ討議に能動的に参加して自職種及び他職種の特性・専門性・役割について考え、その内容についてグループ間で共有して深めることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでの多職種連携に関する知識を踏まえ、異なる専門領域と協働した対象者への実践的なアプローチを通して、多職種による連携の重要性を説明することができる。</li> <li>2. 礼節ある対応をおこない、対象者の安全・安心に配慮できる。また、意図的な情報収集から支援計画を作成する過程において、グループでの合意を見出すために、自分の意見を述べ、相手の意見に傾聴できる。</li> <li>3. 自職種及び他職種の特性・専門性・役割について説明できる。</li> <li>4. 健康障害を持つ対象者へのインタビュー、評価、目標・支援計画の立案を通して、専門職種間でどのように協働して目標を達成するか説明できる。</li> <li>5. 医療人を目指すものとして、真摯な姿勢で学習に参加し、多様な価値観を尊重することができる。</li> </ol>		
関連科目	保健医療総論 1・2・3		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	レポート	60%	レポート評価は項目に沿った記載内容、ルーブリックを通して行う。 活動状況の評価はグループワークでの発言頻度や内容を通じて行う。
	活動状況	40%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	保健医療総論学修ガイドブックを持参すること		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備① ・事前情報を基に疾患の理解、生活状況のイメージを得る	事後：症例の疾病、障害について調べる	講義・演習	担当教員 全員
2	健康障害をもつ人への支援を検討する事前準備② ・インタビュー方法や各学科のアセスメント(評価)方法について学ぶ	事前：アセスメント・ 評価方法について調べる 事後：演習内容を整理する	〃	〃
3	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビュー準備 ・インタビューの内容・方法についてグループで検討する	事前：なし 事後：インタビュー内容の見直し	〃	〃
4	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューの実際 ・対象者に来学してもらい、インタビューを行い、支援に必要な情報を収集する	事前：なし 事後：インタビュー結果の整理	〃	〃
5	健康障害をもつ人への支援を検討するためのインタビューのまとめ ・インタビューを行った内容についてまとめる	事前：なし 事後：まとめたインタビュー内容の整理	〃	〃
6	健康障害をもつ人への支援の検討① ・インタビュー内容から、対象者の全体像を把握する	事前：なし 事後：グループで共有された全体像を	〃	〃



		整理		
7	健康障害をもつ人への支援の検討② ・アセスメント(評価)を行い、支援を必要とする問題点や対象者の利点を明らかにする	事前：なし 事後：対象者の問題点や支援内容に対応する文献を確認する	〃	〃
8	健康障害をもつ人への支援の検討③ ・目標を実現するために必要な支援を討議する	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
9	健康障害をもつ人への支援の検討④ ・支援内容、支援方法を明確にし、具体的な作業を行う	事前：なし 事後：討議された支援内容の根拠を文献から調べる	〃	〃
10	健康障害をもつ人への支援の検討⑤ ・対象者に提示するための準備を行う	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
11	職種の違いによる思考の相違に対する気づき ・グループ討議を通じて、各学科で注目するポイントやアプローチ方法に相違があることに気づき、その背景について考え、相互の職種理解を図る	事前：なし 事後：グループでまとめら支援内容のプレゼン方法について検討	〃	〃
12	健康障害をもつ人への支援内容の発表① ・対象者に来学してもらい、支援内容について発表する	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
13	健康障害をもつ人への支援内容の発表② ・対象者から支援の妥当性、有用性に関するフィードバックを受ける	事前：なし 事後：対象者へプレゼンした際の反応について整理	〃	〃
14	健康障害をもつ人へ提供した支援のまとめ ・対象者からのフィードバックをもとに支援内容の再検討を行う	事前：なし 事後：対象者への支援内容に関する文献検討	〃	〃
15	職種の違いによる思考やアプローチの相違に対する気づきのまとめ ・グループ討議を通じて、他職種の理解とともに自己の職種の特性、専門性、役割について再考し、医療におけるチームアプローチの可能性や重要性について考察する	事前：なし 事後：レポートの作成と提出	〃	〃

授業科目	北海道の生活と健康	1 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	井平光 (保健医療学研究棟 E402 研究室) e-mail : ihira@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	中村裕二、田代英之、深川周平、飯澤良祐、(森山知洋)、(原文宏)、(山崎幸治)、(木村眞司)		
概要	北海道民の保健医療ニーズに応えるためには、北海道特有の社会的状況や環境の健康に及ぼす影響を考慮する必要がある。本講義では、道民の保健・医療、そして生活と相互作用の関係をもつ北海道の歴史と特有の環境(地域の自然、地形、気候、産業、人口、交通)について学習し、多様な観点から北海道における健康・疾病ならびに保健・医療について学習する。		
到達目標	1. 北海道の生活を理解する多様な視点を説明できる 2. 北海道の歴史、自然と環境の概要を説明できる 3. 北海道の生活と健康のつながりを説明できる 4. 北海道の生活を踏まえた医療保健福祉政策を概説できる		
関連科目	地域看護学概論、地域・環境理学療法学、地域作業療法学、地域作業療法学演習		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	50%	提出物は、毎講義ごとのリフレクションカードとする。
	提出物	30%	
	報告会内容	20%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門分野の非常勤講師によるトピックス・バラエティに富んだ構成である。事前に講義に関連する情報をインターネットや本などで収集し、自己の関心事を明確にして参加すること。</li> <li>・フォトボイスという手法を用いて学びの共有を行う。フォトボイスとは、地域に暮らす人々が、健康にかかわる様々な角度から地域の暮らしを見つめ、写真(フォト)に収め、写真が意味していることを言葉で説明する(ボイス) ことによって、示された課題をみんなで討議して、強みの発見や問題提起をしていく手法である。</li> <li>・各講義を聞きながら、北海道の生活と健康のつながりを考える視点を磨き、フォトボイス作成に生かすこと。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション フォトボイスについてガイダンス 北海道の健康課題	事前：北海道の暮らしの特徴を考える 事後：関心事をまとめる	講義 演習	井平・中 村・田代・ 飯澤
2	北海道の気象 北海道の気象プラス一天気と健康を考える一	事前：北海道の気象について情報収集 事後：学びのまとめ	講義	(森山)
3	北海道の交通と産業 北海道の交通と地域づくり	事前：北海道の交通について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(原)
4	北海道の文化・芸術 モノからみたアイヌ文化	事前：アイヌの文化について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(山崎)
5	北海道の文化・芸術 北海道の医療の歴史	事前：札幌大の歴史について情報収集 事後：学びのまとめ	〃	(木村)
6	北海道の暮らしと健康 活動と暮らし	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧 事後：学びのまとめ	〃	井平
7	北海道の暮らしと健康 北海道の健康とまちづくり	事前：北海道保健福祉部および札幌市 保健福祉部の HP 閲覧	〃	深川

		事後：学びのまとめ		
8	フォトボイス報告会	事前：フォトボイスの作成 事後：レポート作成準備	演習	井平・中 村・田代・ 飯澤

授業科目	地域医療合同セミナー1	1 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	磯山 響子 (教育研究棟 7 階 D712) e-mail : isoyamak@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山響子、三原弘、長南行浩、杉村政樹、(相馬仁)、他(地域医療合同セミナー企画運営委員会委員)		
概要	<p>本科目は、医学部との合同カリキュラムである。地域医療を展開する上で必要となる基本的な知識と、パートナーシップを形成する基本的態度を獲得し、北海道が抱える保健医療課題への理解を深める。また、講義、演習、地域医療基礎実習を通じて、地域における多職種連携と地域住民との双方向コミュニケーションを実践的に学ぶ。</p> <p>学科・学部を越えた学生同士のディスカッション、地域保健医療スタッフおよび住民との関わりを通じて、地域の特性や社会的背景、健康課題に関心を持ち、自発的な学修によって深い理解を得ること、他者の受容と共感的態度を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>北海道の地域性、地域に暮らす住民の生活を理解し、地域医療に必要な基本的な知識を獲得する <ol style="list-style-type: none"> <li>北海道地域の人口構造と地域を支える産業構造を説明できる</li> <li>地域の特徴を踏まえ、医療・福祉の関連を説明できる</li> </ol> </li> <li>パートナーシップを形成する基本的態度を身につける <ol style="list-style-type: none"> <li>自己と他者の客観的理解に努めることができる</li> <li>基本的信頼関係を構築できる態度をとることができる</li> <li>基本的なコミュニケーション技能を身につけ、良好なコミュニケーションが取れる</li> </ol> </li> <li>グローバルな視点を身につける <ol style="list-style-type: none"> <li>世界の地域医療の現状と課題を理解し、説明できる</li> <li>世界事情に照らし合わせて、北海道の地域医療の特徴・課題を考え、説明できる</li> </ol> </li> </ol>		
関連科目	北海道の生活と健康		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	その他の評価には、能動的な学修態度や、演習における姿勢・積極性・協調性などを含む。
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>埼玉県立大学 (編) [2006] 「IPW を学ぶ：利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版</li> <li>日本国際保健医療学会 (著) [2013] 「国際保健医療学」 杏林書院</li> <li>日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会 (監修) [2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社</li> </ol>		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療を展開する上で必要な基本的知識と態度を獲得することを目的としているので、講義を聞いて理解するという参加の仕方ではなく、自己学習において自ら情報収集・調査を行ったり、積極的な態度でワークショップ等の演習に参加することが求められる。</li> <li>・事前・事後学習については、各講義の前後に指示を出すことがある。授業内および学生サポートシステムで適宜通知する。</li> <li>・履修学生全員での「現地実習」は本科目では実施しない。参加可能な現地実習があれば、随時案内し参加者を募集する(正課外実習の扱いとなる)</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
-----	-----	---------	----	------

1	コースオリエンテーションとイントロダクション、北海道の地理的特徴と地域医療概論	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	磯山
2	北海道地域の暮らし：北海道地域の生活等に関する基礎知識	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
3	北海道地域医療総論：北海道地域医療の特徴、地域の医療政策について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義	〃
4	他者と関わる技法、チームワーク：他者と関わる技法、チームワークについて演習を通して学ぶ	事後：自身の課題を授業内で明らかにする。	講義・演習	〃
5	北海道地域医療概論：道東の地域医療の特徴と課題、連携と実践例	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	講義・演習	非常勤講師(川本雅樹)
6	地域介入研究紹介：高齢者を対象とした地域介入研究の成果	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(未定)
7	世界の地域医療事情と多職種連携概論：特に多くの地域医療課題を抱える国の事情と多職種連携と実践について	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(浅井悧)
8	事例による多職種連携理解：地域における保健医療福祉連携の実際	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(岩永輝明)
9	地域の健康課題に対する取り組み：道東地区における医療福祉連携と実践	事後：授業内で理解できなかったことを次回までに解決しておく。	〃	非常勤講師(藤田泰)
10	地域医療ワークショップ①	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	講義・演習	磯山・非常勤講師(未定)
11	地域医療ワークショップ②	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
12	地域医療ワークショップ③	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
13	地域医療ワークショップ④	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	磯山・非常勤講師(未定)
14	振り返り・総括① 報告会準備	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	演習	磯山
15	振り返り・総括② 全体報告会	事前・事後：学生サポートシステムより別途通知する	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー2（自由選択）	2 学年・通年・1 単位（30 時間）	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	長南行浩（教育研究棟 7 階 D706） e-mail : y-osanami@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	長南行浩、磯山響子、三原弘、杉村政樹、大浦麻絵、木島輝美、村上孝徳、(相馬仁)、(松永卓也)、(尚和里子)、(西田タ子)、(地域スタッフ)、地域医療合同セミナー企画運営委員会委員		
概要	本科目は医学部との合同カリキュラムである。地域医療合同セミナー1 では、北海道遠隔地域の住民の生活様式、医療事情等を学んだ。本科目は地域医療合同セミナー1 に引き続く内容で、地域における健康課題に焦点を当て、一次予防を実践する。そのためにヘルスプロモーションの概念、ライフステージに関連した健康問題について学修する。北海道の地域課題を探り、健康推進のための方策を計画するプロセスを学ぶ。地域住民(対象は、子供から高齢者)に対して、健康教育を実践する。能動的に地域に深くかかわることにつながる。		
到達目標	<p>1. 地域における健康課題の理解</p> <p>①北海道遠隔地域の地域性にも関連付けて、住民の健康課題について説明できる</p> <p>②北海道地域の保健医療システムを説明できる</p> <p>2. 生活習慣病予防を目的とした課題への対応</p> <p>①地域の健康増進、疾病予防を目的とする活動を説明できる</p> <p>②ヘルスプロモーションの概要と目的を理解し、健康教育を計画できる</p> <p>③共感的態度で、地域住民と接することができる</p> <p>3. 能動的な学修態度の獲得と多職種連携の理解</p> <p>①学習を進めていく上で、および健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の準備の中で自身の課題に気づき、自分の力で解決する方法を見出せる</p> <p>②多職種が有機的に連携し、問題解決をする事例について、自分の言葉で説明できる</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	60%	その他の評価には、学修に対する意欲や姿勢、演習及び実習における積極的な姿勢、チームワークなどを含む。
	成果発表	20%	
	その他	20%	
教科書	指定なし		
参考書	<p>①日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会 合同編集委員会（監修）[2019] 「国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門」 診断と治療社</p> <p>②福田洋、江口泰正(編集) [2016] 「ヘルスリテラシー 健康教育の新しいキーワード」 大修館書店</p> <p>③宮坂忠夫、吉田亨、川田智恵子(著) [2013] 「健康教育論(最新保健学講座)」 メヂカルフレンド社</p>		
履修上の留意点	<p>・地域医療合同セミナー1(1 学年)からつながる内容であるが、地域医療合同セミナー1 を履修していなくても履修は可能である。しかし、地域医療合同セミナー1 の内容を自習で補う必要がある(科目責任者から指示がある)。</p> <p>・事前・事後学習については、適宜、授業内および学生サポートシステムで通知する。</p> <p>実習では、北海道内の諸地域に赴き、地域住民への健康教育(健康教室・メディカルカフェ)を学生が主体となって企画・運営する。日程は随時決定となるが、土日祝日、夏季休暇を含む可能性がある。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション ①教育内容、到達目標、年間計画 ②学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ)の概要説明	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義	長南

2	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ①内科的疾患の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(松永)
3	ヘルスプロモーションの理論と実践① 健康教室の実践例	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(尚和)
4	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ②老化による認知機能低下と病的な低下	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	木島(保健 医療学部 看護学科)
5	特に、高齢者に焦点を当てた健康問題について ③運動機能の老化の特徴	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	村上(医学 部)
6	実習(学生による健康教育セミナー(もしくはメディカルカフェ))オリエンテーション	事後：実習に取り組むための自己学習	講義・演習	長南
7	ヘルスプロモーションの理論と実践② 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(講義)	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	講義・演習	大浦(医学 部)
8	ヘルスプロモーションの理論と実践③ 小児に焦点を当てた生活と健康問題 児童のヘルスプロモーション(演習)	別途通知あり	〃	大浦(医学 部)
9	ヘルスプロモーションの理論と実践④ 介護専門職から見たヘルスプロモーションの在り方	事後：授業内に理解できなかったことを次回までに解決しておく	〃	(西田)
10	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
11	実習準備・リハーサル	事前：実習準備 事後：問題点を明らかにし実習本番に備える	〃	〃
12	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)①	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	実習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
13	実習(健康教育セミナー/メディカルカフェ開催)②	事前：実習準備 事後：実習で得たことを整理しておく	〃	〃
14	実習振り返り	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：報告会準備	演習	地域医療 合同セミ ナー企画 運営委員 会委員
15	報告会(成果発表)	事前：実習で得たことを整理しておく 事後：レポート作成	〃	〃



授業科目	地域医療合同セミナー3 (自由選択)	3 学年・通年・1 単位 (30 時間)	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	三原 弘 (医療人C 教育開発研究部門 教員室 e-mail : h.mihara@sapmed.ac.jp)	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	杉村政樹、磯山 響子(医療人育成センター 教育開発研究部門)		
概要	本科目は、医学部との合同カリキュラムであり、1・2 年次に開講された「地域医療合同セミナー1・2」の積み上げ科目である。北海道の地域医療におけるシステム理解と連携について学ぶと同時に「地域包括ケアシステム」「北海道地域医療構想」についても学修する。「地域密着型チーム医療実習」(正課外)では医学部・保健医療学部の学生が混成チームを組み、モデル地域(根釧地区、留萌地区など)に滞在し、実習を行う。また、地域に在住する住民をケースとして健康づくりにおける支援策を検討する。		
到達目標	<p>学修到達目標(コンピテンシー)は以下のとおりである。</p> <p>1. 「システムに基づいた地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識・態度を習得し支援できる」</p> <p>①北海道が抱える地域医療の課題を理解し、地域における健康課題に対し介入方法を考案できる。  ②地域で暮らす様々な健康レベルにある人、その家族の生活について理解し、支援する方策を考えることができる。  ③地域社会を健康の視点から捉える方法論を説明できる。  ④地域で暮らす人々の健康を支える資源・システムの概要を説明できる。  ⑤ヘルスプロモーションの理念および地域の健康を推進する方策を提示できる。</p> <p>2. 「パートナーシップを形成する基本的姿勢を習得し実践できる」</p> <p>①他者と基本的な信頼関係を構築できる態度を示すことができる。  ②自己の専門性および他職種の役割を認識し、チーム医療の重要性を認識できる。  ③地域で暮らす人々と対話するスキルを習得し、実践できる。  ④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自己の意見を発言することができる。</p> <p>3. 「能動的な学修態度を獲得し実践できる(自己主導型学習)」</p> <p>①小グループでの学習を通じて、チームメンバーと協調しながら自己の意見を述べることができる。  ②課題に対して関心を持ち、能動的に学ぶプロセスを体験し、自己主導型学習を実践することができる。</p>		
関連科目	地域医療合同セミナー1・地域医療合同セミナー2・地域医療合同セミナー4		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考 その他は、主として社会人としての「態度」や演習・実習における「姿勢」「積極性」を重視する。
	レポート	50%	
	成果発表	20%	
	その他	30%	
教科書	①指定しないが「評価方法」の備考を参照すること [***] [***] ***		
参考書	①磯部 光章 [2011] 「話を聞かない医師 思いが言えない患者」 集英社(新書) ②中根 晴幸 [2016] 「次代を担う医療者のための地域医療実践読本」 幻冬舎 ③自治医科大学(監修) [2009] 「地域医療テキスト」 医学書院 ④里見 清一 [2015] 「医者と患者のコミュニケーション論」 新潮社(新書) ⑤厚生統計協会 [最新号] 「国民衛生の動向」 厚生統計協会		
履修上の留意点	【予習】 ・地域において患者ケアに参加し得る医療資源と専門職を医療・看護・介護の面から調査すること。		



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療チームにおける各職種の役割を理解すること。</li> </ul> <p><b>【復習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で得られた知識・経験をまとめ、ふりかえりや報告会発表に反映させること。</li> </ul> <p><b>【その他】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域医療合同セミナー1 および2」を受講してきた学生は本科目の受講を勧める。</li> <li>・実習の準備および実践は一部のメンバーだけに任せないこと。グループ全員が行い知識を共有する必要がある。(演習参加への姿勢・態度についての評価の比重が高いため留意すること)</li> <li>・「定型的」な教科書は指定しないが、北海道保健福祉部のホームページ内の「北海道地域医療構想」のサイトを随時参照されたい。</li> <li>・COVID-19 の状況により、シラバスの変更を行うことがある。その場合は、あらかじめ履修学生に提示・説明するものとする。</li> </ul>
--	--

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	コースオリエンテーション	事前：地域医療総論、事後：各自の課題検討	講義	三原・杉村
2	システムとしての地域医療 (1)	事前：地域医療と行政、地域医療を構成する職種、事後：各自の課題検討	講義	杉村
3	システムとしての地域医療 (2)	事前：医療計画・医療連携、事後：各自の課題検討	講義	三原
4	システムとしての地域医療 (3)	事前：保健制度概要、地域医療構想、事後：各自の課題検討	講義	杉村
5	システムとしての地域医療 (4)	事前：地域包括ケアシステム、事後：各自の課題検討	〃	〃
6	医療面接導入	事前：医療面接と患者コミュニケーション、事後：各自の課題検討	演習	三原
7	地域の安心安全を守る医学	事前：地域における予防医学、事後：各自の課題検討	〃	〃
8	患者との対話ワークショップ (1)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	演習	寺田
9	患者との対話ワークショップ (2)	事前：Narrative Based Medicine (MBM)・パラレルチャート、事後：各自の課題検討	〃	〃
10	北海道の地域医療を学ぶ (1)	事前：北海道における地域医療 (道北)、事後：各自の課題検討	講義・演習	三原
11	北海道の地域医療を学ぶ (2)	事前：北海道における地域医療 (道東)、事後：各自の課題検討	〃	〃
12	北海道の地域医療を学ぶ (3)	事前：北海道における地域医療 (道南)、事後：各自の課題検討	〃	〃
13	北海道の地域医療を学ぶ (4)	事前：北海道における地域医療 (札幌)、事後：各自の課題検討	〃	〃
14	地域医療における医療面接	事前：地域医療における患者中心の医療面接、事後：各自の課題検討	演習	〃
15	課題発表会・質疑応答	事前：課題発表会・質疑応答、事後：振り返りレポート	〃	〃

授業科目	地域医療合同セミナー4（自由選択）	4 学年・前期・1 単位（30 時間）	
		全学科	自由選択

科目担当責任者	杉村 政樹（教育研究棟7階 D709） e-mail : sugimura@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	磯山 響子(医療人育成センター教育開発研究部門)		
概要	<p>本科目は、保健医療学部と医学部の合同カリキュラムで、1、2、3年次にそれぞれ開講された「地域医療合同セミナー1～3」の積み上げ科目である。前年まで学んだ地域医療合同セミナー(地域実習を含む)での学習体験をまとめるとともに、一般住民を相手に発表を行う機会を設ける。地域医療課題に解決に向けた提言などが盛り込まれることを期待する。</p> <p>なお、本科目は「自由選択科目」、かつ、演習・活動時間が「正課外」となることに留意されたい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域医療を展開するために必要とされる基本的な知識を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①地域で健康課題を持つ人の生活について、課題を明らかにし説明し、対応策を検討できる。</li> <li>②地域で暮らす人々の健康を支える資源の活用を説明できる。</li> <li>③地域社会を健康の視点から捉え、現状の課題とあるべき姿を説明できる。</li> <li>④北海道が抱える地域医療の課題とあるべき姿を説明できる。</li> </ol> </li> <li>パートナーシップを形成する基本的態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①基本的信頼関係を構築し、コミュニケーションが取れる。</li> <li>②自己の専門性および他職種の役割を理解したうえで、良好なコミュニケーションを取り、適切な連携ができる。</li> <li>③医療者として必要な能力の上に地域住民と適切に対話できる。</li> <li>④地域医療におけるパートナーシップのあり方について自分の意見がもてる。</li> </ol> </li> <li>能動的な学習態度を獲得する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>①チームメンバーと協働しながら積極的に自己の意見を述べるができる</li> <li>②課題に対して関心をもって取り組み、新たな自己の課題を発見できる。</li> </ol> </li> </ol>		
関連科目	地域医療合同セミナー1、地域医療合同セミナー2、地域医療合同セミナー3		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	レポート	40%	
	成果発表	50%	
	その他	10%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目は、原則「地域医療合同セミナー1,3」(1,3年次)、「医学概論・医療総論3B(地域密着型チーム医療実習)」(3年次)を受講した学生が対象となる。</li> <li>・4月中に詳細予定を決定し、連絡する。</li> </ul> <p>参考書は講義内で紹介する。</p>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	オリエンテーション(地域医療合同セミナーの教育目的、地域医療合同セミナー4の進め方について)	事前：なし 事後：講義で不明な点を明らかにし、各自で解決する	講義	杉村・磯山
2	グループ作成と活動計画	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り、次回に向けて考えおく	講義・演習	〃

3	成果発表の準備1 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	演習	〃
4	成果発表の準備2 ・グループ単位で、地域医療合同セミナー1～3での学体験を振り返り、まとめる	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
5	成果発表の準備3 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
6	成果発表の準備4 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
7	成果発表の準備5 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(テーマの選定、発表スライドの作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
8	成果発表の準備6 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
9	成果発表の準備7 ・第三者(一般市民)に向けた発表の準備(配布資料の作成)	事前：なし 事後：グループで話し合った内容を振り返り、次回に向けて考えおく	〃	〃
10	成果発表の準備8 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
11	成果発表の準備9 ・発表の予行	事前：予行に備え準備する 事後：予行を振り返り、修正する	〃	〃
12	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
13	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
14	成果発表(学習体験を自身の言葉で第三者(一般市民)に対してわかりやすく説明する)	事前：なし 事後：成果発表に参加した市民の声を振り返り、今後に生かす	〃	〃
15	振り返り	事前：なし 事後：学生個人で全体を振り返る	〃	〃

授業科目	自主課題実践	1-4 学年・前期・後期・1 単位 (45 時間)	
		全学科	選択

科目担当責任者	仙石泰仁 (保健医療学研究棟 E508 号) e-mail : sengoku@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	今野美紀		
概要	大学における学習は学内で行われる授業に限定されるものではない。私たちが生活する地域・社会の諸課題に関心を持ち、1 人の人間として意図的に課題に向き合うことで一定の解答が得られる場合もある。本科目は、教育課程に含まれないボランティアや調査研究のように、学生自身が創造的に取り組む主体的活動の教育的意義を評価するために設けられたものである。個々の学生が現実社会の中から課題を設定し、活動計画を立てて行動に移し、その経過と結果を振り返ることにより、社会に内在する諸問題の改善・改革に向けた方向性を検討し、社会的存在である自身の担う役割を考察する。自主的活動を通じて何を学び、事前の情報収集や計画立案、振り返りやディスカッションを通して知を深め、学習としての成果が認められた場合に単位を認定する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の諸課題の中から、興味関心のあるテーマを設定する。</li> <li>2. テーマに即して情報収集を行い、学内外の活動に関する計画を立てる。</li> <li>3. 立案した計画に基づき、学内外での活動を行う。</li> <li>4. 日々の活動を振り返って言語化し、活動終了後には一連の過程を評価する。</li> <li>5. 学生同士及び担当教員とのディスカッションを通して、自主課題研究として取り組んだ学びの意味を考察する。</li> </ol>		
関連科目	保健医療総論 1、保健医療総論 2		
評価	評価対象	評価割合 (%)	備考
	実施計画	30%	
	実施報告	40%	
	レポート	30%	
教科書	指定なし		
参考書	指定なし		
履修上の留意点	自ら計画を立て、実施し、報告を行うことが求められるため、主体的な行動が求められる。		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心のあるテーマの設定</li> <li>・テーマに関する情報収集と分析</li> <li>・活動計画の立案</li> </ul>	事前: 興味・関心のあるテーマについての事前調査 事後: 事前調査の整理	自主活動	仙石・今野
6-40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画に沿った展開</li> <li>・活動中は各回の活動報告書を記載する。</li> </ul>	事前: 活動計画の見直し 事後: 計画と実施内容の振り返り	自主活動	仙石・今野
41-45	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を学んだか」をテーマにしたレポートを作成</li> </ul>	事前: 活動内容のまとめ 事後: 活動内容の振り返り	自主活動	仙石・今野

授業科目	キャリアデザイン	3 学年・前期・1 単位 (15 時間)	
		全学科	必修

科目担当責任者	長谷川真澄 (保健医療学研究棟 E305 号) e-mail : m-hasegawa@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	岩本えりか、齊藤秀和、木村恵美子、(杉浦真由美)、(高橋文香)、(加藤拓也)、(三上裕貴)		
概要	医療を取り巻く環境が変化していく中で、専門職に求められる役割や、能力を発揮できる場面も多様化してきている。本授業では、人間性豊かな医療人になるためのキャリアデザインに関する理論を学ぶほか、医療現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得する。さらに、現場で活躍する方々との対話を通して、自身のキャリアデザインについて考える機会とする。		
到達目標	1. キャリアデザインに関する理論を述べることができる。 2. 医療や介護の現場で学ぶ際に求められる接遇とコミュニケーションスキルを修得することができる。 3. 自身のキャリアプランを立案し、発表できる。		
関連科目	看護学概論、看護政策、理学療法概論、理学療法管理・政策学、作業療法概論、作業療法管理学		
評価	評価対象	評価割合(%)	備考
	授業・ワークの参加度	30%	授業・ワーク：グループ学習の参加状況、質問や発言の状況 リフレクションシート：リフレクションシートの提出状況・内容 キャリアプラン：キャリアプランの発表内容、最終レポート
	リフレクションシート	40%	
	キャリアプラン	30%	
教科書	指定なし		
参考書	①山崎京子、平林正樹 [2018] 「未来を拓くキャリア・デザイン講座」 中央経済社 ②濱田安岐子 [2018] 「看護師のためのキャリアデザイン BOOK」 つちや書店		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークを中心とした授業となるため、主体性・能動性が必要となります。</li> <li>遅刻はワークに影響を及ぼすため厳禁です。</li> </ul>		

実施回	内 容	事前・事後課題	形態	担当教員
1	ガイダンス キャリアデザインとは	事後：リフレクションシート	講義 ワーク	長谷川・岩本・齊藤
2	キャリア理論 ①	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	(杉浦)
3	キャリア理論 ②	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
4	医療現場で求められる接遇とコミュニケーション	事前：授業内で指示 事後：リフレクションシート	〃	〃
5	キャリアデザイン：キャリアプランを立案する	事前：キャリアプラン立案準備 事後：リフレクションシート	ワーク	岩本・齊藤・木村・長谷川
6	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ①	事前：授業内で指示	講義	(高橋)・(加藤)・(三上)・齊藤・岩本・木村・長谷川
7	現場で活躍する方々からキャリアデザインを学ぶ ②	事後：リフレクションシート	〃	〃

8	キャリアデザイン：キャリアプランを発表する	事前：キャリアプラン発表準備 事後：リフレクションシート	発表	岩本・齊 藤・木村・ 長谷川
---	-----------------------	---------------------------------	----	----------------------

授業科目	臨床実習 1	1 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中島 そのみ (保健医療学研究棟 E509 号 ) e-mail : sonomi@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	早崎涼太、作業療法学科教員全員		
概要	実習指導者のもとで臨床場面における作業療法の実際について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床場面における作業療法と作業療法士の果たす役割を学ぶ。</li> <li>2. 作業療法士の勤務する施設の機能の概要を把握する。</li> <li>3. 保健医療従事者のあり方を知る。</li> </ol>		
評価	臨床実習指導者による評価(70%)、大学におけるセミナー評価(30%)		
履修上の留意点	<p>実習前オリエンテーション、事前学習、学内セミナーは必ず出席すること。</p> <p>原則として、遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず実習先及び大学へ連絡すること。</p> <p>将来の保健医療従事者として責任ある行動をすること。</p>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	臨床実習施設にて実習指導者のもと、見学と観察を主体とした実習を行う。
実習期間	1月下旬から5日間(臨床実習施設での実習を4日間、大学での実習の振り返りとまとめを1日)
実習場所	札幌医科大学附属病院など、身体障害、精神障害、発達障害、高齢者領域の施設から1施設
実習時間	基本的に9時～17時。ただし、実習場所に応じて変更がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法実践の観察</li> <li>2. デイリーノート作成</li> <li>3. 大学でのグループディスカッションとセミナーでの検討資料準備</li> <li>4. 大学でのセミナー発表と討論</li> </ol>

授業科目	臨床実習 2	2 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村充雄 (保健医療学部棟 E502 号) e-mail : micchan@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	太田久晶、中村裕二、森元隆文、他作業療法学科教員(病院・施設引率教員)		
概要	2 年後期に開講されている作業療法評価学 2 で学んだ評価技術を臨床で実践する。患児(者)を対象とした反応・反射・検査、面接・観察を実際に体験する。そして、検査・測定、面接・観察で得られた結果の解釈を行う。		
到達目標	作業療法評価・検査の流れ(進め方)を説明することができる。 検査・測定、面接・観察の意義を説明できる。 検査・測定、面接・観察を対象者に実施することができる。 検査場面の映像を視聴することによって結果を解釈できる。 検査・測定、面接・観察を実施する際の注意点・リスク管理を遵守できる。 検査・測定、面接・観察において患児(者)の特徴を理解できる。		
評価	評価は原則本学教員が実施する。学生が作成する評価報告書の内容により評価する。 実習の実施状況(70%)、評価報告書(30%)。評価にはルーブリック評価を用いる。		
履修上の留意点			

内 容 ・ 方 法	
実習方法	身体障害領域、精神障害領域、発達障害領域の各臨床実習施設にて実習を行う。 学生は臨床実習施設において担当教員・実習指導者の指導のもと、個々に以下の実習を行う。 4 名-5 名で 1 グループを構成し、施設にて実習を行う。 実習は 2 年後期に開講されている作業療法評価学 2 が終了したのちに実施する。 週 1 回の頻度で 5 回にわけて実施する。 臨床実習施設にて基本的な評価方法を試みる機会を得る。 原則大学教員引率型とするが、各施設で学生を 2 グループに細分した場合臨床実習指導者・臨床教授等の協力を得て実施する。
実習期間	2 年後期：作業療法評価学 2 の終了後に実施する。12 月末から 2 月末まで(予定)
実習場所	臨床実習施設に登録されている身体障害・精神障害・発達障害領域施設で実施する。
実習時間	9 時から 18 時まで(実習時間 8 時間)とする。ただし、実習施設によって変更する場合がある。 臨床実習施設での検査・評価以外に、指導者からのフィードバック学習も含み 45 時間を実習として行う。
実習内容	各実習施設における特徴的な疾患を対象として、実習指導担当教員・実習指導者の指導のもと適切な検査手技を実施する。 ①身体機能検査・精神機能検査に分かれ、以下の検査・測定項目について評価を見学・模倣(体験)する。 <b>【身体機能評価】-身体障害高齢期・発達障害領域-</b> 1) 関節可動域測定 (身障・発達) 2) 腱反射・病的反射 (身障・発達) 3) 原始反射 (発達) 4) 感覚検査・姿勢評価・垂脱臼・変形・拘縮他 (身障・発達) 5) 筋力評価(握力・ピンチ力・MMT 等) (身障) 6) 筋緊張評価 (身障・発達) 7) バランス評価(静的/動的・座位/立位) (身障) 8) 上肢機能評価(STEF 等) (身障) 9) 高次脳機能検査 (身障) 10) 動作分析 (身障・発達) <b>【精神機能検査】-精神障害領域-</b>



- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>1) 行動観察</li><li>2) 面接</li><li>② デイリーノート(評価結果の記載)の作成</li><li>③ フィードバック学習を行い、検査手技の確認、正常値との比較、評価を実施する。</li></ul> |
|--|---|

授業科目	臨床実習 3	3 学年・後期・2 単位 (90 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	森元隆文 (保健医療学研究棟 E501 号) e-mail : takamori@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	齊藤秀和、作業療法学科教員		
概要	身体障害、精神障害、発達障害、高齢期いずれかの病院、施設の作業療法部門において、評価を主体とした実習を行う。学生は各専門領域の講義で学んだ疾病や障害のメカニズムおよび評価法に関する基本的知識を基に、評価計画の立案、評価の実施、結果の統合と解釈を実際に経験する。さらに、サマリーシート等の作成、実習セミナーにおける発表と質疑応答を通して実習経験を共有するとともに作業療法評価に関する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の状況に合った情報収集や検査、測定を計画的に立案し実施できる。</li> <li>2. 対象者の社会的背景や、病院、施設での他部門との関わり方およびチームアプローチに留意できる。</li> <li>3. 評価結果と分析内容を明瞭に記録することができる。</li> <li>4. 評価結果を統合、解釈して対象者のニーズや利点・問題点を焦点化できる。</li> <li>5. 作業療法の短期および長期目標を設定することができる。</li> <li>6. 作業療法に求められる役割を理解することができる。</li> </ol>		
評価	実習の実施状況を 70% とし、サマリーシート等の発表資料の内容および口頭による報告内容を 30% とする。それぞれの評価結果を合計して本科目の評定を行う。		
履修上の留意点	事前にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。 原則として、遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず実習先および大学へ連絡をすること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	<p>学生は実習施設において実習指導者の指導の下、個々に以下の実習を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当症例の疾患や障害状況の把握に必要な情報収集や検査測定の方法と手順に関する評価計画を立案する。</li> <li>2. 評価計画に沿って情報収集、検査測定、観察評価を実施する。</li> <li>3. 収集したデータを統合、解釈し、障害の要因や構造を理解する。</li> <li>4. 作業療法で対応すべき対象者のニーズを把握した上で、総合的な視点から利点・問題点を抽出、整理し、治療目標を検討する。</li> </ol>
実習期間	9 月下旬から 10 月上旬の 2 週間(予定)
実習場所	札幌医科大学附属病院、定山溪病院、旭山病院、済生会みどりの里、他
実習時間	9 時から 17 時までとする。ただし、実習場所に応じて変更がある。
実習内容	<p>上記実習方法に基づき実習を遂行し、課題として以下を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デイリーノートの作成。</li> <li>2. 担当事例に関する報告書(ケースノート等)の作成。</li> <li>3. サマリーシート等の作成および報告会での発表(各領域の専門科目における症例検討を含む)。</li> </ol>

授業科目	総合臨床実習 1	4 学年・前期・7 単位 (315 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村裕二 (保健医療学研究棟 E503 号) e-mail : yujin@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科教員全員		
概要	3 年次までに学習した作業療法の知識と技術を用い、3 領域(身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか)の臨床実習指導者の指導のもとで、それぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。具体的には、作業療法対象者 1～2 名を臨床実習指導者の指導の下で補佐として担当し、作業療法過程の評価から治療に至る一連のプロセスを経験する		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の対象者に対して、適切に作業療法プロセスを実施できる。</li> <li>2. 臨床の場で適切に作業療法を実施するための基本的な知識と技術を習得する。</li> <li>3. 臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告することができる。</li> </ol>		
評価	臨床実習指導者による評価(70%)と、教員による大学でのセミナー報告内容の評価(30%)を総合し判定を行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は事前連絡する。</li> <li>・詳細は事前配布する「実習要項」で確認する。</li> <li>・総合臨床実習実施に当たっての事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。</li> </ul>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	臨床実習施設での臨地実習。身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか 3 領域で、実習指導者の指導のもとそれぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。臨地実習終了後、大学で実習で経験した作業療法プロセスをセミナー形式で発表する。
実習期間	4 月～5 月の間で 6 週間の実習と 1 週間の大学でのセミナーを行う。
実習場所	未定
実習時間	基本的に 9:00～17:00 である。ただし実習施設の就業時間や学習状況により変化する。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習施設の概要や各関連職種の仕事内容を把握する。</li> <li>2. 対象者に対する作業療法評価および治療目標の設定、治療計画の立案を行う。</li> <li>3. 対象者に対する作業療法を実施する。</li> <li>4. 作業療法の実施経過のまとめと再評価に基づいた効果の検討を行う。</li> <li>5. 6 週間の作業療法プロセスをサマリー等にまとめ、セミナーでの検討資料の作成を行う。</li> <li>6. 大学でセミナー発表と討論を行う。</li> </ol>

授業科目	総合臨床実習 2	4 学年・前期・7 単位 (315 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村裕二 (保健医療学研究棟 E503 号) e-mail : yujin@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科教員全員		
概要	3 年次までに学習した作業療法の知識と技術を用い、3 領域(身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか)の臨床実習指導者の指導のもとで、それぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。具体的には、作業療法対象者 1～2 名を臨床実習指導者の指導の下で補佐として担当し、作業療法過程の評価から治療に至る一連のプロセスを経験する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の対象者に対して、適切に作業療法プロセスを実施できる。</li> <li>2. 臨床の場で適切に作業療法を実施するための基本的な知識と技術を習得する。</li> <li>3. 臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告することができる。</li> </ol>		
評価	臨床実習指導者による評価(70%)と、教員による大学でのセミナー報告内容の評価(30%)を総合し判定を行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は事前連絡する。</li> <li>・詳細は事前配布する「実習要項」で確認する。</li> <li>・総合臨床実習実施に当たっての事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。</li> </ul>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	臨床実習施設での臨地実習。身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか 3 領域で、実習指導者の指導のもとそれぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。臨地実習終了後、大学で実習で経験した作業療法プロセスをセミナー形式で発表する。
実習期間	6 月～7 月の間で 6 週間の実習と 1 週間の大学でのセミナーを行う。
実習場所	未定
実習時間	基本的に 9:00～17:00 である。ただし実習施設の就業時間や学習状況により変化する。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習施設の概要や各関連職種の業務を把握する。</li> <li>2. 対象者に対する作業療法評価および治療目標の設定、治療計画の立案を行う。</li> <li>3. 対象者に対する作業療法を実施する。</li> <li>4. 作業療法の実施経過のまとめと再評価に基づいた効果の検討を行う。</li> <li>5. 6 週間の作業療法プロセスをサマリー等にまとめ、セミナーでの検討資料の作成を行う。</li> <li>6. 大学でセミナー発表と討論を行う。</li> </ol>

授業科目	総合臨床実習 3	4 学年・前期・7 単位 (315 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	中村裕二 (保健医療学研究棟 E503 号) e-mail : yujin@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	作業療法学科教員全員		
概要	3 年次までに学習した作業療法の知識と技術を用い、3 領域(身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか)の臨床実習指導者の指導のもとで、それぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。具体的には、作業療法対象者 1～2 名を臨床実習指導者の指導の下で補佐として担当し、作業療法過程の評価から治療に至る一連のプロセスを経験する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法の対象者に対して、適切に作業療法プロセスを実施できる。</li> <li>2. 臨床の場で適切に作業療法を実施するための基本的な知識と技術を習得する。</li> <li>3. 臨床の場で実施した作業療法プロセスを適切にまとめ報告することができる。</li> </ol>		
評価	臨床実習指導者による評価(70%)と、教員による大学でのセミナー報告内容の評価(30%)を総合し判定を行う。		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は事前連絡する。</li> <li>・詳細は事前配布する「実習要項」で確認する。</li> <li>・総合臨床実習実施に当たっての事前オリエンテーションを行うので必ず出席すること。</li> </ul>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	臨床実習施設での臨地実習。身体障害・精神障害・発達障害・高齢期障害いずれか 3 領域で、実習指導者の指導のもとそれぞれ 6 週間の作業療法臨床を実際に経験する。臨地実習終了後、大学で実習で経験した作業療法プロセスをセミナー形式で発表する。
実習期間	8 月～9 月の間で 6 週間の実習と 1 週間の大学でのセミナーを行う。
実習場所	未定
実習時間	基本的に 9:00～17:00 である。ただし実習施設の就業時間や学習状況により変化する。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習施設の概要や各関連職種の業務を把握する。</li> <li>2. 対象者に対する作業療法評価および治療目標の設定、治療計画の立案を行う。</li> <li>3. 対象者に対する作業療法を実施する。</li> <li>4. 作業療法の実施経過のまとめと再評価に基づいた効果の検討を行う。</li> <li>5. 6 週間の作業療法プロセスをサマリー等にまとめ、セミナーでの検討資料の作成を行う。</li> <li>6. 大学でセミナー発表と討論を行う。</li> </ol>

授業科目	臨床実習 4	4 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	坂上真理 (保健医療学研究棟 E510 号) e-mail : todo@sapmed.ac.jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員	横山和樹、早崎涼太、作業療法学科教員全員		
概要	訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを提供する施設において、見学、観察を主体とした実習を行う。学生は、地域在住の当事者の生活、および支援の実態を総合的に学習する。その上で、地域生活の支援のために作業療法士が提供している内容について、包括的な生活機能の支援、多職種並びに関係機関との連携やマネジメント、地域の社会資源の活用という視点から学ぶことを目的とする。この他、作業療法士が参画する地域支援事業の内容と、その事業における作業療法士の役割について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習経験に基づき、地域生活を送る当事者の生活ニーズと支援環境を説明できる</li> <li>2. 訪問/通所リハビリテーション事業所における作業療法の目的、アセスメント、支援の内容を説明できる</li> <li>3. 訪問/通所リハビリテーション事業所における作業療法士の機能・役割を説明できる</li> <li>4. 多職種、関係機関、インフォーマルサービスとの連携やマネジメントの方法を説明できる</li> <li>5. 作業療法士が参画する地域支援事業の内容と、その事業における作業療法士の役割を説明できる</li> </ol>		
評価	実習の実施状況(70%)、大学における事前事後学習とセミナー参加状況(30%)とする。		
履修上の留意点	事前オリエンテーションには必ず出席すること。 原則として、遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず実習先および大学へ連絡をすること。		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	訪問/通所リハビリテーションを提供する臨床実習施設において、見学と観察を主体とした5日間の実習を行う。さらに、大学内にて事前事後学習とセミナー(実習の振り返りと報告)を行う。
実習期間	10月上旬から中旬の5日間
実習場所	訪問リハビリテーション、または通所リハビリテーションを提供する事業所。
実習時間	9時から17時までとする。ただし、実習場所に応じて変更がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床実習指導者のもとで以下の見学と観察を主体とした実習を行う <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問/通所リハビリテーションにおける作業療法士のアセスメントと支援活動</li> <li>2) 訪問/通所リハビリテーションで行われている管理運営業務</li> <li>3) 多職種並びに関係機関、インフォーマルサービスとの連携やマネジメント業務</li> <li>4) 作業療法士が参画する地域支援事業としての諸活動</li> </ol> </li> <li>2. 大学内で事前事後学習としてレポートを作成し、セミナーにて実習経験の振り返りと報告を行う</li> </ol>